

# 『モロッコのベルベル語による民族誌的語り』刊行に寄せて

堀内里香

2017年12月

## 目次

### はじめに

第1章 1990年：文法書

第2章 1991年：語彙調査

第3章 1992年：勉強を続ける

第4章 シルハ語の辞書

第5章 日本語訳の方法

第6章 シルハ語および関係する文献分類

①18世紀末から19世紀半ば ②19世紀半ばから20世紀

③20世紀初頭から20世紀半ば ④独立から現在まで

第7章 文字表記(1)

①英語アルファベット ②アラビア語アルファベット

第8章 文字表記(2)：ティフィナグ文字アルファベット

第9章 盾

第10章 元の本の重要性(1)：完璧なシルハ語文法と類を見ない総頁数

第11章 元の本の重要性(2)：誰の話を聞いたのかを記したこと

第12章 日本語訳の重要性：感情移入されない日本語訳につとめたこと

補足 (1) 用語の説明

補足 (2) 人名

参考文献リスト

表

付属資料 第1巻の途中までの語彙

## はじめに

本稿は、『モロッコのベルベル語による民族誌的語り』の日本語訳の元になった本である中野暁雄著『Ethnographical Texts in Moroccan Berber (I) (2) (3) (Dialect of Anti-Atlas)–*Studia Berberi (I) (II) (III)*』を学問的に位置づけることによって、日本語訳の意義を伝えるものである。元の本の内容を補足する注の働きはない。中野暁雄の研究全般を解説するものでもない。本稿は、元の本の研究成果が他の研究者の文献と比較して、明らかにすぐれているとする点を3つあげて結論とした。結論の3つのキーワードは、1は他の文献にない「分量」、2は「誰の」を記したこと、3は「感情移入」である。

本稿は12章からなっている。日本語訳の経緯を1～5章に、元の本の研究の位置づけとして、過去に出版された文献の全体像を6章に、7～9章にはシルハ語などを表記する文字について書き、10～12章に結論、さらに補足（1）として用語の説明情報、補足（2）として人名の情報、最後に参考文献リスト、表という構成になっている。巻末に、第1巻2章の途中までの語彙約1,200語を付けた。

## 第1章 1990年：文法書

日本語訳を出す経緯をどう話したらいいか考えると、少し話が長くなるが、そもそもの中野先生との出会いからお話した方がよいと思う。その方が、いきさつを含めてお伝えできるし、日本語訳がどのような形で出来ていったのかも分かってもらえて好都合である。ただ、私の出産成長記録のような冗長な話になってしまふけれど、どうかご了承ください。

中野暁雄先生に初めてお会いしたのがいつだったのかを思い出すためには、私はちょうどその頃に、結婚と、出産が立て続けにあったから、私が妊娠する前だったのか、妊娠していたか、出産後だったかを思い返さなければならない。モロッコ留学から帰国して結婚し、最初の子どもを妊娠して出産したのが1988年、私が二十六才の時だった。中野先生に会ったのは春頃だったはずだから、1988年の春だとしたら私はつわりのまっただ中で到底無理だし、翌年の1989年の春は第一子を出産した直後で、そんな慌ただしい年ではなかつたはずだ。とすると、さらにその一年後、子どもが一才になった年で、私が大学院に入学した1990年の春だったと思う。

その頃、結婚と子どもを授かった夫は就活中で、出入りしていた大学か学会で中野先生がベルベル語の授業をやるらしいという情報を持って帰ってきて、私に伝えてくれた。モロッコ留学中にすでに独自に現地でベルベル語の手ほどきを受けていた私は継続してやりたいと思っていた矢先だったから、すぐに東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所にでかけた。今の保育園事情と同じように当時も保育園入園は激戦で、相談に行った杉並区の区役所の担当者の方はとても親身になってくれたのだけど、私のような学生の身分では保育園入園の緊急性が低いと見なされて空席待ちの順番が二桁の末尾に並ぶことになってあきらめた。やむなくこの時は、就活中の夫に子どもを預けて研究所に出かけることにした。

アジア・アフリカ言語文化研究所の一室に東京近郊の大学院生が集まっていた。中野先生は、シルハ語の文法書（Aspinon 1953）を使って月に二回ぐらいだったと思うが勉強をした。東京外国語大学の正規の授業ではなく、アジア・アフリカ言語文化研究所の正式な研究会というものでもなく、あくまでも中野先生のご好意で始められたシルハ語の手ほどきをしてもらう勉強会だった。そして一年後、シルハ語の文法書を最後まで読み終えた頃には、机をコの字型に配置した会議室に数名いた学生は、最後には私を含めて確か二人にまで減っていた。

文法書の終了という区切りと、生徒が一人になつたら止めるとかねてから宣言していた先生は、おそらくここで終えるつもりだったと思う。一方、私は、勉強会に参加した年と同じ年に立教大学大学院フランス文学科に入学しておきながら、フランス文学者のヴァレ

リーからシルハ文法のアスピノンに転向というかシルハ語の興味の方が増していって、勉強会で終了したばかりの文法書の語彙調査にでかけることにしたのだった。1991年のことだ。

## 第2章 1991年：語彙調査

1991年は最初の子どもがまだ二才になる直前で、子どもを連れてモロッコへ調査に行くことは無理だった。大学院に入学したのは1990年で保育園の空きがないという話はすでにしたが、それでは大学院に通えない（フランス文学科が子連れで通えないなんて、と教授に文句を言った）。苦肉の策で、都内よりは保育園の空きがあり私の母が住む、埼玉県の保育園に越境入園するという方法をとった。朝、子どもを連れて都内から下りの電車に乗って埼玉県に行って駅まで迎えに来ている母に託して、私はそのまま上り電車に乗って、大学院か研究所に行く。母は、駅で孫を抱き取って車に乗せて（空きを見込んで駅から遠い保育園になった）、保育園に預けて水墨画を教える仕事に行く。そんな方法をとっていたので、そのやり方のままで調査に行けないかと考えた。観光ビザ一杯まで滞在したかったので三ヶ月の長期になるため、そのあいだ夫には母の暮らす埼玉県で子どもと一緒に同居することを頼んだ。

語彙調査を終えて中野先生のところへ戻った頃には、シルハ語の勉強をしているのは、私一人になっていた。そして、この調査を終えるまで次の子どもの妊娠を控えていた私は、子どもの年齢が四年もあいてしまったけれど第二子を妊娠して、語彙調査をまとめたものを大学院の修士論文として提出した1993年の1月に、予定日を過ぎた臨月の身で卒業面接にのぞみ、数日後に出産して大学院を卒業した。

## 第3章 1992年：勉強を続ける

二人目のお腹が大きくなっている頃に、先生と待ち合わせて勉強をしたことをよく覚えている。先生は、お互いにとってアクセスの良い、吉祥寺や新宿の喫茶店で、コーヒーが一杯500円する静かでしばらくいられる喫茶店を選んだ。使ったテキストが、会話集(Nakano 1976)と民話集(Nakano 1974)で、これらが終わると日本語訳の元の本である全3巻のうちの最初の第1巻(Nakano 1994)を読み始めた。

喫茶店のテーブルにテキストを広げて、向かい合って、私がテキストを読んで訳す。間違っていたり意味を補足したりするときには、先生が説明する。こうしたことを、私が杉並から千葉に引っ越しても、先生が大学を移られても、電話で連絡を取って会うという方法でずっと続けた。私が広島に引っ越して1996年に三人目の子どもを産んだあとでも、まだ続けた。電話で約束をして、夫が在宅している週末や休日に東京に上京して第2巻を読む。次の約束をしてまた上京するということを、いつまで続けていただろうか。

第2巻の終わり頃に、せっかくだから日本語訳を補足資料として出版したらいいですね、という話をして、だったら、語彙を付けてよと先生が私に言うものだから、ええそうですね、というやりとりがあった。私の名前は出ますかと尋ねると、協力者程度ならどっかにのせてあげるよとおっしゃった。すでに第1巻を読み終えていたので、ワープロかパソコンだったか、清書してプリントアウトして先生に渡した。活字が小さくて読みにくいと文句を言ったので第2巻は拡大コピーして送った。

先生との勉強を記録した私のノートは第3巻の冒頭で終わっている。だから、顔をつきあわせた勉強はそこまでだったようだ。先生に電話をしても通じない時は海外へ長期に出かけているということが多かったから、連絡がつかなくても心配はしなかった。ある時、何度電話をかけても通じないので、以前中野先生から、海外に行くときには弟に伝えておくからと中野先生の弟さんの電話番号を教えてもらっていたから、弟さんにお電話をした。ご体調が悪く入院しているという話だった。私がまだ広島にいる頃だった。

第2巻の終わる頃に研究所で中野先生がコピーするようにと言って、ノートを私に渡したことがあった。まだ読み終えていない元の原稿だった。絵や図や単語の説明が手書きでタイプした原稿に書き加えられている。毎回戦慄苦闘して予習していた私には、こんなありがたいものがあったならもっと早く見せてくれればよかったのに、と思うほど情報豊富なノートだ。大きさがまちまちのノートや紙束の中から飛び飛びの必要箇所を探し出して、研究所のコピー機の前で延々とコピーして持って帰った。コピーさせてもらえたのは、まだ読み終えていない第3巻だけだったけれど。

2002年に広島から東京に戻ってきたあとも、電話をして次にいつ会いましょうかというやりとりをしていたが、忙しくてとか体調が悪くてという返答で実現することはなかつた。そのままお別れになった。2008年6月に先生は逝去された。

日本語訳を出版しようとか語彙を付けようという先生の話が、私は気になっていた。途中までやっていたのを放り出すのは残念だし、手書きの原稿を頂いてしまってはなおさら申し訳ない。そもそも長く勉強を教えてくださったのに、やめてしまったらすべてが霧散してしまう。それで、とりあえず訳すだけは訳してみようと第3巻は手書きの原稿を頼りに一人で始めた。

## 第4章 シルハ語の辞書

ところが、すぐに壁にぶつかった。語彙が分からぬし、調べようがない。これでは一行も読めない。手書きの原稿があっても第3巻で初出の単語が訳せない。そこで、私は、第1巻と第2巻の語彙をまとめる作業のかたわらで、シルハ語の辞書を探しはじめた。

シルハ語研究書の参考文献をたどりながら、芋づる式に辞書を探した。次の本の文献目録も参考にした。文学書は (Dejeux 1978) を、研究書は (Galand 1979) を使った。後者の本の“Parlers Berbère, Maroc Dialecte Chleuh”の項目に、通し資料番号1400番として「Nakano, Aki'o. *Dialogues in Moroccan Shilha*. Tokyo, Afr. Languages and Ethnography, 6, 1976, p.181 」として、中野先生の著作が掲載されていた (Galand 1979 p.174)。モロッコで見つけて買って持つて帰り、先生に証拠としてこの本を差し上げたが、散らかった研究室の山積みの本の上にさらに一冊積まれただけだった。他に、チュニジア関係の (Dugas 1981) を参考にした。

結論から言うと、シルハ語を見出しにした辞書はなかった。しかたなく、私は、入手できた辞書の中で最良のものを選び、見出し語をフランス語からシルハ語に変えてまるまる一冊、辞書を日本語に翻訳することにした。中野先生のデータを保存したメディアが、アプリケーションとOSの変遷で出力できずに泣かされた過去があったために、すべて紙に手書きで書いた。その作業は十年くらいかかり、2014年に完了した。B5のルーズリーフで367枚になった。

選んだDestraingの辞書 (Destraing 1920)は、総頁300頁で語彙が多かったこと、母音を二十種類の文字に書き分ける正確さがあったこと、語源にアラビア語やラテン語を記していたこと、そして、中野先生の本と語彙が重なったことなどから総合的に判断して選んだ。

こうして日本語訳の環境が整って、長らく中断していた第3巻の和訳を再開して、2016年4月に終了した。

## 第5章 日本語訳の方法

ここで整理する。日本語訳の元の本は以下の1～3である。4、5は日本語訳で参考にした中野暁雄著の本。6～11は辞書類である。

1. *Ethnographical Texts in Moroccan Berber (1) (Dialect of Anti-Atlas) –Studia Berberi (I)* - . (Nakano 1994)
2. *Ethnographical Texts in Moroccan Berber (2) (Dialect of Anti-Atlas) –Studia Berberi (II)* - . (Nakano 1995)
3. *Ethnographical Texts in Moroccan Berber (3) (Dialect of Anti-Atlas) –Studia Berberi (III)* - . (Nakano 1998)
4. *Texts of Folktales in Berber (I)* (Nakano 1974) . . . シルハ語の原文だけで書かれた民話のテキスト。
5. *Dialogues in Moroccan Shilha (Dialects of Anti-Atlas and Ait-Warain)* (Nakano 1976) . . . シルハ語会話で、対訳がモロッコ方言アラビア語と英語で書かれた会話集。
6. シルハ語—日本語辞書、及びシルハ語文法。(堀内里香 2000)
7. シルハ語—日本語辞書。 . . . Destaingを翻訳したもの。(Destaing 1920)
8. アラビア語—アマジグ語辞書。 ( ’Akādīmīyat al-Mamlakat al- Maghribīyat. Vol. 1, 2, 3. 1990, 1996, 2000) . . . 見出し語がアラビア語なので意味を特定してからでないと引くことができない。
9. 『スタンダード佛和辞典 増補改訂版』大修館書店、1974。 . . . 古いフランス語を引くために用いたフランス語-日本語辞書。
10. 『ポケットプログレッシブ仏和・和仏辞典第3版』小学館、2006。 . . . フランス語を引くために用いたフランス語-日本語辞書。
11. Hans Wehr, *Arabic-English Dictionary*. New York, 1994. . . . アラビア語を引くために用いたアラビア語-英語の辞書。

第1巻と第2巻は清書をして、中野先生の校正を終えている。第3巻は、上記の1から11までの本を用いて訳した。不明点があつてもシルハ語を理解する人に尋ねたり、上記以外を手がかりにすることはしなかった。ただ、第3巻の23章だけは、比較的スムーズに読み進んだそれ以前の章と比べて、非常にこづった。語彙が180度替わったような印象を受けた。アラビア語源の単語が多いことや通常とは異なる単語があり、タマジグト語に近い

印象を受けた。そのため23章だけは、カビール語を見出し語としたカビール語の辞書 (Dallet 1982) を使って調べたが、入手したのが2016年だったので使った時期はわずかだったことと、実際には単語が見つからなかったことから、上記の項目には入れていない。

なお、第3巻の23章で訳がわからなかった単語は、発音をカタカナ表記してその横に（\*）記号を附した。原則として日本語が多少ぎこちなくとも原文に添った訳にした。原文の補足資料として日本語訳を付けるというのが中野先生の考えだったので、日本語に迷う場合は原文を優先した。そのほかの場合も原文を優先している。

## 第6章 シルハ語および関係する文献分類

シルハ語研究は、研究者の特徴と研究内容で簡易的に分類すると、北アフリカ諸国の独立以前は三つに分類される。①18世紀末から19世紀半ばまでの地理調査と征服の足がかりの時代、②19世紀半ばから20世紀までの制圧のための部族調査と遺跡文字研究の時代、③20世紀初頭から20世紀半ばまでの言語研究の黄金時代、の三つである。

フランスは19世紀の100年をアフリカ探検の時代と銘打っている (Encyclopédie Larousse Website のgrands explorateursの項目) が、この時代の研究書を読む限り、内容は侵略と支配のための研究である。なお、シルハ語の文法書の巻頭に地図を記載する慣例があつて、現在も発刊継続中の大シリーズ本(UNESCO 1984-現在)もそれを踏襲しているけれども、そもそもは、19世紀の初めの地理調査に端を発しているのではないかと考えている。

以下、特に記載がない場合は文献を出版年順に並べる。著名な言語学者のKarl G. Prasseの著作は私の怠慢のせいでまだ見る機会がないのでここに挙げなかつた。なお、独立以降から現在を④として付け加えた。次章に関連する人名や書名もあるが、読みにくくなるのでここでは記載しなかつた。

### ①18世紀末から19世紀半ば

研究内容は、政府派遣の軍人や研究者による地図作成とルート調査が主である。この時代の研究者が先行資料として参考にしたのは、圧倒的にアラビア語で書かれた本である。

(Horneman 1802)は、数語のシルハ語を記載している。この本の末尾に、先行研究者として「Jezreel Jones」という人名を挙げ、「Jezreel Jones」が1715年に出版した本の中で“Lingua Shilhensis”（シルハ語）という語を用いたと書いている。

別の本だが、同じ1715年の(Chamberlaynio 1715)は“Shilhice”（シルハ語）として数文章をラテン語対訳でのせている。1738年に出た (Shaw 1738)は「シーワ語」の単語をのせている。

この時期の傾向を顕著に示した書籍として、以下がある。

\*(Société Anglaise d'Afrique 1802) アフリカ探検の初期を担ったイギリスが派遣した探検家の記録。緯度と経度を駆使した地理の記録はここにはなく、日記風で行程を記録している。

\*(Lyon, G. F. 1821) およそ20年経って行程の記録は詳細になり、カラーの挿絵が入る。1796年のムンゴ・パークの行程はチュニジアからモロッコへ抜ける砂漠を避けたルートを取っていたが、著者のLyonは1819年にトリポリから砂漠を南下するルートを取る。その後繰り返される踏破隊によって行程は徐々に伸びて、トリポリからマルズークに達して、

さらにチャド湖からソコトへ向かうルートと、トリポリからラダメスからインサラーに達して、さらにトゥンブクトゥへ向かうルートの二行程が北アフリカ踏破の主な行程になつていく(Demoulin 1931)。

\*(Denham & Clapperton & Oudney 1826, 1828) 全2巻からなる旅行記。著者のOudneyはティフィナグ文字を学術誌に発表して名を馳せた。

\*(Hodgson, William B. 1844) ベルベル語の各方言の分類名称を記載している。“Shilha”(シルハ語)についても言及している。

## ②19世紀半ばから20世紀

19世紀半ばに文字遺跡の発見に沸いて、発刊されたばかりの雑誌“*Journal Asiatique*”に、遺跡の石刻文字を書き写した軍関係者がさかんに投稿した。先行研究として読み継がれたアラビア語の書籍は、フランス語翻訳がすすんでラテン語やアラビア語で読む必要がなくなり、原典のアラビア語の著作を参考文献にあげる人は減る(Hartmann 1796) (Lee 1829) (Ibn-Khaldoun, A. A. I. 1847) (Slane訳, Ibn-Haukal 1842)。

Juda (Judas, A. 1844) のティフィナグ文字についての研究が、1844年から続けざまに雑誌“*Journal Asiatique*”に掲載される。彼のような文字と遺跡の考古学研究はおよそ100年後にChabotによって集約された(Chabot 1939) (栗田伸子 1999)。この成果が、イコモス(ICOMOS 2007)の行う世界遺産の調査の裏付けにつながる。

「シルハ語」という書名が少ない①の時期に対して、この時期から文法や辞書という語を含んだ書名が出始める。各地の言語と民話を集めたBassetと、軍人からトラピスト派へ転身してアフリカに戻り宣教しながら手書きのノートを残したFoucauldと、トゥアレグ方言の辞書を出したMasquerayの三人は、次に来る③の時期の研究者が必ず参考にした。三人の著作として、以下がある。

\*(Foucauld, Vicomte Charles de. 1888)・・・没後にティフィナグ文字表記の単語を語根分類した手書きの語彙ノートが1951年に出版された。そちらの方が有名である(Foucauld, Vicomte Charles de. 1951)。

\*(Basset, René 1885) (Basset, René 1887) (Basset, René 1893)・・・アルジェリアの言語研究の中心にいたBassetはこの時期に文献を多く出版した。彼はティフィナグ文字表記で辞書を書いた。

\*(Masqueray, Émile 1893)・・・Masquerayによるトゥアレグ語の辞書である。ティフィナグ文字表記(後述)で語彙数も多く、現在でも充分利用できる。

\*英語で書かれた研究書を一点挙げると、(Newman, Francis William 1882)はフランス語で書かれた言語研究を網羅しているので英語圏でよく利用された。

軍の傘下で編纂されたものとして、以下がある。

\*(Barth, Henry 1857)は征服と制圧の行程を綴った全5巻の大作である。Barthの隊について行ったDuveyrierは帰国後600頁を超える大作『Les Touaregs du Nord』(Duveyrier, Henri 1864)をまとめた。この「北部のトゥアレグ」が出版された後に「西部のトゥアレグ」(Bissuel, H. 1888)が出版された。当時トゥアレグ研究者はトゥアレグを「東西南北」に分類して特徴を記した。(Huguet 1902)は南部のトゥアレグは文字を書かないと記している。

\*(Hanoteau, Adolphe 1906)は初版本が1858年に出版されているのでこの時期に入れた。カビール語研究においては現在でもHanoteauを外すことができないだろう。ティフィナグ文字について成果を残した。

\*(Venture de Parades 1844) 本書は没後出版されたもので、巻末頁に18世紀末にモロッコのシルハ語地域を訪れて多くの部族長に会った話を載せた。シルハの語の村の様子を「大麦や小麦や野菜が豊かな土地である」と書いている。

\*(Ministre de la Guerre 1844) 600頁を超えるフランス語-ベルベル語の辞書である。単語数の多さに加えて動詞の活用や会話を網羅して、大変実用的である。

### ③20世紀初頭から20世紀半ば

前時期よりも狭い地域を対象にした辞書や文法書が出版される。前時期に見られた探検記録は消え、一方で民話や音楽といった多彩な分野を扱った研究書が登場する。

カビール語、シルハ語、トゥアレグ語、民話の本として以下がある。

\*(Huyghe 1901)はカビール語を見出し語にした辞書、(Destraig 1907)はリーフ語の辞書、(Destraig 1920)はシルハ語の辞書、(Foucauld 1951)はトゥアレグ語の辞書である。

\*(Basset 1908)はトゥアレグ語の文法と辞書の本である。序文で、トゥアレグ調査団に参加して、二人のトゥアレグの人ブン・メッシース、ブン・ハンムー（ムッシューの敬称はない）の協力を得て文法と辞書をまとめたと書かれている。

\*(Laoust 1912)では民話を掲載して、お腹をすかせた兄弟のところに神様のお使いが現れて「ビスマッラー」と唱えるとクスクスの皿が山盛りになると教える話など、23種の民話や文法を載せている。民話は(Basset 1890) (Laoust 1949)などもある。

### ④独立から現在まで

北アフリカ諸国の独立直後はいったん下火になったのち、1970年以降、学術機関が出す研究書や論文が増加する。一方で、民間の知識人による雑誌や書籍の発刊もあった。

③の時期と比べて、この時期は語源の研究や、考古学分野の遺跡の文字の研究、そして現在は15世紀かそれ以前の手書き写本の掘り起こしなど研究対象の古さを売りにする傾向が見られる。

書名に「ベルベル」をよく使った三人(Chaker 1984) (Camps 1988) (Galand 1973)は「ベルベル」の言語・文化・歴史に関する研究を発表している。

\*雑誌『アムード』(『'amūdu』 1990-91)はモロッコで出版されたシルハ語の言語と文化を紹介した民間の小冊子で、ティフィナグ文字の表記法も紹介している。モロッコ国内で出版されたためか1冊13ディルハムと安価だった（学校教科書と同程度の価格）こと、アラビア語で書かれていたこと、キオスク等の雑貨店に置いてあったから、買わなくても目にした人が多かつただろう。

\*(IREMAM 2002)はフランスの研究機関がまとめた手書き写本研究プロジェクトの報告である。モロッコとアルジェリアの村落が保管してきたレコンキスタ後の時代の書物を掘り起こして内容をざつと説明している。手書き写本を掘り起こすというプロジェクトは、21世紀になってから増加傾向にある。今後この分野の詳細な研究書が出てくるだろう。

\*(IRCAM『Nahū al-'Amazīghīya』 2013)はアマジグ語文法の本で、全編アラビア語で説明している。アマジグ語をティフィナグ文字表記して、アラビア語で解説した文法書は初めてである。

## 第7章 文字表記(1)

前章で、文献を分類して過去の研究の大まかな流れを説明した。本章では、中野（Nakano 1994, 1995, 1998）で使用される文字表記と他の文献が使用する文字を含め全部で三種類の文字とその表記法について解説する。取り上げる文献は、文字表記が出揃う19世紀のはじめから、モロッコの教育言語のアマジグ語が始まる前にあたる21世紀初頭までを対象にした。

本章で「英語アルファベット」と「アラビア語アルファベット」を、次章で「ティフィナグ文字アルファベット」を説明する。章を分けたのは煩雑さを避けるためで、便宜的なものにすぎない。

## ①英語アルファベット

中野（Nakano 1994, 1995, 1998）の本文は、一見、英語のようでいくつかのアルファベットが英語とは違う。これは、英語のアルファベットに加えて、á や ¡ のように記号を足した文字を使っているからである。このように、英語と文字記号を足した文字を本稿では「英語アルファベット」と呼ぶことにする。

例えば英語の「yes」 [jes] (はい) は、文字はyes、発音記号は[jes]である。これがシルハ語になると、単語表記は「 ij 」、発音表記は [ij] で、単語と発音の文字が同じ文字になる。英語の「yes」は単語表記「yes」と発音記号 [jes] が異なる文字を使っているのに対して、「英語アルファベット」表記のシルハ語は、単語「 ij 」と発音 [ij] に同じアルファベットを使う。

用いられる「英語アルファベット」は統一されていない。英語のアルファベットを使う点では同じだが、付け加える数種の文字の数と文字の形が研究者によってまちまちである。研究者が独自に文字を作るので、用いられる文字が異なる。たとえば、会話集（Nakano 1976）はb, d, f, gといった英語のアルファベットに加えて、付け加える文字には、ȝ, ?, ȝ, š, ž, t̪, d̪, s̪, z̪, r̪, l̪などを使っている。一方、中野（Nakano 1994, 1995, 1998）ではb, d, f, gといった英語のアルファベットは同じだが、前者にあった?やȝを使用せずにできる限り英語のアルファベットだけで書いている。この理由を前書きの中で、「親しみやすいように」と述べた（Nakano 1994）。

さて、yesの発音記号[ j ]を使って、シルハ語の単語を書いてみよう。シルハ語の「ij」を何と読むか。「イジュ」か、「イイエ」だろうか？ これは「イイエ」と読む。意味は「はい」。「英語アルファベット」は、発音記号としての役割と文字としての役割の折衷で書かれる文字である。発音記号の役割を重視すれば、アルファベットの数が増える。反

対に文字としての役割を重視すれば、ややこしい記号を減らした方が読みやすい。前者に該当するのがDestraigで (Destraig 1920) 、母音aは、ä, å, ā, ā, á, âと書き分ける。一方、後者に該当するのが中野 (Nakano 1994, 1995, 1998) であり、母音aは、aの一種類だけである<表1>。

19世紀初めの「英語アルファベット」で書かれたシルハ語の例を挙げた<表2>。

## ②アラビア語アルファベット

ب ت ث ت ب ！ これはアラビア語のアルファベットの一部である。北アフリカはアラビア語圏なので、アラビア語に通じた知識人がアラビア文字でシルハ語を書いた。本によるとシルハ語の古いコーランがあるという (Avezac 1840) 。

アラビア語のアルファベットを使う表記法を「アラビア語アルファベット」と呼ぶことにしよう。「アラビア語アルファベット」は、アラビア語のアルファベットを使い、それに記号を付加した文字を追加する。そのあたりは「英語アルファベット」と同様である。

たとえばシルハ語には、「グ」という音があるが、アラビア語に該当する文字がない。お母さんが赤ちゃんに「もぐもぐしてね」と言うときの「グ」である。この音はkを表すアルファベット「ك」の上に3つの点を振って作った「ڭ」を用いる。モロッコのAgadir (アガディール) という地名を「アラビア語アルファベット」で書くと、ڭادير となる。

付加する文字は、<表3>のgʷ, r, z, gにあたるアラビア語アルファベットであり、表記は記号を付加したアラビア文字である。「アラビア語アルファベット」は、付け加える文字数が少ないので研究者や研究書による違いがあまりなく、アラビア語教育を受けた人は研究者でなくとも読み書きできるという特徴がある。

「アラビア語アルファベット」は母音の表記法に二通りある。アリフを台にして表記する方法と、ハムザの独立形を用いる方法である。「ア」「イ」「ウ」の母音で始まる単語は<表4>のようになる。<表5>にカビール語を表記したものを例として挙げた。

アリフを台にした表記法を用いたのが、1990年に出版されたアラビア語—アマジグ語辞書 (Akādīmīyat al-Mamlakat al- Maghribīyat, vol.1-3. 1990, 1996, 2000) であり、結果的に「アラビア語アルファベット」の表記方法を統一した感がある。

## 第8章 文字表記(2)：ティフィナグ文字アルファベット

表記法の最後にティフィナグ文字を使った表記について述べる。ティフィナグ文字は、現在モロッコでは、教育言語であるアマジグ語を表記する文字として用いている。33文字あり、そのうち母音が3文字「ア 。」、「イ ミ」、「ウ 」で、半母音が「 」、」で、エまたは無音の「 」がある。他に、補助文字として「 」、「 」がある。モロッコの学術研究機関 Institut Royal de la Culture Amazighe (IRCAM) が中心になってティフィナグ文字の学術書を出版している＜表3＞。アマジグ語教育に使っているティフィナグ文字は、アマジグ語を表記する文字として国際的にも認識されはじめているが＜表6＞、19世紀から20世紀半ばまでの研究者は、それぞれが改良を加えた独自のティフィナグ文字を用いて表記してきた。

あらかじめ申し上げておくが、ティフィナグ文字が現在のアマジグ教育のティフィナグ文字になった過程を今から説明するのではない。私は、教育言語に使用するティフィナグ文字と、過去の研究書に記載されているティフィナグ文字は別個に考えるべきだろうと思っている。19世紀から現在までの文献を点にたとえるなら、時系列という線で点をつないだ先にアマジグ語教育言語のティフィナグ文字の成立がある、という帰結を本稿は採用しない。アマジグ語の教育言語の成立過程は、別途、標準化の方法として述べられるべきである。

中野 (Nakano 1994, 1995, 1998) は、シルハ語文法に則った「英語アルファベット」で書かれたシルハ語のテキストであり、一字一句狂いのない正確さで書かれている。これを、アマジグ語教育のティフィナグ文字に全部書き換えるも、中野のテキストはアマジグ語のテキストにはならない。アマジグ語は、モロッコ国内のリーフ語、タマジグト語、シルハ語の言語を標準化する過程で、単語、文法、発音、語法などを大きく変えた。だから、単純に文字を変換しても、そのままアマジグ語になるというものではない。シルハ語とアマジグ語の違いがどれほどかを示す（あるいは同じかを示す）指標を持たないが、私が学校教育の教科書をすらすらとは読めない以上、その違いは大きいと思う。つまり、中野 (Nakano 1994, 1995, 1998) の本を理解するために考えるべきは、現在の教育言語アマジグ語で用いるティフィナグ文字や教育言語のアマジグ語ではなく、それ以前の文献で使用されたさまざまなティフィナグ文字に言及することが重要だということである。

本章は、過去の研究書がどのようなティフィナグ文字を使ってどのように表記してきたかを説明するために、文献を時系列に沿って「羅列」する。時系列の始まりはティフィナグ文字が出版物に載った1828年（第3版。初版は1826年頃）にして、終わりを1990年にした。初版でない文献は初版年を付記した。表を多用することから、本章は前章と分けた。

不明点が多くあって考古学や歴史学の助けを借りしないと難しいが、結論は二つある。一番目は、ティフィナグ文字を使った表記法は、19世紀末には研究者が自在に使用できるまでになっていたということである。少なかったティフィナグ文字の数が徐々に増えてアルファベット表を埋めていき、1つの音価に対して数種類の文字が並び、音価が確定できずに保留になっていた文字が徐々に整理されて、表記法と共に用いられた。二番目は、ティフィナグ文字の表記法は、当初は数人の研究者によって主にトゥアレグ語を表記するために用いられていたが、1990年頃に一般の知識人がシルハ語を記載するために大幅に改良した、と結論づける。

ティフィナグ文字が出版物にあらわれたのは旅行記で、トゥアレグ（原文はTuarick）の石刻文字を手書きで書き写している（Denham & Clapperton & Oudney. 1828年第3版）。Oudneyはこの旅行記の中でトゥアレグの人々が美しい歌や踊りでもてなしてくれたと、心温まる歓待ぶりをおとぎ話のように書いている。この時に書き写したティフィナグ文字＜表7-1＞をOudneyは雑誌*Journal Asiatique*に投稿した。参考のために、現在のアマジグ教育のティフィナグ文字と対応させた＜表7-2＞。

Boissonnetは、ティフィナグ文字が刻印されたアクセサリーをトゥアレグの女性からOudneyと一緒にもらい受け、雑誌*Journal Asiatique*に投稿した（Jomard 1847）。二年後の1849年にOudneyとBoissonnetが集めた文字を含むティフィナグ文字のアルファベットが雑誌*Journal Asiatique*の巻末に掲載された＜表8＞。

探検という名の踏破の過程でアフリカに入った外国人たちは、ティフィナグ文字の発見をエジプトの古代文字の発見のように喜んだ。そこで「こうした文字はまだあるのか」と現地の人に尋ねると、たいしたことではないかのように「そんなものはあっちにもある」と、別の石刻の場所を教えたという（Boissonnet 1845）。こうしてティフィナグ文字を集めしていくのだが、研究者たちは石刻の文字の収集と並行して、表記法をトゥアレグの人に尋ねてティフィナグ文字のアルファベット表を作った＜表9＞。この表は上段の項目の箇所に誰に依拠する文字かが書かれている。最右はOudneyに依拠するティフィナグ文字で、その隣がBoissonnetに依拠するティフィナグ文字となっている。表の下段の空欄に音価が確定していない文字が並んで置かれている。一つの音価に対して数種類の文字がある例として、＜表10＞を挙げる。

こうしてティフィナグ文字の研究者は、遺跡調査にすすむ考古学研究と、実際に使っている言語を収集する言語研究と分かれていく。言語研究分野は、ティフィナグ文字の音価と文字の確定をすすめるために、考古学分野が解明した情報と現地の人に聞いてきた文字を比較した＜表9＞＜表12＞。ティフィナグ文字の表記法は、上下のどちらからでもよい縦書きと、左右のどちらからでもよい横書きで、それらを混在した書き方であったが、研

究書は右から左への横書きの表記法が主流になったあと、20世紀末にすべて左から右の横書きで書く表記法になっていった。縦書きにする研究者は皆無である。右から左への横書きで書いた例としてBasset<表11><表21>やFoucauld<表16-1><表16-2>を挙げる。実際に使っている人は、上下左右を、時に混在させた書き方をしている(Hanouteau 1906)。

1896年にはティフィナグ文字の音価はほぼ確定して、23文字と母音で構成されている<表15-1>。トゥアレグ語関係の一般書は下火になり、時代が飛んで1984年にティフィナグ文字を分類したアルファベット表が載った<表17>。

この1984年のアルファベット表<表17>は大変重宝がられて、その後あちこちの文法書に登場する。1984年のアルファベット表は、音価に対応する文字の数が一見多く見えるが、実際は過去のアルファベット表<表10>よりも同一音価の文字数は減っている。アルファベット表の上段にあった誰に依拠する文字かを示す<表14-1>の項目が、古代・現代という分類名に変わり<表13>、1984年の表<表17>では地域名に変わった。アルファベット表に長く居座り続けていた二文字の子音を結合させた文字<表10><表14-2><表15-2>を、Basset、Foucauld、Masquerayはティフィナグ文字として用いていたが、1984年の表<表17>にはない。

ティフィナグ文字の表記が大きく変革したことがわかるのが、『'amūdu』 ('amūdu 1990-1991) である<表18>。これまでトゥアレグ語を表記するために使っていたティフィナグ文字を、この本ではシルハ語の表記に利用している。そのため行った改良点が3点あり、1点目は、トゥアレグ語表記では母音ア、イ、ウに使う文字は一種類だったものを、シルハ語を表記するためにア、イ、ウのそれぞれに別々の文字を使ったという点。2点目は、トゥアレグ語では語頭の母音を書かない表記法だったものを、語頭の母音を書くことに変更した。3点目は、ティフィナグ文字に記号（「-」や「^」）を付加して、読みやすくしたという点である。

この改良によって一挙に実用に向けて前進した。研究者によってはこの「改良ティフィナグ文字」を「ネオ・ティフィナグ」と分類して呼ぶ人もいる。

雑誌『'amūdu』に載った「改良ティフィナグ文字」は、この雑誌だけが発信源ではないだろうが、一般読者層に受け入れられて広まった（前述、6章④）。文章の表記法が現在のアマジグ語とは若干違うが、知識があれば書くことができるし読むことができる。拙書（堀内里香 2000）の表紙を飾ったティフィナグ文字はこの「改良ティフィナグ文字」で書かれた詩であり、雑誌の発刊と同じ1990年にもらったものである。表<表18>の中央の図はシルハの伝統的なアクセサリーで、女性が大きな一枚の布をまとうときに胸元に留めるブローチである。このデザインを土産物店が商標やパッケージに使う光景が広く見られた。

## 第9章 盾

ティフィナグ文字というのは、武具<表19> (Barth 1857 p.289) (Benhazera 1908 p.56) や楽器 (Duvreyrier 1864 p.389) やアクセサリー (Reboud 1870 p.23) (Hanouteau 1906 p.381) (Dieterlen&Ligers 1972) やラクダに付ける印 (Huguet 1902 p.617) に使ったという話を読むと、想像の域を出ないけれど、メッセージを伝える側面もあるだろうが、単に言語を記すというより言葉のかたまりというか、お守りや台所に張るお札の文字のような意味合いがあつたんだろう。ティフィナグ文字は個人的なもの、家庭の中にあるもので、せいぜい村落の中で通用する文字だったと考えられる。

こうした文字や表記法を、研究者は文字の特定や音価の確定を第一に据え、新旧の石刻文字と実際に使っている人の文字とを一緒にしてしまった (Dubeyrier 1864)。そもそもティフィナグ文字は誰かが個人的に使っていたもので、その人が表記法を知っていた。人と地域が限定された文字だったものを、他地域の表記法や別の人への文字を混ぜてごっちゃごちゃにしてしまった。アルファベット表を空欄のままにして、誰それのアルファベット表、誰それのアルファベット表と分けて、文字と表記法をその時々にそのままその場所を特定できるように分類しておけば、そして文字と表記法の使用域の狭さという特徴をそのまま保つように残して研究をしていたなら、もっと別の成果があつたと私は思う。

ティフィナグ文字について長くなってしまうが、以下に武具に書かれた文字について記してみよう。武具<表19>のティフィナグ文字は、文献に詳細なフランス語訳がある (Hanouteau 1906 p.374-375)。抜粋して私なりに翻訳したが、別の訳もできるだろう。一行目だけは、ティフィナグ文字と音価を本から写した。読みやすいようにシルハ語に翻訳した文章を加えている。

武具のうち、盾のいきさつについて、原文の説明は以下のようである。  
「この盾の文字は、ハッガール部族のタヒアウトの長である、イムスタンの母方の叔母によって書かれた。盾はマレシャル・ランドン氏の所有である。文字の写しは二つ取られて、一つはスシュボ氏<表14-1>と、ブルスニール氏に渡された。」

さて盾の文章は、次の3行の文からなっている。

- ア) 1行目は、盾の左側の一番上にある二点の文字「:」から始まって、そのまま下まで下がり、真下から少しだけ右に上がった、四角に中点のある「回」まで。
- イ) 2行目は、盾の右側の一番上にある「+」から始まって、そのまま下まで下がり真下の手前で右側に曲がった「I」まで。

ウ) 3行目は、アよりも内側の左の一番上、鞘と剣の柄の間にある「:」から始まって、そのまま下に下りていって、Uの字で右上に上がった「I」まで。

ア) の文について以下に、上段はティフィナグ文字、中段は英語アルファベット表記、下段を私がシルハ語に転写したものを示す。都合上、文字方向が右始まりだったものを左に直した。

ティフィナグ文字	:   : : G · + + + E C I + : □ + E: □ C □
英語アルファベット	w n k 'š a t n t dhamn t k d t i t u r m s
シルハ語に転写	w nnk 'iša tnna ḥamn takdit i turms

w-nnk 「私のもの」。シルハ語では「あなたのもの」。

'iša 女性の名で「アーアイシャ」。

tnn 動詞で「貴女は言った」。

ḥmn アラビア語の動詞で「神が保証する、絶対に」。

takdit 「心から」。

i 「私に」。

turms 「捕らえられた、捕まえられた」。

次に、ア) 、イ) 、ウ) の日本語訳は以下のようになる。

ア) 「私はアーアイシャ。彼は私に夢中なのよ。絶対って言えるわ。」

イ) 「盾の持ち主さん、あなたのために神のご加護を祈るわ。」

ウ) 「ハムルン（地名）の娘たちよ、お別れを言うのは僕、アグマーマだ。」

本の注記に、アグマーマとは固有名詞で、直訳すると「母（ママ）の息子（アグ）」という意味で、アグマーマは男性の本当の名前を出さずに盾の持ち主の男性を指している、と説明されている。

盾に書いてある文章はてっきり荒っぽい言葉だと私は思っていたが、盾の意味をはき違えていたらしく、まるつきり違って熱っぽい言葉だった。Hanouteauはアクセサリーに記されたティフィナグ文字の文章のいくつかを紹介した上で、こうした文には一定の言い回しがあって、盾の冒頭の「w nnk (ウ ンヌク)」がそれであると述べているが、例が少なくて妥当性を断定できない。また、女性が恋人や夫にティフィナグ文字を記した物を持たせるとも書いている(Hanouteau 1906 p.373)。本稿では言及しないが、補足として

「古代トゥアレグ語」という分類名を用いている表を挙げておいた<表20-1><表20-2>。

研究者は英語アルファベット、アラビア語アルファベット、ティフィナグ文字アルファベットで表記した文法書や辞書を作った。語彙は詳細になり、言語地域は細分化されて、豊富な資料が残った。しかし文献の中に、この盾の資料のような現地の人が書いた手書きの文字の資料はほとんどない。紙が手近になかったとしても研究者とのやりとりには使つたはずで、現地の人が文字を記した資料そのもの、たとえば『文字の歴史』(ジョルジュ・ジャン 1993)にあるような手書きの手紙のようなものは、残念ながら文献にない。

## 第10章 元の本の重要性(1)：完璧なシルハ語文法と類を見ない総頁数

中野 (Nakano 1994, 1995, 1998) の元の本の文章はすべて「英語アルファベット」表記のシルハ語で書かれている。章の見出しだけ英語が付記されて、それ以外は全文シルハ語である。補足説明や注はない。話者が一方的に話している文章である。時折、「おまえ」と呼びかけることから、中野がその場にいることがわかる。だが、これは会話ではない。

話をどのように聞き取ったのか私は知らない。おそらく、テーブルをはさんで二人の男性が向かい合って座り、あいだにカセットテープを置く。いくつかの決まったテーマで話をしてもらって録音して、聞き取りにくい単語や分からぬ意味をその場で尋ねる。その夜、一人でカセットテープを聞き直して文字にして、翌日、不明点を確認してまた話を聞くというような方法だっただろう。

話を録音したのなら、カセットテープには男性の声だけではなく、中野先生の質問や返答する声も入っていただろうが、原文にはない。そもそも本のようすら話す人はいないだろう。言いよどんだり、言い間違えたり、二転三転したり、笑ったり、机を叩いたり、うなったり、間を置いたりする、そういう雑多な声や空白は、原文にはない。原文は、正確で完全なシルハ語の文法にのっとって書かれた、正しい書き言葉の文章である。言いよどむ言葉は取り除かれて、空白は埋められて、間違った文法は書き換えられる。動詞は正しい活用にして、目的語や省略された単語は付け加えられる。

カセットテープが一次資料なら、原文は二次資料である。言語学の資料ならカセットテープのままでよいだろうに、原文は文字に変えられて残された。この膨大な「話を聞き取った」シルハ語の二次資料は、いまだかつて量的にも質的にも過去に例をみない。シルハ語やカビール語で書かれた民話や昔話にフランス語やアラビア語の訳がついたものはある。衣食住などを項目に分けて解説したフランス語の本も過去にあったし、一人称で語るアマジグ語の物語も出版されてきた。しかしそれらは数頁がせいぜいで、これほどの分量はない。200年間の文献をさらってもないのだから貴重さが歴然である。

中野 (Nakano 1994, 1995, 1998) の第3巻目の最後は香辛料の話だ。香辛料の話の補足だ。第1巻から始まった話は、第3巻で終わりになる。物語を読むように、主人公がいて物語が展開して収束して終盤になるように読んでしまったら、それは間違いだ。これは物語ではない。作家の感情が織り込まれた文学ではない。これは始まりも終わりもない文章だ。なぜなら、終わりの文章は、始まりの文章とさほど変わらない食卓の話題だったからだ。ここで分かるだろう、これはおしゃべりだったということが。カセットテープのジージーという無音が続いて、カチャンと終わる。そういう話だ。

\*

私はモロッコ南部のスース地方のシルハ語しか通じない村にいたことがある。今からちょうど30年前で、中野先生に出会う前の昔の話で恥ずかしいが、中野（Nakano 1994, 1995, 1998）を読んで当時のささいな体験が今頃になって鮮明になったので以下に書いておくことにした。ちなみに、中野先生の訪れた村も私の訪れた村も同じモロッコのスース地方のシルハ語の村だが、別々の村であり、互いの村の関係はないとお伝えしておく。

私は村にいたときに水汲みに付いて行った。家から水を入れる容器を持って井戸まで歩いて行った。井戸は遠くから分かるような目立つたたずまいをしているかと思ったのに、ただ地面にぽかっと穴が空いて石で低く囲んだだけで、木の陰にあった。明るい陽射しと木々の葉の黄緑がきれいだった。友達と水を汲んでいると、同じ年頃の女の子がやって来た。ロバの背に斜めに座り、鞍の左右に大きな陶器の水瓶を二個ずつ振り分けて掛けてあった。葉をならす音もロバの鼻息もたてずに静かに井戸の側に来たので、私はびっくりした。

女の子は大きなお腹の妊婦さんで、深い井戸にバケツを下ろして水を汲む仕草は大変そうだった。私は、妊婦さんだったし水瓶は重たそうだったし四個もあったから、手伝ってあげましょうか、と言おうと思った。私たちは二人いて手は足りていたし、一緒にいた友達のハディージャは明るくて楽しい女の子だったから、困っている人に手助けしないはずはない。

ハディージャは楽しげに話しかけた。私も話した。でも、手伝おうかという言葉はなかった。私は口から出そうになる言葉を、ハディージャに目で訴えた。ハディージャは私を見た。「言うな」という表情が私の口を止めた。

中野（Nakano 1994, 1995, 1998）の本の中に、村の数少ない賃金労働に井戸の水汲みの仕事があると書いてあった。妊婦さんを手伝わなかった理由はそういうことだったのかと、今回読んで初めて知った。私たちは自分たちの分の水汲みを終えるとさっさと帰った。女の子はまだ水を汲んでいた。帰り道にハディージャは同情でも気遣いでもない様子で、あの子の家は井戸から遠いのよ、と私に言った。

## 第11章 元の本の重要性(2)：誰の話を聞いたのかを記したこと

本を読み進めることは楽しかった。よく見知った光景に出会うこともあれば、聞いたこともない道具が出現して頭で描けずに四苦八苦した。おもしろさは、シルハ語の言い回しや、語法の中にもあった。

だが、こうしたおもしろさは、あまりにも長く関わったために独りよがりになつたせいではないか、そういう恐れを感じていた。第3巻目の日本語訳が残り20頁になった頃に私は途中までの日本語訳を夫に見せた。誰かに客観的に判断してもらつたかった。

夫は大変気に入つて、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授の小田淳一さんと、神戸大学准教授の斎藤剛さんにも見せた。悪くない評判という。おもしろいという感想を頂いた。

日本語訳の作業をスムーズにするために、早い段階から語彙をまとめた。単語の初出頁を記すことや英語の訳を付けることは、中野先生が私に要望したことである。できたらフランス語訳も付けてという要望は、大変さが増すのでやんわりと断つた。ワードのアクセスというアプリケーションから、アップルのナンバーズに変えて、入力が煩雑になつてしまつて手間取り、今のところ第1巻の46頁までしか進んでいない。だがこの段階ですでに1,200語を超える語彙数は驚きである。最後のひと文字までミスのないシルハ語の文章を読む助けになればよいと思う。文法は、拙書（堀内里香 2000）を参考にして下さい。

ソフトのせいにはできないけれど、まだ作業途中だった語彙のデータを、一から目を通して、全面的に手直しをして下さつた東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授小田淳一さんには、感謝をしてもしつくせないほどです。お忙しい中で、短期間で仕上げて下さり、学術的なレベルにまで引き上げて下さいました。本当にありがとうございました。

全3巻と本稿の校正は夫の成蹊大学教授堀内正樹さんが、バックアップをしてくれました。

\*

一言も言葉が通じないシルハ語の村を初めて訪れて、言葉が通じなくてもなんとか身振りで伝わるものよ、というのはでまかせだと実感してからシルハ語を学んで今に至つた。そのあいだ、モロッコで出回つてゐるお香について知りたくて、イスラム医学からインド医学、はたまた仏教医学の本を読んで膨大な資料と難解さにたじろぎ、一方で日本の文化として有名なお香道を体験したところで立ち往生している。シルハ語の方は、日本語訳にかかりつきりだったので進んでいない。手元には、以前、中野先生がなぜかどさつと下さつ

た民話の本(Nakano 1974)の未発表分の原稿がA4用紙で100枚手つかずのままだ。中野先生は、次の教材として読んでいって原稿を眠らせたままにせずに発表したかったようで、まだどこにも掲載していない民話の原稿である。

\*

こうして行ったり来たり立ち止まつたりしている勉強のさなかの2015年末に、上野の東京国立博物館で行われた講演を聞きに行った。第十回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「邦楽の旋律とアクセント：中世から近世へ」というタイトルで、「日本語のアクセントが歌の旋律でどのように影響を与えていているのか」という考察を、研究者が発表したあとに実際の演奏者が演奏するのを楽しむ（主催者発表を一部引用）という内容だった。この講演の演奏者として私が大学生当時に長唄を教えに来て下さっていた、長唄の「稀音家義丸」先生がご出演なさると知って嬉々として出かけた。

補足させていただくと、稀音家義丸先生は邦楽会のご重鎮でありすばらしい演奏家でいらっしゃるのだが、かつて立教大学のサークルの長唄研究会に所属する学生のためにボランティアで長唄のご指導をして下さっていた。私が卒業するちょうど翌年の長唄研究会に入部する学生がゼロになるまでお続けくださった。学生の身でこのような先生に長唄を教えていただけたのは、大変贅沢な経験だった。

話を戻すと、講演は内容によって前半と後半に分かれていて、研究者が発表したあとに内容に沿った実演を披露するという趣向だった。前半の実演は謡を味方玄さんが、後半の実演は稀音家義丸先生が長唄を演奏なさった。久しぶりにお姿を拝見した稀音家義丸先生は、齢八十才を超えて全くお変わりなくお姿もお声も色つやが良くて、長唄の「鶴亀」をお歌いになったあとに、ちょっとといいかなと話し始めた。講演の内容に沿った実演が終われば、演奏者は話をしないで講演は終了になる予定だったのだが。「実際のところ長唄では、歌詞のアクセントは自在に変わる。たとえば“雪”は、東京弁で話すときは普通に“ゆき”と発音するが、長唄の歌の中では、あえて関西弁の“ゆき”という発音にする。それは、関西弁のアクセントにしたということではなくて、ただ単に、歌の中でそういう発音にした方が“ゆき”という言葉が“際立つ”からです。」

私なりにまとめてしまうと、言葉のアクセントが歌の音階に影響を与えるという直前の研究者の講演をひっくり返すかのように、稀音家義丸先生はその時々で変わりますよ、とおっしゃったのだ。そして、ほらこんな風にと、アドリブで別の歌のさわりを歌ってみせながら、演奏家は、息継ぎしやすいように歌うし、印象が残るように歌詞のアクセントを変えたりするんだよ、と説明した。

なにも研究者に反論したのではない。研究者の言ったような歌い方もあるでしょうが、こんな風にも歌うし、こんな風にも歌うよ、と次々とアドリブを繰り出して、終了の時間

が来なければまだまだ話して歌い続けられるような様子で、長唄の魅力をたっぷりと聴衆に見せて下さった。研究者の講演の印象はどんどん薄らいで、時間が許せば長唄の演奏会になだれ込むような勢いで楽しかった。文献の字面ばかり追っていたので歌には音が、話には会話が、言葉には伝える相手がいたことを、思い出させてくれた。

かつてサークルで長唄を習っていた私たち学生は、先生が演奏する曲をまねながら弾いた。部員が少なくなつて先生が部室にいらっしゃらなくなつてからは、私たちは、先生のご自宅までぞろぞろとお三味線を持って伺つたものだった。ご自宅に上がると、先生と向かい合わせになるように学生達は横に並んで座つて、先生が弾く三味線に合わせて弾いて歌う。向かい合わせの距離は近くて、先生の膝が手を伸ばせば届くくらいだった。お互に畳の上に正座しているので、目線も手振りも先生と同じ高さになる。先生は一曲全部を通してしまつたりせずに、少しづつ弾いて歌い、覚えたたらまた少し進むというやり方をなさつた。お稽古が終わると学生達は部室や自宅に帰り、次のお稽古まで譜面を見ながら練習する。譜面では分からなかつた実際の先生の演奏のポイントや合いの手の箇所を譜面に書き込んで、耳で覚えた節回しを思い出しながら何とかまねようとがんばつて練習する。

こうして越後獅子や勧進帳を全部通して弾けるようになった頃、ふとラジオやテレビで長唄の曲を耳にすると、あれつと思う。同じタイトルの曲なのに、こんな風に先生は歌わなかつたなあとか三味線の調子が違うなあ、と素人ながら思う。これは、私たちは「稀音家義丸先生の越後獅子」を習つたからで、教わつた先生が違えば曲も微妙に変わる。先生のなさる通りに覚えるのは伝統芸能の分野では珍しくない。先生もその上の先生から越後獅子を教わつただろう。こうして長唄の伝統は人と人がつないで継承されていく。今はすっかり忘れてしまつたけれど、当時は越後獅子をそらんじて歌えた。

\*

言語を学ぶときに辞書や文法書を使う。辞書に書いてある単語の発音を発音記号でまねたり、文章を読んだり書いたりするために文法を覚える。辞書や文法書はすべて本の形になつてるのでついつい書き言葉のように見てしまうけれど、もともとは長唄と同じ「歌や声や音」だ。

だから、こう言つたつていいだろう。耳で聴いた音楽を書き取つたものを、譜面と言つし、耳で聞いた言葉を書き取つたものは辞書だし、文章の読み方や書き方を教えてもらつて書き取つたものは文法書なのだ。

私が修士論文に提出して、その後、タシュルヒート語彙集として出版したことは前述したが、タシュルヒート語彙集をまとめた方法は、単語が道ばたに落ちていて拾つてきたのではないし、ニュースのアナウンサーが言った言葉と友達のハディージャが言った言葉をアルファベット順に並べたのでもない。タシュルヒート語彙集は、私がハーシミー先生と

一対一で、Aspinonの文法書にある一語一語のすべての意味をハーシミー先生に尋ねて書き取ったものをまとめたものだ。単語を尋ねて、意味を訊いて、次の単語も聞いて、ノートに書いて、最後に一冊にまとめた。だから、タシュルヒート語彙集は譜面と同じ「聞いた言葉を書き取った資料」である。私が「稀音家義丸先生の越後獅子」を習ったのなら、私は「ハーシミー先生の何を」習ったことになるだろうか。

過去の文献に欠落している点は、ここにある。辞書や文法書というものは「聞いた言葉を書き取った資料」である以上、「誰から」聞いたのか、「誰の」言葉を書き取ったのか記す必要があったのにその点を重視しなかった。長唄を覚えて歌って上達すれば師匠となって弟子に継承していくだろう。師匠の芸のまるうつしを次の弟子に伝えていく。伝統と継承によってはぐくまれていくものを私は、文化だと思っている。

「誰の」「誰から」が欠落した辞書や文法書は、書名に言語が掲げられても、継承すべき価値のない、伝統とはかけ離れた、ちまたを賑わしているあのパナマ文書と同じ、ただの文書でしかない。それに対して、中野暁雄は序文に次のように書いた。「この話をしてくれた人は、ラハセン・アフーシュ氏という名前の1972年当時二十四才の男性である。モロッコのタスリルト部族の出でティヌズッギート村がこの人の故郷である」。中野暁雄は「ラハセン・アフーシュ氏から」聞いた話をシルハ語で書き、私はそれを日本語に訳した。

## 第12章 日本語訳の重要性：感情移入されない日本語訳につとめたこと

日本語に訳すとすらすら読める利点がある一方で、日本語の粗が目立ってくる。日本語を整理して読みやすい文にし過ぎると私の書いた文章になってしまう。私の書いた文章というのは、つまり、本稿の冒頭からずっと書き綴ってきたこの文章であり、出産成長記録のことである。こなれた日本語にしようとすると私の文章に近づいて、最後は、私の出産成長記録の「続き」になってしまうだろう。読みやすい日本語に変えた日本語訳は、本稿の文章のあとにさらに続く「私の経験の続き」のように読めてしまう。

前述の私の井戸の経験談と日本語訳は、どちらも「私、俺」という主語で話が語られるが、この二つの話の決定的な違いは「感情移入」の有無である。たとえば、研究者が村や町を訪れて体験を綴った文章があるとしよう。おそらく、私の井戸の話と同じような内容になるだろう。研究者でなくてもいい。旅行者が見てきたことを振り返って文章に残す。私が井戸の話を書いたように、喜んだり驚いたりする感情を交えながら記録する。中野先生も村に行って「ラハセン・アフーシュ氏」に会った経験を記録すればいい。「僕はこういうものを見聞きしました」と残せばいい。しかし、実際は「ラハセン・アフーシュ氏から」聞いた話を書き取った。

その書き取った文章の中に、中野は一人称で登場しない。中野はラハセン・アフーシュ氏から「おまえ」と呼びかけられる対象である。一人称は「ラハセン・アフーシュ氏だけ」で、中野を指す二人称はあるが、「中野暁雄自身の言葉」はない。だから、中野自身が感じた「中野暁雄の感情」が書き留められることはない。そこが、私の井戸の話と決定的に異なる点だ。

冒頭から続く私の話は、私の経験を綴ったものだ。私は私の経験を書いた。一方、ラハセン・アフーシュ氏の話を書き留めた中野暁雄の文章には、中野暁雄の経験は綴られない。両者の文章を、感情というキーワードで比べたとき違いが判明する。私は私の感情たっぷりの文章を書き、一方、中野暁雄はあたかも「ラハセン・アフーシュ氏の話」を録音したカセットデッキかタイプライターのような機械だ。

その重要性は、感情のない「文章」を書いたということに尽きる。私が書く文章は、私の感情だらけになる。自分がその場所にいるのに、自分が書いているのに、自分のいない文章を中野暁雄は書いた。その重要性がわかったとき、だから中野暁雄はシルハ語だけで記録したのだし、私は訳す日本語を読者に感情移入されないような文章にすることに専心しなければならなかった。そこに、元の本の意味があると気づいたからだし、私はそれを日本語に訳して初めて知り得た。

## 補足 (1) 用語の説明

本稿の用語は読みやすさを第一に、モロッコの言語名としては、シルハ語（タシルヒート）、タマジグト語（タマジグト）、リーフ語（タリーフィート）を用いた。詳細は下記の「シルハ語」の項目を参照してほしい。モロッコ以外では、カビール語（タクビルト、カビーリ語）、シーワ語、トゥアレグ語の言語名を用いた。その他のベルベル諸語は、本稿では具体的な言語名を出していない。

トゥアレグ語は、アラブ人が「トゥアレグ人の話す言語」を「タルグラ語」と呼んだというのが由来で、実際は、おののの地域の集団名の自称を、そのまま言語名として使っているといい、「タルグラ」はアラビア語の「タラカ」で「神から見捨てられた」の意味が語源と書いてある (Dubeyrier 1864)。他にも、アラビア語の「ターラファ」から「夜盗をしかける奴ら」が語源という説など (Hanouteau 1906)、まだ他にも諸説ある (Aymard 1911)。19世紀の研究書では「タワリク、トゥアリク、タルヤ」「タルガド、タルギー、タルキー」「スドルジャ」「トゥフネク」等を言語名に用いている。トゥアレグ語とさらに細かい方言に関しては、勉強不足でこれ以上の説明ができない。以下を参照（「ベルベル語派」中野暁雄 1992）。

「リビヤ」「リビア」「リビコ」「リビック」などの「リビヤ語」を示す名称は、研究書によって異なっている。考古学、歴史学、言語学の学問上の見解に基づいて研究者が使用しているために地域・時代・対象が異なり、同じ事柄を指しているとは言えず、出典のままカタカナにした。

以下に、文献から引用して用語の説明を列挙する。辞書や事典からの引用は、項目をそのまま見出しに用いた。書籍からの引用は、私がキーワードを拾って見出しにした。多くの書籍の中から関係するものを選んでいる。が、おそらく重要な書籍を見落としているかと思う、申し訳ない。見出しは、五十音順に並べている。私が翻訳したものは（翻訳）とした。抜粋したものは（抜粋）、文中を省略したものは（中略）とした。

念を押すが、これらの用語や人名は、元の本 (Nakano 1994, 1995, 1998) とは無関係である。同様に、日本語訳の用語説明でも全くない。

### アルファベット

黒田和彦 「アルファベット」『世界考古学事典 上』45-46頁、平凡社。1979.

alphabet 表音文字の一種で、原則として1字1音を表す文字。文字の数がきわめて少ないので特徴で、字画も簡便化されている。エジプト象形文字にもアルファベットが認められるが、アルファベットの祖型は前1800～1600年のシナイ文字に求めら

れる。シナイ文字は32の記号からかなり、右から左に書かれ母音が記されなかった。前1600～1400年のウガリト楔形文字は27文字からなるアルファベットであった。シナイ文字から北セム系のフェニキア文字、アラム文字、南セム系のアラビア文字、エティオピア文字が派生した。（抜粋）

## アラム文字

香山陽坪 「アルファベット」 『世界考古学事典 上』 41 頁、平凡社。1979.

Aram 古代西アジアで使われた表音文字の一種。フェニキア文字から、西方の古ギリシャ文字と東方のアラム文字が分かれた。このアラム文字から西アジア、中央アジアのいくつかの民族の文字がつくられた。（中略）そのほかアラム文字に起源するものにヘブライ文字、ナバタNabata文字があり、アラブ文字は後者に由来する。元来、アラム文字は母音を表す文字がなかったが、後にそれを表す記号や文字がつくられたものもある。

## カプサ新石器文化

藤本強 「カプサ新石器文化」 『世界考古学事典 上』 213頁、平凡社。1979.

Capsa 北アフリカ西部、マグレブ（チュニジア、アルジェリア、モロッコ）にひろがる新石器文化。カプサ文化の伝統を色濃く残しながら、新来の要素として、土器と農耕・牧畜などの新しい生活様式を取り入れた文化である。文献：Vaufrey, R. 1955.（抜粋）。

## カプサ文化

藤本強 「カプサ文化」 『世界考古学事典 上』 213頁、平凡社。1979.

Capsa 北アフリカ、チュニジアとアルジェリアの内部に分布する中石器文化。リビヤのキレナイカにも類似の内容をもつリビコ・カプサ文化とよばれる文化が発見されている。チュニジアのガフサGafsaの近くのメクタが1909年にJ.de モルガンによって紹介され、この時ガフサのローマ時代の名称であるカプサにちなんでこの名がつけられた。カプサ文化の研究はフランスで主として行われてきた。（中略）カプサ文化はかつて旧石器文化とみなされ、オラン文化とともにヨーロッパの幾何学形細石器をもつ諸文化の起源となる文化と考えられていたが、研究の進展とともに中石器時代の文化であることが明らかになり、ヨーロッパの幾何学形細石器をもつ諸文化とは別個の発展をしてきた。オラン文化との関係も、時期・文化伝統・自然環境の差によるなどとする種々の意見が出されているが、定説はない。アフリカ内部、西アジアに求めようとするものがあるが、現状では、どちらの説得力に乏しい。今後

の周辺地域の進展が待たれる。なお、東アフリカのケニヤ・カプサ文化とは全く別な文化である。Vaufrey, R. 1955.

### 古代リビア語、古代リビア人、リビア文字、ベルベル人、イマジゲン

栗田伸子・佐藤育子 「第五章上陸した「帝国」」『興亡の世界史 第03巻 通商国家カルタゴ』177-178頁、講談社。2009.

マウリ一人、ヌミディア人、アフリカ人はいずれもカルタゴが立地する北アフリカの先住民の呼称で、大まかに言えばマウリ一人が、一番西（現在のモロッコのほう）に、アフリカ人（ギリシア史料ではリビア人）が一番カルタゴに近いあたり（現在のチュニジア、リビア）に、ヌミディア人がその中間（現在のアルジェリア付近）に分布していたと考えられている。ただし「アフリカ（リビア）人」にはアフリカ大陸に住む人の全体を指す広義の用法もあるのだが。

これらの人びとは古代リビア語という共通の言語を話し、このうちヌミディア人の領域からは彼らの文字（リビア文字）で記された碑文も出土している。これら古代リビア語を話す先住民はカルタゴ時代、ローマ時代を生き延び、その後のアラブ人の到来によりイスラム化されつつ現在の北アフリカの「ベルベル系」の住民につながつていったと考えられている。

ベルベル人といえば、サハラ砂漠のオアシスの民トゥアレグなどが例として思い出されるであろうが、実は「ベルベル人」という名は侵入者達が彼らを呼んだ蔑称に近い言い方で、彼ら自身は誇りをこめてイマジゲンと名のる。（抜粋）

### シルハ語

中野暁雄 「シルハ語」『言語学大辞典 世界言語編第2巻』271-277頁、三省堂。1989.

英Shilha,仏chleuh 主として、北アフリカ、モロッコの南西部のスース (Soûs) 平原を中心に、高アトラス (Haute-Atlas) およびアンティ・アトラス (Anti-Atlas) 山脈地域のベルベル (Berbère) 系の住民によって話される、アフロ・アジア語族、ベルベル語派に属する言語。自称は、タシルハイト語 (tašəlhayt)。アラビア語では、Šəlhə[ʃəlhə]が当てられる。下位方言間の差は非常に少ない。全使用人口は、約200万人である。

ごくわずかの資料を除いて、シルハ語、ひいてはベルベル語全体は文字で書かることなく、口語言語といってよい。ただし、伝承されている詩には、通常の会話にない詩語（または、雅語）の語彙が見いだせる。（中略）

3) 数詞 シルハ語は、トゥアレグ語と並んで、4, および、それ以上の数詞が、他のベルベル諸語のようにアラビア語からの借用語ではなく、本来のベルベル語の形式を有している。 (抜粋)

## タシルヒート

Boucous, Ahmed. 『*Revitalisation de la Langue Amaïghe Défis, Enjeux et Stratégie*』 Série:Etude No.22, Rabat, 2012.

tachelhite モロッコのタシルヒート、タマジグト、タリーフィートの3言語の地域は、モロッコ南部から北部に位置する。高等計画委員会の2004年の統計によると、各方言話者の割合は、アマジグ言語話者人口全体の、52%、31.2%、16.7%であり、全人口の28%にあたる。タシルヒート（シルハ）語地域は、オートアトラス西部、アンティアトラス、バニー山、スース地方、ドラア渓谷の一部である。（中略）タシルヒート語地域の中心的都市は、アガディール、タルーダント、ティズニット、ビオグラ、タルーダント、ワルザザート、イミンターヌートなどである。加えて、タシルヒート語話者は、カサブランカ、マラケシュ、ラバト、サレ、フェズ、メクネス、タンジェ等の大都市へ出て暮らすことでも知られている。それは、西ヨーロッパまでも含む。タマジグト（ブラベル）語地域は、モワイヤンアトラス、オートアトラスの東側、グリス渓谷、ジーズ渓谷、アイヤーシー山とサグロ山に挟まれた牧草地帯である。

（中略）タマジグト語地域の中心的都市は、メクネス、フェズ、ハミーサート、アズル、ケニフラ、ミデルト、ラシディアである。（中略）タリーフィート語地域は、アルホセイマからナドールまでの地中海沿岸の山岳地帯で、タザ渓谷の北側と南側に広がっている。西は、ジュバラまでである。タリーフィート語の中心的都市は、ボッコヤ、イト・ワリアゲル、テンサマン、イト・トズィーン、イカリーン、イクブダン、イグズナイン、イト・ワライン、スレールのセンハジャなどである。タリーフィート語話者は、スペイン、ベルギー、オランダ、ドイツなどの大都市を移民・出稼ぎ先としている。（抜粋。フランス語から翻訳）

タッシリ・ナジェール、大サハラの岩面画、ドイツの探検家バルト、ロート、中石器時代、牛の時代、ラクダの時代、古代サハラ文字、古代ティフィナグ文字

木村重信 「アフリカの岩面画とイメージの機能」『新潮古代美術館8 ユーラシアとアフリカ』（木村重信他共著）97-100頁、新潮社。昭和57年。

十九世紀はアフリカにとって探検の世紀であった。D.リヴィングストンはカラハリ砂漠をこえてンガミ湖を発見し、またザンベジ河やモエロ湖を見出した。ニジェール河が東から西へではなく、西から東へ流れていることが判明したのは、M.パーク

の探検によってである。そのほか、H.クラッパートン、H.バルト、H.M.スタンレー、J.H.スピーク、R.カイエンなど、多くの探検家たちがアフリカ各地の未知の地域を踏査して、アフリカの地図の空白部を埋めていった。（中略）

アルジェリアのタッシリ・ナジェール山脈のタッシリとは、トゥアレグ語で「水流の多い台地」の意であり、かつては渓谷に水が流れ、樹木がはえ、動物が多く生息し、人間も大勢すんでいた。（中略）

ドイツの探検家バルトは一八五〇年にトリポリを発ち、フェザン（リビア）、タッシリ・ナジェール、アイール（ニジェール）、カウアル（モーリタニア）を踏査して、一八五五年に帰還した。この調査行において、彼は各地で多くの岩面画を見出したが、それらは一八四七年にアルジェリアのオラン南方で見出された刻画に酷似していた。（中略）世紀の変わり目にフランスの地質学者G.フランマンが南オランの岩面画を調べて、三つの段階にわけ、水牛など古い動物種と自然主義的様式によって特徴づけられる新石器時代岩面画、牛や馬によって特色づけられるリビア・ベルベル岩面画、そしてアラブ時代岩面画に区分した。その後、M.ブルナン、T.モーニ、H.ロート、G.バイユーなどによって、ホガール（アルジェリア）、アドラール・デ・ジフォラス（マリ）、ティベスティとエネディ（チャド）などでも次々と岩面画が発見された。（中略）

北部アフリカで碑文にラクダが初めてあらわれるのは、前一五〇年である。かくして「ラクダの時代」が始まり、岩面画にはラクダのほか、古代サハラ文字や古代ティフィナグ文字があらわれる。これらの文字は「馬の時代」の末期にあらわれたリビア文字から発達したものである。この期の岩面画の作者はトゥアレグ族である。（抜粋）

## タッシリ・ナジェール

ホークス、ジャケッタ 『図説 世界考古学地図』 22頁、原書房。1984.

サハラに、岩の線刻絵画が広く存在していることはずいぶん前から知られていた。しかし驚くべき膨大な量の絵画が発見されたのはつい最近のことである。東アルジェリアにあるタッシリ・ナジェールの大きな砂岩台地は、長さ805キロメートル、平均幅が56キロメートルもあるもので、ここに多数の絵画が描かれていた。（中略）

タッシリの岩絵が最初に見つかったのは、1933年、ラクダ会社の職員によるものであるが、しかし、世界の耳目を集めたのはアンリ・ロートの業績である。彼は1956年から1957年にかけての探検で、多数の岩絵のうつしをとり、そのうち美しいものは写真におさめた。（抜粋）

## ティフィナグ、フェニキア文字、トゥアレグ族

ジャン、ジョルジュ（矢島文夫訳）『文字の歴史』64頁、創元社。1990.

今日では、アラビア半島南部からエチオピア、サハラ砂漠にいたる各地に、フェニキア文字から発展した様々な文字が点在していたことが知られている。しかし、その大部分は消滅してしまった。わずかに残っているのは、エチオピアの文字と、サハラの民トゥアレグ族の文字だけである。トゥアレグ族の文字はティフィナグとも呼ばれ、幾何学的な字形に特徴がある。さらに珍しいのは、これが女性専用の文字だったことだ。母系性社会であるトゥアレグ族において、権力の象徴である文字は、やはり女性が所有していたのである。（抜粋）

## ティフィナグ文字

木村重信 「ティフィナグ文字」『世界大百科事典25』77頁、平凡社。1988初版発行、1995印刷。

alphabet Tifinagh[フランス] サハラ砂漠に住むトゥアレグ族の用いた文字で、〈ラクダの時代〉（前200年以降）の岩面彩画・刻画にあらわれる。先行する古代サハラ文字alphabet saharien ancienから派生した。古代サハラ文字との違いは、90度の転回、180度の転回による文字の加重（重複）、付属性的な記号（鉛直線、点、文字の端の二次的な変形）の付加などである。ティフィナグ文字はいわゆる牛耕式で、上下左右どちらから書き始めてもよいが、アドラール・デジフォラスの岩面彩画には下から上に向かうものが多い。古代ティフィナグ文字は発音することはできるが、まだ解読されていない。しかし時代の新しいものは、一部のトゥアレグ族が現在も用いているティフィナグ文字からある程度推測することができる。

## ティベスティ山地

木村重信 「ティベスティ山地」『世界大百科事典25』77頁、平凡社。1988初版発行、1995印刷。

Tibesti Mountains アフリカ中北部、チャド共和国北部にある山地。長さ500km、幅300kmで、最高峰はエミ・クーシ（3415m）。（中略）この山地には多くの先史時代の岩面画が遺存する。（中略）これらはサハラ岩面画群の一部を構成し、様式展開はエネディと共通する。

## トゥアレグ

鷹木恵子 「トゥアレグ」『岩波 イスラーム辞典』（大塚和夫・小杉泰・小松久男・東長靖・羽田正・山内昌之編）664頁、岩波書店。2002.

[Touaregフランス] おもにアルジェリア、モーリタニア、リビヤ、マリ、ニジェールのサハラ一帯とサヘル（サハラ沙漠南縁部）地帯で移動生活をしているベルベル系の遊牧民。単数形はタルギー。トゥアレグは、ベルベル言語集団のなかのタマシェク語を話す集団。ティフィナグという独自の文字も有する。1つの政治統合体を成したことではなく、主要な7集団から成る。（抜粋）

### トゥアレグ族

赤坂賢 「トゥアレグ族」『世界大百科事典25』511頁、平凡社。1988初版発行、1995印刷。

広大なサハラ砂漠を支配したベルベル系の遊牧民。人口は約50万と推定されるが、伝統的な遊牧生活を保っているのは、リビアとアルジェリアにまたがるタッシリ・ナジェール、その西のアハガル山地、ニジェールのイル山地、アルジェリアとマリにまたがるイフォラ山地に居住する1万人にすぎない。（中略）トゥアレグ族は、かつては略奪を行ったり、みずから砂漠を横断する隊商交易に従事していた。（中略）トゥアレグの言語はタマシェックといい、ティフィナグ文字という独特の文字を有している。縦書き・横書き自由のこの文字は、イフォラ山地でも現在も手紙に用いられている。

### ドゥッガ、トゥッガ、古代リビア語、ポエニ語、カルタゴ語

栗田伸子 「ドゥッガとヌミディア王権」『東京学芸大学紀要 第3部門50』117頁。1999.

ドゥッガ (Douga)はチュニス市の西南方約100km余りのチュニジア内陸に位置する集落である。古代ローマ時代にはトゥッガ (Thugga)と表記され、数々の神殿や公共建築、凱旋門、貯水施設等を備えた一大都市であったので、そのローマ期遺跡としての重要性はトラヤヌス帝のタムガディ (Thamugadi)市にも劣らない。（中略）この都市はローマ期以前、すなわちカルタゴ時代および古代北アフリカ先住民の王権であるヌミディア王国時代の遺構を含んでいる点で、北アフリカ古代史を連続的に解明する上での貴重な手がかりを提供していると思われる。とりわけ、この地で発見された古代リビア語とポエニ（カルタゴ）語の二ヶ国語併記の碑文二点は、リウィウス等のギリシャ・ローマ古典史料において印象的ではあるが半ば神話めいた描かれ方をしているヌミディア王国の初期の歴史についての第一次史料として、きわめて重要である。（抜粋）

### フェニキア・アルファベット、ポエニ語

グレン・E・マーコウ（片山陽子訳）『古代の民族シリーズ フェニキア人』145-151頁、創元社。2007.

今日の線文字的なアルファベットが紀元前二千年前にレヴァントのどこかで生まれたということにはだいたいの研究者が賛成しているが、正確な時代や場所についてはいまも盛んな議論がつづいている。シリア・パレスティナ地域のいったどこでアルファベットは発明され、どうやってフェニキア人に伝えられたのか？（中略）

二十二個の子音で構成されたフェニキア・アルファベットのよい証拠資料は、アヒラムの石棺のようなビュブロスの古い記念物である。すでにこの時代には文字の向きも形も定まり、横書きにすることも定着していた。読み書きの方向は右から左。ビュブロスの古い文書では、文章中の単語と単語が短い縦線で区切られている。しかしのちのフェニキアやカルタゴの文書では、単語どうしが切れ目なくつながり、行末ではしばしば勝手な位置で分割されている。（中略）

アルファベットの西方への伝達は、おそらく個人から個人へ直接ていねいに受け渡しされた結果だろう。あるギリシア人の受け取り人と、神官か書記か商人か職人かはわからないが、教養あるフェニキア人の配達人が、ひたいを寄せ合って協議したにちがいない。母音字を使うというギリシア人の画期的な工夫、しかもそれら母音字には、古代ギリシア語にはない子音を表していたフェニキア文字をあてるというきめ細かいやり方をみると、そういう仮定が支持されそうだ。（中略）

ポエニ語、すなわちカルタゴや北アフリカで使われたフェニキア語は独自の発展をとげて、前六世紀になるまでにはれっきとした方言になっていた。カルタゴのお膝元であるチュニジア北部ではさすがにポエニ語が広く使われたが、北アフリカの他の場所では、リビアやアルジェリアやモロッコ海岸に沿ったカルタゴ人の商都にほぼ限られていたようだ。（中略）

ポエニ語の発展にかんする研究は、資料不足のせいで難航している。前八世紀から前五世紀というカルタゴ初期の記録がないからである。

## ベルベル

宮治美江子「ベルベル」『世界大百科事典25』630-631頁、平凡社。1988初版発行、1995印刷。

Berber 北アフリカからサハラ砂漠にかけての広い地域に先史時代から生活する、ベルベル諸語を話す人々との総称。ベルベルという呼称は、ラテン語のバルバロスbarbarus（ローマ世界の外に住む文明化されていない人間を指す）に由来するともいわれる。彼ら自身は、イマジゲンImazighen（単数形Amazigh, 〈高貴な出の人間〉の意）などと自称する。（中略）現在のベルベル諸語人口の正確な数はわからない

が、北・西アフリカの10ヶ国以上に不均等に分布し、（中略）全体ではおそらく1000万人近い数と推定される。言語的には、ザナータ（ゼナータ）Zanāta系、サンハージヤŠanhāja系、マスムーダMašmūda系の3方言群に大別される。マスムーダ系は、モロッコのオート・アトラス西部のシルハによって代表され、サンハージヤ系は、アルジェリアのカビールやサハラ砂漠のトゥアレグ、モロッコの中部アトラス、オート・アトラス中央部の住民などである。ザナータ系は、リビアやチュニジアからアルジェリア（オーレス山地のシャウイアやガルダイア・オアシスのムザブなど）、モロッコのリーフ山地や中部アトラスの北部、オート・アトラスの東部などと広い地域に分布している。

最近の北アフリカ考古学の目覚ましい進歩にもかかわらず、ベルベルの起源や歴史については今なお不明な点が多いが、前6000年から前2000年にかけて、北アフリカに花開いた中石器のカプサ文化、カプサ新石器文化の担い手たちは、彼らの祖先と考えられている。カプサ人は、黒人の血が混じった地中海人種で、各地に独特の様式のおもしろい岩絵を残しており、サハラのアハガル山地のタッシリ・ナジェールの岩面画はことに名高い。（中略）独立後、例えばアルジェリアなどでは、国の政策としてのアラブ化が強力に推進される中で、歴史的な背景からみても決して周辺的な存在ではないベルベルが、少数派としての被抑圧者意識を抱き、自らの言語と文化的な独自性を主張し始めている。

### ベルベル語

山本謙吾 「ベルベル語」『世界大百科事典26』143頁、平凡社。1958.

アフリカの北西部より北東部へ、さらにアラビア半島にかけて従来ハム-セム語族とよばれ、再分類を試みるグリーンバーグGreenbergによって〈アフリカ-アジア語族〉Afroasiatic familyとよばれる一大言語群が分布するが、ベルベルBerber語は、セム語、古代エジプト語（死語）、クシ語、チャド語とともにその1語派をなす。概略400万人ほどの話し手を有し、図のような地域に分布する。（図は省略した。筆者注）

### ベルベル語

堀内里香 「126 ベルベル語」『事典 世界のことば141』514-517頁、大修館書店。2009.

ベルベル語という单一の言語はありません。個々のベルベル語は、話者の集団名で呼ばれます。言語を共有するひとまとまりの地域が1つの言語集団であり、1つの言語なのです。たとえばモロッコでは、モロッコ南部スース地方の話者集団が話すべ

ルベル語を、タシュルヒート（シルハ語）と呼びます。シルハ人が話す言語、という意味です。同様に北部リーフ地方のベルベル語をタリーフィート（リーフ語）、中部大アトラス地方のベルベル語をタマジグト（アマジグ語）と呼びます。（中略）

最新の研究では、アマジグには「肌の白い人」という意味があり、対してシルハ *ašlhi* は「肌の黒い人」という意味があったということや、また、「ベルベル」とは、「目だけを出してターバンを巻く」というベルベル語源の単語であり、自称であったのだ、と指摘する研究者がいます。

なお、「アマジグ語」とは、言語学で使う「ベルベル語」の代替名ではなく、モロッコで新たに整備された言語を指していることと、「アマジグ」にモロッコ中部大アトラス地方の話者集団（前述）を指す以外の用法がなかったことを付記しておきます。（抜粋）

## ベルベル語派

中野暁雄 「ベルベル語派」 『言語学大辞典 世界言語編第3巻』 954-961頁、三省堂。1992.

英Berber, 仏berbère, 伊berbero, 独Berberisch

[系統] セム諸語、古代エジプト語、コプト語、クシ諸語、チャド諸語などとともに、アフロ・アジア語族（Afro-Asiatic, グリーンバーグJ.Greenbergによる命名）を構成する1語派。アフロ・アジア語族は、長い間、セム・ハム（またはハム・セム）語族とよばれてきたが、ハム語そのものが歴史的に内的再構ができていないため、この名称を使う人は次第に減ってきている。（中略）

[名称] ベルベル語の標準語にあたるものは存在せず、それぞれのベルベル集団ないし地名に關係をもつ女性名詞が、固有言語ないし固有の方言の自称になっている。たとえば、アルジェリアのカビーリ(kabylie)地方のベルベルは[θ aqbayli θ]、モロッコ北部のリーフ地方のベルベルは[θ arify θ]と自称している。ただし、中部モロッコ方言では、集団の自称がイマズィグン (imaziɣən, 「はえぬきの自由民」の意) なので、これらと同語根のtamaziɣtまたはθ amaziɣθが、自らの言語を示すのに用いられる。また、サハラ南部のトゥアレグは、ここでの代表的な方言であるタマシェクまたはタマハク (tamašəqまたはtamāhaq) を、言語の自称にしている。

[下位分類] 「名称」で述べたように、ベルベル語全体に共通する標準語ではなく、下位方言に共通する「標準方言」も存在せず、多くの言語島が広い範囲に散在しており、方言を超える相互理解のためには、より強力なアラビア語マグレブ方言や、ハウサ語、フラニ語、ウォルフ語などが用いられているのが実状である。また、互いに理

解が完全と言ってよいほどの方言集団に属する人々の間でも、各方言の話し手は、各方言に囲い込まれた閉鎖的な輪の中で生活している。

以上のような状況ゆえに、ベルベル語派の下位分類をめぐる説は、次の2つに分かれている。

- 1) 「ベルベル系のことば」全体を1つの「ベルベル語」と定義し、その実体は、個々の方言および下位方言群が構成する、との説 (A.Basset) .
- 2) ベルベル語派は、いくつかの、比較的大きく、地理的に分布が密な言語 (シルハ語、タマズィフト語、トゥアレグ語) と、これより小さく、かつ散在している方言群／言語島をまとめた「集団言語」からなっている、との説 (Heine, Diakonoff) .

本項では、ほぼ後者の説をとることにする。

ディアコノフ (Diakonoff, 1988) は、次のように、ベルベル語を分類している (表記は、フランス語式) 。

1) シルハ語 (Chleuh) —モロッコ

2) タマズィフト語 (Tamazikht) —モロッコ

3) ゼナタ系言語 (Zenata)

リーフ語 (Rif) —モロッコ

カビーリ語 (Kabylie: または、ズワラ語Zouara) 、シャウイイヤ語

(Chawiya) 、オラン (Oran) 南部方言群—以上、アルジェリア

ジェルバ (Djerba) 方言、トゥマグルト (Temagourt) 方言、ズラワ

(Zraoua) 方言—以上、チュニジア

ヌフーサ (Nefusa) 方言、アウジール (Awdjil) 方言—以上、リビア

シーワ (Siwa) 方言—エジプト、など。

4) トゥアレグ語 (Touareg)

タマハク (Tamahak) 方言、タジュルト (Tajjert) 方言—以上、アルジェリア  
南部

タユルト (Tayert) 方言—ニジェール

イフォラス (Iforas) 方言—マリ

タウルムト (Tawellemett) 方言—ニジェールからマリ、など。

5) ゼナガ語 (Zenaga) —モーリタニア最南部からセネガル (中略)

[文字] 歴史資料としてのベルベル語は、このリビア・ヌミディア語 (Libico-Numidian) による、ローマ時代のものだけであり、それは、現在のリビア、チュニジア、アルジェリアから出土する碑文の言語である。その内容は、ギリシア語、ラテン語との二重言語表記がなされている碑文、および現在のベルベル語の知識から理

解することができる。この言語に用いられたリビア文字は、現在、サハラでトゥアレグ族が非公式に用いるティフィナグ文字 (tefinay, 単数はtafnaq-t. 語源的には、Punica 「ポエニ」か?) にそのまま受け継がれ、主として、トゥアレグ文化の伝承者である貴族の女性によって保たれてきた。 (中略)

なお、リビア・ヌミディア語が現代のベルベル語の祖語と言いきれるか否かは論が分かれており、ベルベル人の故地は、果たして北アフリカなのかという問題 (文法事象から、ベルベル語派、セム語、特にアッカド語と近縁関係にあるとの論も出ている) とともに、まだ解決されていない。 (中略)

2) 借用語 前述のように、ベルベル語には、トゥアレグ語を除けば、アラビア語からの借用語が多い。逆に、サハラの南のトゥアレグ語の動・植物名には、ソンガイ語、ハウサ語からの借用がみられる。

しかし、これらの言語からでなく、古い時代、ベルベル人は地中海のアフリカ側で、ローマ人とも言語接触をしていたので、口語ラテン語からの借用もみられる。 (抜粋)

## ベルベル諸語

松下周二 「ベルベル諸語」 『世界大百科事典25』 631頁、平凡社。1988初版発行、1995印刷。

Berber アフロ・アジア語族 (ほぼ旧来のハム・セム語族に相当。〈アフリカ〉の項の[言語]を参照) の下位グループで、北アフリカからサハラにかけて分布している。東端に分布するのはエジプトのシワ・オアシスのシワ語Siwaで、リビアのソクナ語Sawknah、チュニジアのジェルバ語Jerba、アルジェリアではサハラのムザブ語Mzabi、海岸山地のカビール語Kabyleがある。モロッコでは、リフ山地の多くの方言 (Riff) 、タマジット語のTamazight、シルハ語Shilhaがあり、モーリタニアに入つてゼナガ語Zenagaがある。また、サハラからナイジェリア、マリにかけての広い地域に分布しているトゥアレグ族の言語 (タマシェクTamashekと呼ばれる) は、独自のティフィナグ文字という文字体系をもつていて、死語となった、カナリア諸島のグアンチエ語Guancheは、口笛を用いて発話することができ、長距離通信に役立たせていたといわれる。

ベルベル語を話す人びとは、現在ではそのほとんどが、アラビア語との二重言語使用者である。

## ベルベル人

井上幸治 「ベルベル人」 『世界大百科事典26』 143頁、平凡社。1958.

北アフリカに住む人種。東はエジプトのシワ、西は大西洋、北は地中海、南はニジェールの広い地域に分布し、この地域の住民の約1/3、600～700万人をしめている。アルジェリアでは30%、モロッコでは45%をしめている。ベルベルBerbersという名は、ローマ時代にローマ世界外の民族を〈バルバロス〉Barbarusとよんだことから由來したという説がいちおう有力であるが、みずからは〈イマジゲン〉Imazighenと呼んでいる。これは〈高貴な出身者〉という意味で、ベルベル人のなかの支配的種族が使用したものであろう。しかしひベルベル人は厳密にいうと〈ベルベル語族〉であって、人種学的な統一体ではない。（抜粋）

### リビア Libya, [エジプト語]

近藤二郎 「リビア」 『古代オリエント事典』 日本オリエント学会編、岩波書店。2004.

古代史においては、エジプトの西方に隣接する地中海沿岸地域を漠然と示す名称。リビアの名は、ギリシア神話に登場するエバポスとメムピスの娘であるリュビアに由来、地中海の向こう側を意味。西部砂漠に住む人々はチエヘヌウとよばれ、（中略）第5王朝のサフラー王に記録がある。その後、新王国時代になるとメシュウシュ、リブという名の人々が住みデルタ地帯への定住を試みたが失敗に帰す。（抜粋）

### リビコ・カプサ文化

藤本強 「リビコ・カプサ文化」 『世界考古学事典 上』 1153頁、平凡社。1979.

C.B.M.マクバーニーがハウア・フテアの調査結果をもとにして設定した中石器文化。リビヤにひろがっていると考えられている。マクバーニーによればカプサ文化がリビヤに影響をひろげ、そこにあった東オラン文化と接觸した結果できあがった文化ということであるが、幾何学形細石器の形が半月形（リュナート）であること、バックド・ブレード、ビュラン、スクレーパーなどのつくりの差など、カプサ文化との差はかなりある。むしろオラン文化との関連を考えるべきであり、この名称が適當かどうか問題は残る。文献 McBurney, C.B.M. 1967.

## 補足 (2) 人名

聖心女子大学で非常勤講師をしていたときに、講師控え室が史学科研究室だったので書棚を自由に拝見することができた。一般的に、非常勤講師の資格では研究室の蔵書を見るることはできないので大変ありがたかった。その時に見たのが『*Larousse Trois Volumes en Couleurs*』 vol.1-3. Librairie Larousse, Paris. 1966, 1970. で、講師在任中に調べた人名だけであるが下に挙げる。この『*Larousse*』にあるシルハ語やティフィナグ文字に関わる人物の略歴の一部を、フランス語から翻訳した。本稿で名前の挙がったBarth、Destraing、Hanouteauは載っていなかった。以下、アルファベット順に並べる。これらは本稿を読んでいただく便宜のために紹介するだけで、元の本 (Nakano, 1994, 1995, 1998) および日本語訳とは無関係である。

Basset (René)・・・フランス人の東洋語学者。1855-1924年。アルジェ没。アルジェ大学のアラビア語教師。Henri (1893-1926. ラバト没) は弟、André (1895-1956) は息子。三人ともマグリブ研究書を出版している。

Duveyrier (Henri)・・・フランス人旅行家。1840-1892年没。Barthの調査隊に参加、1859年トゥグルト、1861年ムズルークに到る。

Flatters (Paul)・・・フランス人将校。1832-1881年没。サハラ輸送路を開拓。2度の遠征でトゥアレグ人の壊滅に貢献した。

Foucauld (Charles, Eugène, Vicomte de, puis le P. de)・・・フランスの探検家、宗教家。1858-1916年タマンラセットで死去。アルジェリアで将校としてすばらしい活躍をしたのち、モロッコで科学ミッションに参加 (1883-84)。1886年トラピスト派宗教家に転向して、南アルジェリアに入り1905年タマンラセットに到達。

Foureau (Fernand)・・・フランス人探検家。1850-1914年パリで死去。サハラ沙漠の科学研究に従事。1888年から1896年のあいだに9回遠征を行う。1906年コモロ総督に就任。

Lenz (Oskar)・・・ドイツ人の地質学者、旅行家。1879年から1880年にかけてモロッコ、トゥンブクトゥを踏破。

Nachtigal (Gustav)・・・ドイツの旅行家。1834-1885年ギニア湾で死去。ティベスティに入った最初のヨーロッパ人。

Richardson (James)・・・イギリス人探検家。

Rohlf (Gerhard)・・・ドイツ人探検家。1831-1896年没。

## 参考文献リスト

### ①外国出版文献

- Ameur, Meftaha (et al.) 2004 *Initiation à la Langue Amazighe :Série -Manuels-N° 1-*. Rabat, Publications de l’Institut Royal Culture Amazigh, Centre de l’Aménagement Linguistique (CAL).
- Aspinon, Robert 1953 *Apprenons le Berbère :Initiation aux Dialectes Chleuhs*. Rabat, Félix Moncho. 本稿に記載
- Avezac, M. de. 1840 “Note sur Quelques Itinéraires de l’Afrique Septentrionale”. *Bulletin de la Société Géographie, Deuxième Série, Tome Quatorzième*. Paris, Chez Artus-Bertrand. (PDF) 本稿に記載
- Aymard, (Le Capitaine) 1911 *Les Touareg*. Paris, Librairie Hachette Et Cie. (PDF) 本稿引用
- Barth, Henry.D.C.L. 1857. 1858. 1859. 1861. 1890. *Travels and Discoveries in North and Central Africa :Being a Journal an Expedition, in the Years 1849-1855, Vol.I-V*. New York, Harper & Brothers. (PDF)
- Basset, René 1883 “Notes de lexicograhie berbère”. *Journal Asiatique , Avril-Mai-Juin*. (PDF)
- 1884 “Notes de Lexicograhie Berbère :le Dialecte des Beni Menacer”. *Journal Asiatique , Novembre-Décembre*. (PDF)
- 1885 *Notes de Lexicograhie Berbère :Extrait Journal Asiatique*. Paris, Imprimerie Nationale. (PDF) 表11
- 1887 *Manuel de Langue Kabyle (Dialecte Zouaoua) :Grammaire, Bibliographie, Chrestomathie et Lexique*. Paris, Maisonneuve & Ch.Leclerc. (PDF)
- 1890 *Le Dialecte de Syouah*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- 1890 *Loqmân Berbère avec Quatre Glossaires et une Étude sur la Légende de Loqmân*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- 1893 *Étude sur la Zenatia du Mzab de Ouargla et de l’Oued-Rir’*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- 1895 *Étude sur la Zenatia de l’Ouarsenis et du Maghreb central*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- 1901 *Moorish Litterature, Comprising Romantic Ballads, Tales of the Berbers, Stories of the Kabyles, Folk-Lore and National Traditions*. New York, The Colonial Press. (PDF)

- 1908 *Grammaire, Dialogues et Dictionnaire Touaregs, Tome Premier*. Alger, Imprimerie Orientale Pierre Fontana. (PDF) 表20-1, 20-2
- Bates, Oric 1914 *The Eastern Libyans : an Essay*. London, Macmillan and Co. Limited. (PDF)
- Bazin, René 1912 *Charles de Foucauld : Explorateur du Maroc Ermite au Sahara*. Paris, Librairie Plon. (PDF)
- Benhazara, Maurice 1908 *Six Mois Chez les Touareg du Ahaggar*. Alger, Typographe Adolphe Jourdan. (PDF)
- Bétrix, J.J.C.L.A (Chef)? 1911 *La Pénétration Touareg*. Paris, Henri Charles-Lavauzelle. (PDF)
- Bissuel, H. 1888 *Les Touareg de l'Ouest*. Alger, Adolphe Jourdan. (PDF) 表10
- Blanchère, M.-R. De La. 1890 *Musée et Collections Archéologiques de l'Alger et de la Tunisie*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- Boissonnet, E.-L. 1845 “Extrait d'une Lettre de M.Boissonet à M.de Saulcy”. *Journal Asiatique, Août*. Paris. (PDF)
- Boukous, Ahmed 2009 *Phonologie de l'Amazighe, Série :Etudes N°10*. Rabat, Publication de l’Institut Royal de la Culture Amazighe. (PDF)
- 2012 *Revitalisation de la Langue Amazighe :Défis, Enjeux et Stratégies, Publication de l’Institut Royal de la Culture Amazighe, Série :Etude N° 22*. Rabat. (PDF) 表3
- Boukris, Fatima (et al.) 2008 *La Nouvelle Grammaire de l'Amazighe, uer Grammaire Série :Manuels-N° 2-*. Rabat, Publications de l’Institut Royal de la Culture Amazighe , Centre de l’Aménagement Linguistique. (PDF)
- Brosselard, Henri 1886 *Voyage de la Mission Flatters au Pays Touareg Azdgers*. Paris, Librairie Ch. Delagrave. (PDF)
- 1889 *Les Deux Missions Flatters au Pays des Touareg Azdgers et Hoggar, Deuxième édition*. Paris, Jouvet et Cie. (PDF)
- Camps, Gabriel 1988 “Espaces berbères”. *Revue de l’Occident Musulman et de la Méditerranée*, N° 48-49. pp.38-60. (PDF)
- Chabot, Jean-Baptiste 1916 “Sur Deux Inscriptions Puniques et une Inscription Latine d’Algérie”. *Comptes Rendus des séances de l’Académie des Inscriptions et Belle-Lettres*, 60e année , N°3. (PDF)
- 1939 “Sur une Inscription Libyque de Musée d’Alger”. *Comptes-Rendus des Séances N°4*. pp.401-406. (PDF)
- Chaker, Salem 1972 “La Langue Berbère au Sahara”. *Revue de l’Occident Musulman et de la Méditerranée*, N°11. pp.163-167. (PDF)

- 1976 “Prasse(Karl-G.), Manuel de Grammaire Touarègue (Tahaggart)”. *Revue de l'Occident Musliman et de la Méditerranée*, N°21. pp.187-190. (PDF)
- 1984 *Textes en Linguistique Berbère :Introduction au Domaine Berbère*. Paris, Editions du CNRS. 表17
- 1989 *Berbres Aujourd'hui*. Paris, L'Harmattan.
- 1981 “Donées sur la Langue Berbère à Travers les Textes Anciens :La Description de l’Afrique Septentrionale d’Abou Obeïd El-Bekri”. *Revue de l’Occident* N° 31, 1981-1. pp. 31-46. (PDF)
- 2002 “L’Écriture Libyco-Berbère :État des Lieux, Déchiffrement et Perspectives Linguistiques et Sociologiques”. *Colloque Annuel de la Shesl, Lyon-Ens, Samedi 2 Février 2002*. (PDF)
- Chamberlaynio, Joanne 1715 *Oratio Dominica in Dibersas Omnium Fere Gentium Linguas*. Amsterdam, Guilielmi & Davidis Goerei. (PDF)
- Cherbonneau, Auguste 1881 “Inscription Libyque Trouvée à Karkab, près de Saïda”. *Comptes Redus des Séances de l’Académie des Inscriptions et Belle-Lettres*, 25e Année, N°2. pp.95-97. (PDF)
- Cid kaoui 1907 *Dictionnaire Français-Tachelhit et Tamamazir’ :Dialectes Berbère du Maroc*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- Dallet, J.-M. 1982 *Dictionnaire Kabyle-Français :Parler des At Mangellat Algerie*. Paris, SELAF(Société d’Études Linguistiques et Anthropologiques de France).
- Déjeux, Jean 1978 *Les Chaiers du C.R.E.S.M. N°.7 :Bibliographie de la Littérature “Algérienne des Français”*. Paris, Editions du CNRS. 本稿に記載
- 1983 *Dictionnaire des Auteurs Magrébins de Langue Française*. Paris, Karthala.
- Delaporte, Joseph 1740 *Le Voyageur Fraçois, ou la Connaissance de l’Ancien et du Nouveau Monde, tome XI*. Paris, L.Cellot. (PDF)
- Demoulin, F. 1931 “L’exploration du Sahara”. *Annales de Géographie*. 1931, Tome 40, N°226. pp. 337-361. (PDF) 本稿に記載
- Denham, F.R.S.Dixon. & Clapperton, Hugh. & Oudney, Walter. 1826(2ème éd.) *Narrative of Travels and Discoveries in Northern and Central Africa, in the years 1822, 1823 and 1824, vo.II*. London, John Murray.
- 1828(3ème éd.) *Narrative of Travels and Discoveries in Northern and Central Africa, in the years 1822, 1823 and 1824, vo.I*. London, John Murray. (PDF) 表7-1 本稿に記載
- Derrécagaix, V.-B. 1882 *Exploration du Sahara :Les Deux Missions du Lieutenant-Colonel Flatters*. Paris, Gallamel Ainé. (PDF)

- Destraig, Edmond 1907 *Étude sur le Dialecte Berbère des Beni-Snous*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- 1914 *Bulletin de Correspondance Africaine, Tome.XLIX :Dictionnaire Français-Berbère (Dialecte des Beni-Snous)*. Paris, Publications de la Faculté des Lettres d'Alger, Ernest Leroux. (PDF)
- 1920 *Étude sur la Tachelhît de Souès :Vocabulaire Français-Berbère*. Paris, Ernest Leroux.
- 表1 本稿に記載
- 1937 *Textes Arabes en Parler des Cheuhs du Sous (Maroc) :Transcription, Tranduction, Glossaire*. Paris, Imprimerie Nationale, Librairie Orientaliste Paul Geuthner.
- Dieterlen, Germaine & Ligers, Ziedonis. 1972 “Contribution à l’Étude des Bijoux Touareg”. *Journal de la Société des Africanistes, Tome 42, Fascicule 1.* pp.29-53. (PDF) 本稿に記載
- Dugas, Guy 1981 *Les Chaiers du C.R.E.S.M. N°13 :Bibliographie de la Littérature “Tunisienne” des Français*. Paris, Editions du CNRS. 本稿に記載
- Duveyrier, Henri 1864 *Exploration du Sahara :les Touareg du Nord, Tome Premier*. Paris, Challamel Ainé. (PDF)
- El Mountassir, Abdallah 1999 *Initiation au Tachelhit :Langue Berbère du Sud du Maroc, ra nsawal Tachelhit*. Paris, Langues Mondes-l’Asiathèque.
- Fermé, Albert 1900 *Les Touareg*. Paris, Librairie Paul Ollendoroff. (PDF)
- Foucauld, Vicomte Ch. de. 1888 *Reconnaissance au Maroc*. Paris, Challamel et Cie. (PDF)
- 1951 *Dictionnaire Touareg-Français :Dialecte de l’Ahaggar, Tome Premier*. Imprimerie Nationale de France. (PDF) 表16-1
- Galand, Lionel 1973 “Libyque et Berbère”. *École Pratique des Hautes Études, 4e Section, Sciences Historiques et Philologiques, Annuaire 1972-73.* pp.167-180. (PDF)
- 1973 “L’alphabet Libyque de Dougga”. *Revue de l’Occident Musliman et de la Méditerranée, N°13-14.* pp.361-368. (PDF)
- 1974 “Libyque et Berbère”. *École pratique des Hautes Études, 4e Section, Sciences Historiques et Philologiques, Annuaire 1973-1974.* pp.161-170. (PDF)
- 1978 “Libyque et Berbère”. *École Pratique des Hautes Études, 4e Section, Sciences Historiques et Philologiques, Annuaire 1977-1978* . pp.199-212. (PDF)
- 1979 *Langue et Littérature Berbères :Vingt Cinq Ans d’Études*. Paris, Editions du CNRS. 本稿に記載
- 1985 “Libyque et Berbère”. *École Pratiques des Hautes Études, 4e Section: Sciences Historiques et Philologiques, Livret 2. Rapports sur les Conférences des Années 1981-1982 et 1982-1983.* pp.53-54. (PDF)

- 1989 "Les Alphabets Libyques". *Antiquité Afriqaines*, N°25. pp.69-81. (PDF)
- 2008. 2009. 2010. 2011. 2012-2013. "Epigrahe Libyco-Berbere, la Lettre de Rilb, Répertoire des Inscriptions Libyco-Berbère". *Ephe-Section des Sciences Historiques et Philologiques-à la Sorbonne*, N°14, 15, 16, 17, 18-19. Paris. (PDF)
- Hanoteau, A. 1906 (2ème éd.) *Essai de Grammaire Kabyle Renfermant le Principes du Langage Parlé par les Populations du Versant Nord Jurjura et Spécialement par les Igaouaouen ou Zouaoua Suivi de Notes et d'Une Notice sur Quelques Inscriptions en Caractères Dits Tifinhar' et en Langue Tamacher't*. Alger, Typographie Adolphe Jourdan. (PDF) 表14-1、表19
- 1867 *Poésies Populaires de la Kabylie du Jurjura :Texte Kabyle et Traduction*. Paris, L'Imprimerie Impériale. (PDF)
- 1896 (2ème éd.) *Essai de Grammaire de la Langue Tamachek' :Renfermant les Principes du Langage Parlé par les Imouchar' ou Touareg, des Conversations en Tamachek', des fac-simile d'Écriture en Caractère Tifinhar' et une Carte*. Alger, Librairie Adolphe Jordan. (PDF) 表15-1 15-2
- Harris, Walter B. 1895 *Tafilet :The Narrative of Journey of Exploration in the Atlas Mountains and the Oases of the North-West Sahara*. Edinburgh and London. William Blackwood and Sons.
- Hartmann, Joannes Melchior 1796 *Edrisii Africa*. Altori Mvnifico. (PDF) 本稿に記載
- Hodgson, Williamb 1829 "Grammatical Scketch and Specimens of the Berber Language :Preceded by Four Letters on Berber Ethmologies, Adressed to the President of the Society by William B.Hodgson, Esq.". *Transactions of the American Philosophical Society*, vol.IV. (PDF)
- 1844 *Notes on Northern Africa, the Sahara and Soudan*. New York, Wiley and Putnam. (PDF) 本稿に記載
- Horneman, Frédéric 1802 (翻訳) *Voyages dans l'Intérieur de l'Afrique Pendant les Années 1797, 1798*. Paris, Chez André. 表2 本稿に記載
- Huguet, J. 1902 "Sur les Touareg". *Bulletins de la Société d'Anthropologie de Paris*, Vosérie, Tome 3. pp.614-642. (PDF)
- Huyge, G. 1901 (2ème éd.) *Qamus Qbaili-Rumi :Iullef-it Essiied :Dictionnaire Kabyle-Français*. Paris, Imprimerie Nationale. (PDF)
- Ibn-Khaldoun, Abou-Zeid Abd-er-Raiiman Ibn-Mohammed 1847 *Histoire des Berbères et des Dynasties Musulmanes de l'Afrique Septentrionale*, vol.1. Alger, Imprimerie du Gouvernement. Publié par Ordre de M.le Ministre de la Guerre. (PDF)
- Institut de Recherches d'Études sur le Monde Arabe et Musulman (IREMAM), Centre de Conversation du Livre-Manumed, 2007 *Les Manuscrits Berbère au Maghreb et dan les*

- Collections Européennes :Localisation, Identification, Conservation et Diffusion (Actes des Journées d'Étude d'Aix-En-Provence, 9 et 10 Décembre).* Atelier Perrousseaux. 本稿に記載
- ICOMOS 2007 *Rock Art of Sahara and North Africa :Thematic Study*. Paris. (PDF)
- Jomard, M. 1847 “Fragment d'Écriture Libyenne”. *Bulletin de la Société de Géographie, Troisième Série, Tome VII*. Paris, Chez Arthus-Bertrand. (PDF) 本稿に記載
- Joubert, J. L. et al. 1986 *Les Littératures Francophones depuis 1945*. Paris, Bordas.
- Judas, Aug-Cél 1842 *Essai sur la Langue Phénicienne Avec Deux Inscriptions Puniques Inédites*. Paris, Chez Duriez. (PDF)
- 1843 *Lettres à M.de Saucy de la Langue Phénicienne*. Paris, Firmin Didot Frères. (PDF)
- 1844 “Note sur une Fragment d'Inscription Libyque Trouvé à Tiffech”. *Journal Asiatique, tome III, Quatrième Série, Janvier-Février/Avril*. L'Imprimerie Royale. (PDF) 本稿に記載
- 1847a *Étude Démonstrative de la Langue Phénicienne et de la Langue Libyque*. Paris, Friedrich Klincksieck. (PDF) 表9
- 1847b “Note sur l'Alphabet Berbère Usité chez les Touaregs, et ses Rapports avec l'Antique Alphabet des Libyens”. *Journal Asiatique, Mai*. Paris. (PDF) 表12
- 1847c “Sur l'Alphabet Berbère usité chez les Touaregs, et ses rapports avec l'Antique Alphabet des Libyens”. *Journal Asiatique, tome IX, Quatrième Série, Janvier-Février*. Paris. (PDF)
- 1857 “ Étude Comparative sur la Langue Berbère”. *La Revue de l'Orient et de l'Algérie*. (PDF)
- 1861 *Mémoire sur Dix-neuf Inscriptions Numidico-Puniques, Inédites, trouvées à Constantine en Algérie*. Paris. (PDF)
- 1862 “L'Écriture Libyco-Berbère”. *Revue Archéologique VI*. Paris. (PDF)
- 1863 *Sur l'Écriture et la langue Berbère*. Paris, Pillet Fils Aïné. (PDF) 表13
- 1868 “Sur Plusiers Séries d'Épitaphes Libyques Découvertes en Algérie, Particulièrement dans le Cercle de Bone”. *Annales des Voyages*. (PDF)
- 1869 “Sur une Nouvelle Séries d'Inscriptions Libyques Trouvées à la Cheffia l'Ar M. Reboud”. *Annales des Voyages*. (PDF)
- Laoust, E. 1912 *Étude sur le Deialecte Berbère du Chenoua Comparé avec Ceux des Beni-Menacer et des Beni-Salah*. Publications de la Faculté des Lettres d'Alger. Bulletin de Correspondance Africaine, Tome L. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- 1949 *Contes Berbères du Maroc, Textes Berbères du Groupe Beraber-Chleuh (Maroc Central, Haut et Anti-Atlas)*. Publications de l'Institut des Hautes Études Marocaines. Tome L. Éditions Larouse. (PDF)

- Laraj, Hennou 2005 *Sawalat s tmazight, série:manuel N°1*. Rabat, Publications de l’Institut Royal de la Culture Amazighe. (PDF)
- Larousse Trois Volumes en Couleurs, Vol.1-3.* 1966, 1970. Paris, Librairie Larousse. 本稿に記載
- Lee, Samuel 1829 *Travels of Ibn Batuta :Arabic Manuscript Copies with Notes*. London, The Oriental Translation Commitee. (PDF) 本稿に記載
- Lyon, G.F. 1821 *A Narrative of Travels in Northern Africa in the Years 1818, 19 and 20 ;Accompanied by Geographical Notices of Soudan and of the Course of the Niger*. London, John Murray. (PDF) 本稿に記載
- Masqueray, Emile 1893 *Dictionnaire Français-Touareg. Diarecte des Taïtoq suive d’Observation Grammaticales*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- Meynard, Charles Barbier de. 1906 “Mission de M.Motilynski dans le Sahara”. *Comptes Rendus des Séances de l’Académie des Inscriptions et Belles-Lettres. 50e Année, N.8.* pp.538-540. (PDF)
- (Composé par Ordre de M. le) Minstre de la Guerre. 1844 *Dictionnaire Français-Berbère :Dialecte Écrit Parlé par les Kabaïles de la Division d’Alger*. Paris, Imprimerie Royale. (PDF) 表5
- Motylnski, A. de Calassanti 1898 *Le Djebel Nefousa, Transcription, Traduction Française et Notes avec une Étude Grammaticale*. Paris, Ernest Leroux. (PDF)
- Newman, Francis William 1882 *Libyan Vocabulary :An Essay towards Reproducing the Ancient Numidian Language out of Four Modern Tongues*. London, Trubner&Co. (PDF)
- Richardson & Barth & Overweg 1851 *Progress of the African Mission to Central Africa*. (PDF)
- Roux, Arsène 1990 *Poésie Populaire Berbère*. Paris, Éditions du CNRS. (traduits par Bounfour, Abdallah)
- Sacy, A. I. Silvestre de. 1802 *Notice de la Géographie Orientale d’Ibn-Haukal*. Paris, Didot Jeune. (PDF)
- Saulcy, Frédéric de. 1843 “Lettre sur l’Inscription Bilingue de Thougga”. *Journal Asiatique, Quatrième Série, tome I, Janvier/Février*. Paris, L’Imprimere Royale. (PDF)
- 1849 “Observations sur l’Alphabet Tifinag”. *Journal Asiatique, Quatrième Série, Tome XIII, Juin*. L’Imprimere Royale. (PDF) 表8
- Shaw, Tomas 1738 *Travels, or Observations Relating to Several Parts of Barbary and the Levant*. Oxford. Printed at the Theatre. (PDF)
- (traduite par) SLANE, M.G. de. 1842 “Description de l’Afrique par Ibn-Haukal”. *Journal Asiatique Troisieme Serie, Tome XIII*. p.153. (PDF) 本稿に記載
- Société Anglaise d’Afrique 1802 *Voyages de M.M.Lédyad et Lucas en Afrique*. Paris, Xhrouet (Imprimeur), Déterville (Libraire). 本稿に記載

- UNESCO 1984 *Encyclopédie berbère, vol.1.* Aix-en-Provence, Edisud.
- 2012 *Exhibition Catalogue: Writing Peace.* The United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. ( PDF) 表6
- Venture de Paradis, J.M. 1844 *Grammaire et Dictionnaire Abrégés de la Langue Berbère.* Paris, Imprimerie Royale.

## ②国内出版文献

- 赤坂賢 1988 「トゥアレグ族」『世界大百科事典25』511頁、平凡社。
- 井上幸治 1958 「ベルベル人」『世界大百科事典26』143頁、平凡社。
- 香山陽坪 1979 「アルファベット」『世界考古学事典 上』41 頁、平凡社。
- 木部暢子・三井はるみ・下地賀代子・盛思超・北原次郎太・山田真寛 2011 『文化庁委託事業 危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業 報告書』、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立国語研究所：National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINLAL)。
- 木村重信 1982 「アフリカの岩面画とイメージの機能」『新潮古代美術館8 ユーラシアとアフリカ』（木村重信他共著）97-100頁、新潮社。
- 1988 「ティフィナグ文字」「ティベスティ山地」『世界大百科事典25』77頁、平凡社。
- 栗田伸子 1999 「ドゥッガとヌミディア王権」『東京学芸大学紀要第3部門50』117-124頁。
- 2003 「タラウアス：最初の「ヌミディア人」」『東京学芸大学紀要 第3部門社会科学 54:19-27』、東京学芸大学紀要出版委員会。
- 栗田伸子・佐藤育子 2009 「第五章 上陸した「帝国」」『興亡の世界史 第03巻 通商国家カルタゴ』177-178頁、講談社。
- 黒田和彦 1979 「アルファベット」『世界考古学事典 上』45-46頁、平凡社。
- 近藤二郎 2004 「リビア」『古代オリエント事典』日本オリエント学会編、岩波書店。
- ジョルジュ・ジャン（矢島文夫監修） 1993(第8版) 『文字の歴史』、創元社。
- 鷹木恵子 2002 「トゥアレグ」『岩波 イスラーム辞典』（大塚和夫・小杉泰・小松久男・東長靖・羽田正・山内昌之編）664頁、岩波書店。
- 谷川茂美 2001 『フェニキア文字の碑文:アルファベットの起源』、国際語学社。

- 中野暁雄 (Nakano, Aki'o) 1974 "Texts of Folktales in Berber (I) (Dialect of Anti-Atlas)" *Journal of Asian and African Studies No.7*. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 1976 *Dialogues in Moroccan Shilha (Dialects of Anti-Atlas and Ait-Warain)*. アフリカ学術調査共同研究プロジェクト報告No.VI、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 1982 「アンティ・アトラス山村における農業と家畜:南西モロッコ・ベルベル調査研究報告(II)」『アジア・アフリカ言語文化研究23別冊』、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 1989 「シルハ語」『言語学大辞典 世界言語編第2巻』271-277頁、三省堂。
- 1992 「ベルベル語派」『言語学大辞典 世界言語編第3巻』954-961頁、三省堂。
- 1994 *Ethnographical Texts in Moroccan Berber (1) (Dialect of Anti-Atlas)* -*Studia Berberi(I)*- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 1995 *Ethnographical Texts in Moroccan Berber (2) (Dialect of Anti-Atlas)* -*Studia Berberi(II)*- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 1998 *Ethnographical Texts in Moroccan Berber (3) (Dialect of Anti-Atlas)* -*Studia Berberi(III)*- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 日本オリエント学会 2004 『古代オリエント事典』、岩波書店。
- ビエンコウスキ、ピヨートル&ミラード、アラン (編) 2004 『大英博物館 図説 オリエント事典』、東洋書林。
- 藤本強 1979 「カプサ新石器文化」「カプサ文化」『世界考古学事典 上』213頁、平凡社。
- 1979 「リビコ・カプサ文化」『世界考古学事典 上』1153頁、平凡社。
- ホークス、ジャケッタ 1984 『図説 世界考古学地図』22頁、原書房。
- 堀内里香 2000 『タシュルヒート語彙集』、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 2007 「25 暮らしの言葉:モロッコ・ベルベル方言タシュルヒート」『エリアスタディース63 モロッコを知るための65章』(私市正年・佐藤健太郎編)、明石書店。
- 2009 「126 ベルベル語」『事典 世界のことば 141』(梶秀樹・中島由美・林徹編) 514-517頁、大修館書店。
- マーコウ、グレン・E (片山陽子訳) 2007 『古代の民族シリーズ フェニキア人』、創元社。

宮治美江子 1988 「ベルベル」 『世界大百科事典25』 630-631頁、平凡社。

松下周二 1988 「ベルベル諸語」 『世界大百科事典25』 631頁、平凡社。

山本謙吾 1958 「ベルベル語」 『世界大百科事典26』 143頁、平凡社。

### ③アラビア語文献

雑誌『'amūdu』 vol.1-4. Rabat. 1990-1991. (『'amūdu :Revue de Crédation en Tamazighet』 )

表4 表18

Akādīmīyat al-Mamlakat al-Maghribīyat 1990, 1996, 2000. *al-Mu'jam al-'Arabī al-Amāzīghīy*.  
vol.1, 2, 3. Rabat.

IRCAM(Institut Royal de la Culture Amazighe) 2013 *Nahū al-'Amazīghīya*. Rabat, Matba't al-Ma'arif al-Jadida.

# 表

＜表1＞ 「英語アルファベット」表記の例

言語	英語「日本語」	シルハ語	シルハ語	シルハ語
出典		Destaing (Destaing 1920)	中野 (Nakano 1976)	中野 (Nakano 1994, 95, 98)
表記	yes 「はい」	iyy , äh	ij	なし

＜表2＞ 横方向に左からフランス語—シーワ語—シルハ語の順で、上から「頭、目、手、水、太陽、雌ウシ、山、ナツメヤシ」の単語を「英語アルファベット」表記で記しているもの。(Horneman 1802)

	<i>Langue de Syouah.</i>	<i>Langue de Chilahh.</i>
<b>Tête,</b>	akhfé (1),	ekhf, ou ikhf.
<b>Œil,</b>	taoun,	thit, thittaouin,
<b>Main,</b>	fous,	efous.
<b>Eau,</b>	aman,	aman.
<b>Soleil,</b>	ifouct,	tefouht.
<b>Vache,</b>	fiounest,	tefounest.
<b>Montagne ,</b>	iddrathn,	ed-rat.
<b>Datté ,</b>	téna,	tini.

＜表3＞ 「英語アルファベット」 – 「アラビア語アルファベット」 – 「ティフィナグ文字アルファベット」の対応表。 (Boukous 2012, p.ix)より転載。記号を足したアルファベットは、 gw, r, z, gで、それぞれ ڻ, ڻ, ڻ, ڻ または ڻ に対応する。

## PROTOCOLE DE TRANSCRIPTION

b	ب	ب	k	ك	ك
m	م	م	g	گ	گ
f	ف	ف	q	ق	ق
t	ت	ت	x	خ	خ
t̪	ط	ط	ي	ي	ي
d	د	د	h	ه	ه
d̪	ڏ	ڏ	ئ	ئ	ئ
gʷ	گ	گ	kʷ	ک	ک
n	ن	ن	h	ه	ه
l	ل	ل	a	ا	ا
r	ر	ر	i	ي	ي
r̪	ڙ	ڙ	u	و	و
s	س	س	ə	ا	ا
y	ي	ي	ɔ	و	و
w	و	و	z	ز	ز
z̪	ڙ	ڙ	ڦ	ڦ	ڦ
ڙ	ڙ	ڙ	ڻ	ڻ	ڻ

＜表4＞ 母音 「ア」 「イ」 「ウ」 の表記法の例。『'amūdu』 ('amūdu 1990-1991)および『al-Mu'jam al-'Arabīy al-'Amāzīghīy』 ('Akādīmīyat al-Mamulakat al-Maghribīyat, 1990, 1996, 2000.)より。

	意味	発音	'amūdu	アカデミー辞書
母音ア	種	アムード	ءَا مُود	امود
母音イ	～ということ	イス	ءِ يِس	ئِيس
母音ウ	～でない	ウル、オル	ءِ وِر	اور

＜表5＞ カビール語の辞書 (Ministre de la Guerre 1844. p.1) より。フランス語—「アラビア語アルファベット」—「英語アルファベット」で表記している。

二行目の「男性に」のカビール語として  
「イ ワルギヤーズ」に「ڻ」を用いている。  
該当箇所を拡大したものが右。

اوڻڪارڻ

## A

A. préposit. signe du datif.	ءِ — ئِ	I. — I.
Ex. : A l'homme.	اوڻڪارڻ	ءَامِنْجَاز.
A la femme.	اڻڪوٽ	ءَامِنْجَوٽ.
Aux enfants.	اوڻاڻ	ءَامِنْجَار.
Donné du pain à ce mendiant.	أَمْكَاسْ آغْرِوْمْ إِمْعَرْوَنْ آيِ	إِمْكَاسْ آغْرِوْمْ إِمْعَرْوَنْ آيِ
J'ai dit à mon frère.	آيِنْجَعْ إِسْخَنْ إِنْو	آيِنْجَعْ إِسْخَنْ إِنْو.
A qui ?	اوڻَنْ - اوڻِلَانْ	ءَوْنَانْ، ئَوْنَالَانْ?
A qui est ce sabre de Flissa ?	اوڻَنْ آيَنْجُو آيِ إِنْجَلِسْ	ءَوْنَانْ آيَنْجُو آيِ إِنْجَلِسْ
A quoi ?	اوِي — آغْرِ	ءَوِي. — آغْرِ
A quoi sert ceci ?	اوِي — آغْرِ يَصْلِحْ آلِيَّ	ءَوِي. — آغْرِ يَصْلِحْ آلِيَّ

＜表6＞ 国連が提唱する9月21日「国際平和の日」に向けて2012年に作成された「Writing Peace」というタイトルのパンフレット（UNESCO 2012. p.10）。左の段の上から6行目にティフィナグ文字の単語がある。文中に「。HO.」（「アフラ」）は「平和」の意味であることが書かれている。

和平	իսաղաղութիւն	평화
שלום	សិលិកាល	
Ειρήνη	へいわ   平和	
PAX	ଶିଶ୍ରୀ	Hòa Binh
শাংতি	ମନ୍ଦିର	ଅନ୍ତର୍ମର୍ଦ୍ଦିତ
。HO.	ສັນຕິກາພ	ମନ୍ଦିର
سلام	ᠮ	
ମନ୍ଦିର	ᠮ	

<表7-1> 出版物にのったティフィナグ文字の一例。(Denham & Clapperton & Oudny 1828. p.111)

LETTERS.

†	Yet.	❀	Yuz.
‡	Yuk.	✖	Iz.
׃	Yugh.	Ⓜ	
׃	Yow.	₩	Yew.
•	A.	ㅅ	Yid.
⊖	Yib.	▣	Yir.
⊖	Yes.	₩	Yei.
ｺ	Yim.	ｼ	Yigh.
ｺ	Yish.	ｼ	Yin.
〃	Yill.	〃	

<表7-2> 表7-1に対応するアマジグ教育言語のティフィナグ文字。 ( ) はモロッコのアマジグ教育で使用しないティフィナグ文字。不確かなものは?とした。

†	yat	(#)
(?:)	X	yax
(:)		
׃	yu	ઉ yaw
◦	ya	ા yad
⊖	yab	ଓ yar
⊖	yas	া yay
□	yam	(ঠ)
া ?	yaš	া yan
ঠ ?	yal	

＜表8＞ ティフィナグ文字の表 (Saulcy 1849. 卷末頁)。印刷が不明瞭だった箇所は（不明）とした。上段左から、ヘブライ語、アラビア語。以降は、ティフィナグ文字として順に次のようにになっている。

1. R'mouz d'klhhad Ahmad et de Hamdûn ben Osman Khodja。
  2. K'lem Tifinag d'abd Kl Kadem Ben Abou Bekr (Hanouteauの本にも記載)
  3. K'lem Tifinag Complet (Boissonetが送ったもの)
  4. Alphabet des Touarigs recueilli par W.Oudney
  5. Monument de Tougga
    - ①Signes déterminée par le contexte
    - ②Signes indéterminés
  6. Inscriptions du M'DAI d'Abou Bekr le Beker Rrdamuy (不明)
  7. Inscription Indéchiffrées
    - ①De Hemuyr Ayn Nefusa(不明)
    - ②De Tiffelh
    - ③Recueillies (不明)
      - ア、 par Falbe.
      - イ、 par Heueggerr(不明)

＜表9＞ ティフィナグ文字の表(Judas 1847a. 資料p.30)。Langue libyques (リビック語、リビヤ語) の表として、左から順にヘブライ文字、対応する文字として、リビヤ文字、ベルベル文字となっている。リビヤ文字の3列はGesenius、 de Saulcy (研究調査の中心人物)、筆者Judasとしてmoi。対応するベルベル文字として左から Boissonnet (*Journal Asiatique* 1845)、最右はOudney (1826、28年探検について共著者の一人)。さまざまな文字が、不確定のままで記載されているのがわかる。

＜表10＞ タマハク語の文字であるティフィナグ文字表。

左から順に、書名、Hanouteauに依拠、Duveyrierに依拠、対応するフランス語・アラビア語、ティフィナグ文字の名称となっている。先章で述べた「グ」をこの表では「英語アルファベット」の「g」をあてて、「アラビア文字アルファベット」は、**ج**に3点を載せた文字を使っている（上から五行目）(Bissuel 1888. pp.116-117)。

<表11> Bassetの文献から転載(Basset 1885. p.93)。main 「手」 発音[fousフース]を表すティフィナグ文字。

右の 「 ][ 」 は 「f」 を、左の 「○」 は 「s」 を表す。  
右から左に読む。

○][

## M

MAIN, *fous* ○][, pl. *ifassen* |○][; Sergou et Ahaggar, *afous*, pl. *ifassen*, dimin. *tafoust* +○][+, pl. *tifassin* |○][+; Zénaga, *oufes* وفس, *afouch* أفوش.

MANGER, *ichchi* ·□ (B. *ikschehg* « je mange »); Sergou, *itch* □+; Zénaga, *itcha* تضى (aor.), *tedhidhi* تضى « nourriture ». (Cf. forme habituelle *tett* en kabyle تت); Ahaggar, *ekch* □·: « manger », passif *mekch* □·:□, forme hab. du passif *temekcha* □·:□+; forme hab. *tett* ++, nom d'action de cette dernière forme *titeti* ·+++; « mangeur », *amekchi* ·□·:□. Cf. en haoussa, *tchi* (*tši*) « manger » *tchichie* (*tšišie*) « faire manger »; *maitchi* (*maitsi*), pl. *masoutchi* (*masutši*) « mangeur ».

＜表12＞ 表のタイトルは、「ル クルム ティフィナグ：トゥアレグ アルファベット」。表の左から順に、ヘブライ文字、ティフィナグ文字、Tougggaの石刻文字、de SaulcyのTougggaアルファベットとなっている。(Judas 1847b. p.461)

<表13> アルファベット比較表。ティフィナグ文字の分類が古代、現代と二種に分かれ  
る。左から、ベルベル文字の二種として古代ベルベルまたはリビエンLibyen文字、現代ベ  
ルベルまたはトゥアレグ文字、ヒムヤル、ゲエズまたはエチオピア語。(Judas 1863. pp.14-  
15)。

TABLEAU N° 3.  
Alphabets comparés.

N° d'ordre.	BERBER		HIMYARIQUE.	GYYZ OU ÉTHIOPIEN.
	antique ou libyen.	moderne ou des Touaregs.		
1	◎ = ɔ; B, V.	◎ = B, V.	◎ = ɔ, Ө.	◎ = ɔ; V, OU.
2	━ = ɔ; G.	━ = G.	━ = G.	━ = ɔ; G.
3	━ = ɔ; D.	━ = D.	.....	━ = ɔ; D.
4	━ = ɔ; W, Y, OU.	━ = W, Y.	━ = Y, OU.	.....
5	.....	━ = OU.	━ = Y, OU.	.....
6	━, ━ = ?	━ = L.	━ = Z.	━ = ɔ; Z.
7	.....	━, ━, ━ = Z.	━, ━ = Z.	.....
8	━ = ɔ; T.	━ = T.	━ = T.	━ = ɔ; T.
9	━ = ɔ; J, Y.	━, ━ = J, Y.	━, ━ = J, Y.	━ = ɔ; J, Y.

Alphabets comparés.

N° d'ordre.	BERBER		HIMYARIQUE.	GYYZ OU ÉTHIOPIEN.
	antique ou libyen.	moderne ou des Touaregs.		
10	━ = ɔ; K.	━, ━, ━ = K.	━ = K.	━ = ɔ; K.
11	━ = ɔ; L.	━ = L.	━ = L.	━ = ɔ; L.
12	━ = ɔ; M.	━ = M.	━ = M.	.....
13	━ = ɔ; N.	━ = N.	━ = N.	━ = ɔ; N.
14	━ = ɔ; Ҫ.	.....	━ = Ҫ.	━ = ɔ; Ҫ.
15	━ = ɔ; F, P.	━, ━ = F, P.	.....	━ = ɔ; F, P.
16	━ = ɔ; Ҫ.	━ = T.	━, ━ = T.	━ = ɔ; T.
17	.....	━ = S.	━ = TZ.	━ = ɔ; TZ.
18	.....	━ = G.	━ = K'.	━ = ɔ; K'.
19	━ = ɔ; S, CH.	━ = CH.	━, ━, ━ = CH.	━ = ɔ; S.
20	━ = ɔ; T.	━ = T.	━ = T.	━ = ɔ; T.

＜表14-1＞ タマシュルト（イムシャール語）またはトゥアレグ方言のティフィナグ文字の表として、巻末に記載された表。左から名称、三種の文字形としてハッジ・アブデルカーデル・ブン・ブーベクル(I)、モハンメド・エルウッザーニー、スシュスボ氏、対応するアラビア語、フランス語。

注には、「タマシュルト」とは「アマシュル」の女性形であり、「アマシュルの女性」という意味と、「アマシュル語」という意味があること、語尾の発音が変化した「タマシュク」は「タマシュルト」と同じ語であると記載されている(Hanouteau 1906, pp.370-373)。

本文中には、「ハッジ・アブデルカーデル・ブン・ブーベクルは、Boissonnet(表8、表9)にティフィナグ文字を初めて指導した人物。スシュスボ氏は軍の通訳で、トゥアレグの部族長からアルファベットを聞いた」とある。

<表14-2> 表14-1の続き。2つの子音を1つの文字にした結合文字。

NOMS	FORMES	VALEUR	TRANSCRIPTION
<i>gent</i>	†	Réunion du   et du +	nt
<i>gert</i>	⊕	— du O et du +	rt
<i>gost</i>	⊕	— du O et du +	st
<i>gelt</i>	¶	— du   et du +	lt
<i>gebt</i>	⊕	— du O et du +	bt
<i>gecht</i>	⊕	— du S et du +	cht

＜表15-1＞ タマシェク語のティフィナグ文字として、左から名称、形、音価、対応する「英語アルファベット」を記したティフィナグ文字表 (Hanouteau 1896, pp.4-6)。

NOM DES LETTRES	FORME DES LETTRES	VALEUR	TRANSCRIPTION ADOPTÉE	OBSERVATIONS
Tac'erit	+	a, i, ou	a, i, ou	-
Icb	□ ○	b	b	
Iet	+	t	t	
Ied	□ △ □	d	d	

NOM DES LETTRES	FORME DES LETTRES	VALEUR	TRANSCRIPTION ADOPTÉE	OBSERVATIONS
Iej	工	j	j	-
Iez	#	z	z	
Iez'	Ⅹ Ⅹ	z doux	z'	Prononciation par tenuïère.
Ier	□ ○	r	r	
Ies	□ ⊙	s	s	
Ieg	人 T	g	g	
Ieg'	☒	g doux	g'	Prononciation par tenuïère.
Ief	Ⅹ Ⅹ	f	f	
Iei		l	l	
Iem	□	m	m	
Ien		n	n	
Iek	· :	k	k	
Iak'	...	/arabe	k'	
Ier'	:	/arabe, r grasseye	r'	
Iech	◎	/arabe, ch	ch	
Iah-	:	/arabe	h	
Iadh	☰	/arabes	dh, t'	
Iakh	☰	/arabe	kh	
Iaou	:	/arabe, ou long	ou	
Iey	☒	/arabe, i long	i, y	

<表15-2> 表15-1の続き。2子音を1つの文字で表す結合文字。

NOM des COMBINAISSONS	FORME	VALEUR	TRANSCRIPTION
Iebt	+	Réunion du Ⅲ et du +	bt
Iezt	#	—— # — +	zt
Iert	+	—— □ — +	rt
Iest	+	—— □ — +	st
Iegt	†	—— † — +	gt
Ieg't	†*	—— †* — +	g't
Ielt		——    — +	lt
Iemt	コ	—— コ — +	mt
Ient	†?	—— †? — +	nt
Iecht	†?	—— †? — +	cht
Ienk	† †	—— † — †	nk

<表16-1> 手書きで書かれた辞書 (Foucauld 1951. p.442)。トゥアレグ語を見出し語として、一行目は、発音、原形、活用のパターンを記した数字、変化形。二行目は、フランス語の訳がある。

一行目、左から「ティフィナグ文字アルファベット」コ T 「英語アルファベット」 aġem は「アグム」と読み「水を汲む」の意味。ティフィナグ文字の「コ」は m 、「T」は g で母音の a の文字はない。トゥアレグ語をティフィナグ文字で表記する場合は、このように語頭の母音を書かない。

コ T aġem コ T va. prim ; conj. 66 "aġex"; p(iouġem, iouġam, ēd laġem, oue iouġem) || puisez [de l'eau] (dans un puits, avec une corde et un seau) ||

<表16-2> 表16-1に続く頁。表16と同じ文字の単語。

「ティフィナグ文字アルファベット」コ T 「英語アルファベット」 ouggam 「ウッガム」と読み「好む」の意味。語頭の母音 u、語中の母音 a、子音の重なりを書かないために、表16-1と同じ綴りになる。(Foucauld 1951. p.443)

コ T ouggam コ T (Aïc) va. prim; conj. 71 "ouksad"; (ieġġoum, iedġoum, ēd iouġam, oue ieġġoum) || aimer (avoir de l'amour pour; avoir de l'affection pour; avoir du goût pour); trouver de son goût (trouver plaisant, agréable, bien) || 2. les "aimer" est syn. à ex et à exhal ||

＜表17＞ リビコーベルベル文字のアルファベット表として著者がPrasseの著作から引用したもの(Chaker 1984. p.256)。項目名について表の下に記載されている。左から、Eリビック・オリエンタル、Wリビック・オキシデンタル、Hアハッガール（アルジェリア）、Ghガート（リビア）、Dアドラール・デ・イフォガス（マリ）、Yエール（ナイジェリア）、Wイウッルムッドゥン（ニジェール・マリ）、Nイグッラド（タヌスルムント）－（マリ）、arアラビア語転写、とある。アラビア語転写文字については表20-1を参照。

上段の項目は地名である。一つの音価に対して、文字は並ぶが種類は少ない。これ以後、多くの研究書にこの表が載った。

6 — Les différents alphabets libyco-berbères (d'après K.G. Prasse, *Manuel de grammaire berbère*, I-IV, 1972, p. 153-154. Reproduit avec l'aimable autorisation de l'auteur). E : Libyco oriental ; W : Libyque occidental ; H : Ahaggar (Algérie) ; Gh : Ghat (Libye) ; D : Adrar des Ifoghas (Mali) ; Y : Aïr (Niger) ; W : Tidjennimeden (Niger-Mali) ; N : Igeldad (Taneslem) - (Mali) ; ar : notation de l'arabe.

＜表18＞ 中央の図の左右に、ティフィナグと書かれた表('amūdu 1990-1991.vol.1. p.8)がある。表はティフィナグ文字と対応する英語アルファベット、アラビア語アルファベットの順。左側の表から右側の表まで、アルファベット順に並ぶ。項目は、左からティフィナグ文字、英語アルファベット、アラビア語アルファベットである。

左側の表の二行目に記号を用いたティフィナグ文字、数行下に母音 i、右側の表の八行目に母音 uを示している。他にも幾つかの文字を取り込んで、38文字をアルファベットとして挙げている。

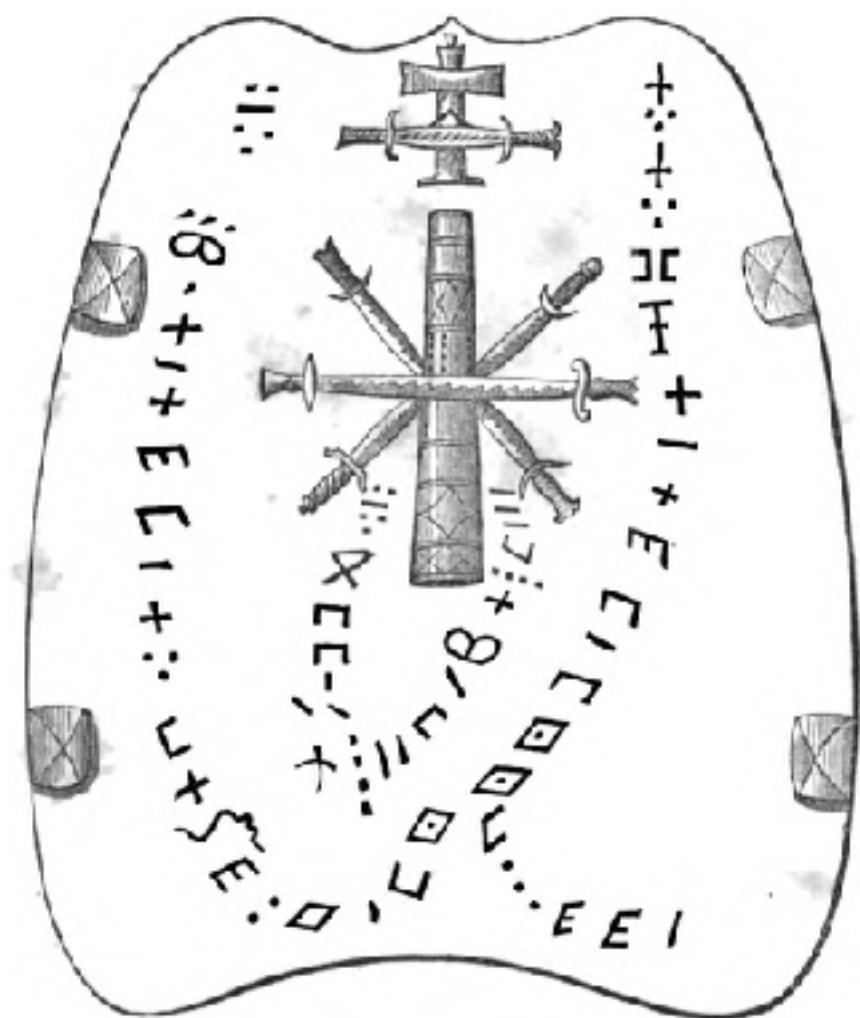
下段の囲みは、アマジグ語の単語—アラビア語の意味—ティフィナグ文字の対応表。



<表19> 資料 Benhazera 1908. p.56

中央の剣と鞘の絵を囲むようにティフィナグ文字が書かれている。この盾の文字の意味は、(Hanouteau 1906. pp.374-375) に載っている。

BOUCLIER TOUAREG.



<表20-1> (Basset R. 1908. pp.312-314) 頁の切れ目がやや見にくいが、ティフィナグ文字アルファベットと音価を数頁にわたって詳細に説明している。トゥアレグ文字の新旧を比較している。左から、フランス語、アラビア語、現代トゥアレグ語、古代トゥアレグ語（前時代に使用されていた文字）、アラビア語の転写用のトゥアレグ語（アラビア語転写専用の文字）となっている。「古代トゥアレグ」という分類は、ある時期に好んで研究者が使っていたが、いつのまにか用いなくなった。

Page 1. Deux autres alphabets, distincts de celui qui est habituellement en usage, sont utiles onnaître. Le premier est un alphabet ancien qu'on trouve employé dans les écrits et transcription d'une époque reculée ; le second est un alphabet servant à la transcription littérale des arabis en caractères touareg. Les voici :

CARACTÈRES				
FRANÇAIS	ARABE	TOUAREGS ACTUELS	TOUAREGS ANCIENS	TOUAREGS POUR TRANSCRIPTION TEXTES ARABES
a	ا	ا	ا	ا
b	ب	ب	ب	ب
th	ث	ث	ث	ث
é	ء	ء	ء	ء
d	د	د	د	د
dh	ڌ	ڌ	ڌ	ڌ
dh	ڌ	ڌ	ڌ	ڌ
f	ف	ف	ف	ف
g	ڱ	ڱ	ڱ	ڱ
g' (h)	ڱ	ڱ	ڱ	ڱ
h	ح	ح	ح	ح
i	ي	ي	ي	ي
j	ج	ج	ج	ج
k	ك	ك	ك	ك
kh	خ	خ	خ	خ
l	ل	ل	ل	ل
m	م	م	م	م
n	ن	ن	ن	ن
ou	ۅ	ۅ	ۅ	ۅ
q	ڧ	ڧ	ڧ	ڧ
r	ڒ	ڒ	ڒ	ڒ
s	ڒ	ڒ	ڒ	ڒ
t	ߕ	ߕ	ߕ	ߕ
r'	ڒ	ڒ	ڒ	ڒ
s'	ڒ	ڒ	ڒ	ڒ
x	ڜ	ڜ	ڜ	ڜ
x' (phonétique)	ڜ	ڜ	ڜ	ڜ
h'	ڜ	ڜ	ڜ	ڜ

<表20-2> (Basset, R. 1908. pp.312-314) 表20-1の続き頁。二子音を結合した文字の表。最下段は、「シュ」と「ティ」を一つの文字にした文字が最左の「シュト」。「ティ」は英語のアルファベットの「ティ」と同じ形の「+」で、結合したい相手の文字のどこかにこの「ティ +」の形をくっつけて書く。

P. 2, remplacer la liste des abréviations par la suivante :

t	et .	■	nb
↓ ↑		▼	nd
ヨ		Ξ	ndh
さ		△	ng
↑		・	nk
四	日	+	bt
其	#	+	z't
田	□	+	rt
四	□	+	st
よ	Y	+	g't
ア	Y	+	gt
ト		+	jt
ト	II	+	lt
ト ハ ヲ	コ	+	mt
ト ↑		+	nt
ト	□	+	cht

P. 2, l. 22 :

Il semble qu'il y a quatre dialectes chez les Touaregs :

1° Celui de l'Ahaggar, parlé par les Ahaggar, les Kel Aijer et les Taloys (avec des sous-dialectes) ; 2° celui des Kel Air, parlé dans la région de l'Air ; 3° celui des Kel Adrar', parlé dans l'Adrar', et des Iforas, et 4° celui des Ioullemneden (Aouelimmiden). Il n'est question ici que du dialecte de l'Ahaggar.

P. 7, ligne 11, ajoutez :

L'a et l'i initiales des mots (subst., adj., part., ver. à la 3<sup>e</sup> p. m. s., particules) disparaissent souvent, surtout en poésie, pour simple raison d'euphonie ou d'allégement de la phrase, sans règle fixe. Quelquefois, au lieu de dispa-

<表21> (Basset, R. 1908. pp.1-2) Basset, R. は1880年代から（あるいはもう少し前から）単語をティフィナグ文字で記載している。彼が最も古いわけではないし、表記法を知る現地の人はいたが、Basset, R. は多くの単語や文を研究書の中でティフィナグ文字で記載した。下の表は、Basset, R. がトゥアレグ語を表記するときに用いたティフィナグ文字と二文字の結合文字。

ÉCRITURE ET PRONONCIATION			
A, I, OU ou uou			
	tar'erit.	• a, i, ou	
B	ieb	⊕ ⊕ ■ b	
CH	iech	□ ch چ	
D	ied	▼ □ □ A d	
DH	iedh	⊕ dh ڏ	
F	ief	■ □ l f	
G	ieg	✖ g	
G'	ieg'	Y □ g' { (g' est le plus souvent devant d).	
H	ieh	⋮ h ڻ	
I	iei	✖ i ڻ { (i devant le son de l double et moins de .o/ ou .e/).	
J	iej	□ j	
K	iek	⋮ k ڻ	
KH	iekh	⋮ kh ڏ	
L	iel	l	
M	iem	□ m	
N	ien	⋮ n	
OU	ieou	⋮ ou ڻ { (ou devant le son devant dou).	
Q	iek'	… k' ڻ	
R	ier	□ ○ r	
R'	ier'	⋮ r' ڻ { (r' est le plus souvent dans les noms très prononcé).	
S	ies	□ ○ s	
T	iet	+	t
T'	iet'	⊕ t ڻ	
Z	iez	✖ z	
Z'	iez'	⊕ z' ڻ { (z' devant	

↑	I	et	⋮	nk
⊕	□	+		bt
其	✖	+		z't
田	□	+		rt
⊕	□	+		st
✖	□	+		g't
✚	✖	+		gt
✚		+		lt
✚	□	+		mt
↑	—	+		nt
⊕	□	+		cht

## 付属資料

### 『モロッコのベルベル語による民族誌的語り』の語彙

堀内里香 作成

原文該当箇所は左から巻数-章-節-文番号を初出時順に記した。

単語は原文第1巻第2章16節まで。

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
'ad	*'ad ilmma それから、その後	after then	I-1-10-(28)
'azmak-inn	必ず、必要だ、いわゆる	necessarily	I-1-24-(17)
'dl=/tt'dal	整える、準備する、好ましい	arrange,prepare	I-1-6-(2)
'mmr=/tt'mmar	用意する、（お茶やコーヒーを）入れる、点てる、～を～で満たす、一杯にする	make(prepare)	I-1-5-(2)
'šrin	m.20/f.'šrint	twenty	I-1-26-(7)
'šrint	f.20/m.'šrin	twenty	I-1-22-(12)
'žb=/tt'žab	気に入る *aynna-k(tn) 君（彼ら）が気に入る物は何でも	like	I-1-6-(33)
'zl=/tt'zal	選ぶ	select	I-1-25-(3)
'žn=/tt'žan	こねる	knead	I-1-8-(22)
a	=ad	this	I-1-42-(1)
a'lluš	牛	bull,calf	I-1-25
abayuγ	狐/pl.ibuγay	fox	I-1-61-(1)
abla	～以外	except	I-1-3-(14)
abldiy	国の	Morocco's	I-2-1-(3)
abrrani	よそ者/pl.i-in	stranger	I-1-10-(20)
abubba	おっぱい/pl.ibubbatn	breast	I-1-53-(5)
abud	臍	navel	I-2-8-(2)
ad	この	this	I-1-3-(10)
ad	強調を表す関係代名詞	that	I-1-3-(13)
ad+動詞	希求形を導く小辞。接続形の動詞を伴う。～すること、～するために	不定詞to do	I-1-3-(8)
adad	指/pl.idudan	finger	I-2-13-(10)
adan	m.pl.腸	bowels	I-1-29-(1)
adar	(u-)足、脚/pl.idarn	leg	I-1-26-(5)
add/udd/ttadd	押す、押し当てる	push	I-1-46-(3)
addal	afagguやtamlhaftを体に巻き付けた残りの布の部分（頭を覆うために使う） v.dl	one part of afaggu	I-2-3-(5)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
adfl	(u-)雪 * illa udfli 雪が降る	snow	I-2-1-(5)
adrar	(u-)山/pl.idrarn	mountain	I-1-3-(2)
adu	よい香り	nice smell	I-1-5-(13)
adu/uda/ttađu	戻る、帰る	go back	I-1-2-(3)
afa/ufa/ttafa	見つける	look out	I-1-4-(15)
afay	=a+f+ay=強調を示す関係詞ad+前置詞f+習慣形小辞ar * yayann(yikann,etc) af-ay 習慣形動詞。こうした理由で～です。～であるの以上の理由です。		I-2-8-(6)
afaggu	羊毛の一枚の大布 (白色)	wool cloth	I-2-3-(1)
afasiy	右	right	I-1-62-(6)
aflla	(u-)上	upper	I-1-8-(8)
afllun	(u-)フライパン * y-uflun フライパンで (焼く、炒る)	hot plate	I-1-5-(12)
afnqla	脳みそ	brain	I-1-33
afrux	(u-)少年/pl.ifrxan	boy	I-1-53-(7)
afskar	ヘタ	calyx	I-1-45-(1)
afullus	(u-)雄鶏/pl.ifullusn	hen	I-1-2-(1)
afus	(u-)手、組/pl.ifassn	hand	I-1-14-(6)
ag	=希求形を導く小辞ad * ad ur 動詞 ～しないよう	not to	I-1-5-(4)
ag	=ad 関係詞	that	I-1-49-(12)
ay	=ar 習慣形を導く小辞		I-1-10-(19)
ay/=ttaay	被る、 (不快な事を) 受ける、苛まれる	suffer	I-1-5-(4)
aga	(w-)バケツ	bucket	I-1-3-(11)
agadim	(u-)なた鎌/pl.igudam	hatchet	I-1-31-(2)
agadir	(u-)アガディール	Agadir	I-1-60-(10)
agdur	(u-)クスクスの下鍋/pl.iğdar	couscous down pot	I-1-15-(7)
aggrn	=ağğrn	flour	I-1-5-(15)
ağğrn	(u-)粉、小麦粉	flour	I-1-5-(11)
ağğrn iżżan	麦焦がし	parched barley flour	I-1-5-(11)
ağğs	(w-)紐をゆるくねじって作った巻き紐	rolling cord made from cloth	I-2-8-(1)
aggullu	(u-)鋤	plow	I-2-7-(3)
ağl/ugl/ttagl	吊す	hang	I-1-21-(5)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
aynim	(u-)葦		I-2-16-(1)
agns	(u-)中心、真ん中、内部=aῆns	center	I-1-8-(16)
aynža	大きな匙	big spoon	I-1-16-(9)
ayrraf	(u-)水差し/pl.i᷇rrafn	carafe	I-1-59-(4)
ayrum	(u-)パン	bread	I-1-3-(1),I-1-7,I-1-8
ayu	(u-)脱脂乳、母乳	whey	I-1-5-(14)
ayuni	(u-)塀	fence	I-1-22-(19)
agur/=ttagur	残る	remain	I-1-36-(10)
agur/=ttiyagur	残る、(間接目的格をとり)人の分がある	be left	I-1-18-(9)
ayyul	(u-)口バ	donkey	I-1-49-(8)
aῆzzal	短い v.igzul	short	I-2-2-(5)
aῆžžif	(u-)ナツメヤシ	palm	I-2-7-(12)
ah	=ay 1.pl.m.f.我々に	us	I-1-55-(8)
ahlabbaz	丸くて厚い	round and thick	I-1-7-(22)
ahlig	腹、内臓	stomach,gut	I-1-26-(2)
ahnu	(u-)部屋/pl.i᷇nna	room	I-1-21-(9)
ahruy	雌羊/pl.tihray	ewe	I-1-26-(16)
ahšayši	麻薬で陶酔しすぎた人、麻薬で我を失った人	person who loses control of oneself	I-1-60-(6)
ahšmi	(u-)子ども/pl.i᷇šum	child	I-1-54-(5)
ahttuš	(u-)m.雄山羊/pl.i᷇tšan f.tayat̄t	goat	I-1-27
ahwaš	(u-)歌と踊り	singing and dancing	I-2-15-(4)
ak	2.s.m.君に/f.tayat̄t	to you	I-1-7-(28)
akal	(w-)地面	ground	I-1-10-(11)
aki/uki/ttaki	くだる、都会から田舎へ戻る	go back,go down	I-2-12-(2)
ak̄k	話し相手の驚きの意を強める語	quite	I-1-10-(9)
akššad	(u-)木、木材、枝/pl.i᷇kššad	wood	I-1-10-(7)
akuray	(u-)棒	stick	I-1-49-(2)
alft̄r	榠	measure cup	I-1-14-(2)
alkbuš	(空豆、ジャガイモ、蕷の)皮、(アーモンドの)殻	shell	I-1-20-(3)
all/ull/ttals	持ち上げる、～の上に置く	lift	I-1-15-(6)
allas	(w-)羊の毛刈り	cutting wool off	I-1-26-(1)
alln	(w-)pl.眼、邪視/s.t̄it	envy eye	I-2-9-(8)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
als/uls/ttals	繰り返す、同じ事をする	repeat	I-1-15-(2)
alxf	脳みそ=afnqla	brain	I-1-32-(1)
am	am+n+～として*am n-tzwart まず始めに	as	I-1-6-(1)
am n-tzwart	まず始めに	firstly	I-1-6-(1)
aman	(w-)水 (複数形扱い)	water	I-1-2-(3)
amačaš	(u-)トマト	tomato	I-1-45
amggrd	(u-)首	neck	I-2-3-(7)
amgru	前の	front	I-1-26-(5)
ami	=ad+前置詞i (関係詞に後続する前置詞iはmiとなる)	to that	I-1-19-(1)
a-mi	=ami	to that	I-1-50-(10)
amklawiy	黒色と緑色以外の色の、カラフルな v.klu	colorful	I-2-9-(14)
amksa	(u-)羊飼い/pl.imksawn	shepherd	I-1-8-(13)
amlu	アーモンドクリーム	almond paste	I-1-5-(2),I-1-(20)
amma	それから、一方で	meanwhile, on the other hand	I-1-3-(17)
ams/ums/ttams	手のひらでこすり合わせる、擦る	rub	I-1-15-(16)
amud	種	seed	I-1-43-(1)
an	=ar 習慣形を導く小辞		I-1-3-(10)
an	=ad 希求形を導く小辞。接続形の動詞を伴う。～すること、～するために	to	I-1-6-(9)
anhuyu	(u-)違い	difference	I-1-11-(1)
anmggar	(u-)歳の大市	year's market	I-2-15-(11)
ann	(指示詞)あの、その (前述の名詞を繰り返して)	that, the	I-1-4-(20)
anšk	=anšt (大きさや長さの) 程度	the same degree	I-1-40-(4)
anšt	=anšk, yunšk ～程度 (の大きさなど)	the same size(degree)	I-1-7-(7)
anšta	=anšt-ad, yanšt-ad この程度	this degree	I-1-10-(21)
anštnna	=anšt-nna anštが先行詞、nnaは関係詞。程度を表す。～する程度 (の大きさや長さや重さ)	th degree that	I-1-18-(6)
anu	井戸	well	I-1-58-(7)
anuhyu	=anhuyu	difference	I-2-6-(1)
aq(q)adus	管、水道管/pl.iq(q)udas	pipe, tube	I-1-10-(10)
aq'way	(u-)カラス/pl.iq'wayn	crow	I-1-61-(3)
aqlal	(u-)頭/pl.iqlula	head	I-1-25-(2)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
aqqayn	(w)-pl./s.aqqa 実、ビーズ	bead	I-2-3-(7)
aqqlmum	頭巾（布製、防災頭巾型）	hood	I-2-8-(3)
aqrab	(u-)カバン/pl.iqrabn	bag	I-1-56-(4)
aqššab	(u-)男性用の丈の長い半袖のシャツ（木綿と羊毛。ワンピース型。半袖、立ち襟、首もとに留め紐、胸元は詰まっている）/pl.iqqššabn	long shirt	I-2-1-(1)
ar	～まで*s-ar-～時から～時まで	until	I-1-3-(5)
ar+習慣形の動詞	習慣形の導く小辞		I-1-2-(1)
arb'in	40	forty	I-1-55-(7)
ard	(文を後続して)～するまで	until	I-1-7-(3)
arddad	労働者、土方	workman	I-1-58-(9)
arf/urf/tarf	炒める	fry	I-1-29-(4)
argan	(w-)アルガンの実の油	argan oil	I-1-5-(2)
argaz	(u-)男の人、夫/pl.irgazn	man	I-1-4-(6)
arkiγ	(完了形の文を後続して)～するときまで	until	I-1-3-(18)
arkuku	麦焦がし（バターなし）	food parched barley flour without butter	I-1-14
aru/uru/ttaru	子を産む、出産する	have a baby	I-1-26-(16)
arumiγ	ヨーロッパ人、外国人、ヨーロッパの、外国の/pl.irumiyn f.tarumiyt	European,foreigner	I-1-10-(20)
as	=希求形を導くad	to	I-1-6-(30)
as	3.s.m.f.彼（女）に、それに	to it(him,her)	I-1-2-(3)
ašakuk	(u-)髪の毛	hair	I-2-3-(4)
ašakuk	髪の毛	hair	I-2-9-(17)
ašariy	(u-)黒色のターバン	black turban	I-2-9-(2)
asaru	(u-)溝	groove	I-1-20-(4)
asddal	麦わら帽子	straw hat	I-2-7-(12)
asddul	(u-)tašištの蓋	lid of bread basket	I-1-7-(5)
asğgas	(w-)年、一年/pl.isğgasn*dars asğgas d-nnşş 赤ん坊は1歳半です。	year	I-1-3-(13)
asğgas	(u-)年	year	I-2-15-(15)
asgnu	(u-)紐/pl.isgna	cord	I-2-1-(5)
asi/usı/tası	持ってくる、持つて行く	bring	I-1-5-(13)
ašk//ttašk	来る*ašk-d 来る	come	I-1-6-(2)
askkiws	座ること	sitting	I-1-57-(4)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
ašku	なぜなら、ちなみに	by reason of,because	I-1-1-(4)
aslham	マント	mantle,cloak	I-2-1-(7)
aşmmid	(u-)寒さ	cold,coldness	I-1-50-(5)
asn	pl.m.彼らに、それらに/s.as	to them	I-1-2-(4)
asngar	(u-)とうもろこし (総称) 、とうもろこしの粒	maize	I-1-7-(12)
asnt	3.pl.f.彼女たちに、それらに/m.asn	them	I-1-16-(8)
asrâl	(u-)蓋	cover	I-1-7-(22)
ass	(w-)一日、日/pl.ussan(w-) pl.日常の、日々の、時代	day	I-1-3-(5)
ass/uss/ttass	ぴったり合う、縛る、結ぶ	fit	I-1-17-(13)
aswal	盛り、盛りの季節	rut	I-1-27-(3)
at	=希求形を導く小辞ad	to	I-1-5-(4)
atay	(w-)お茶	tea	I-1-3-(18),I-1-22
awa	一方、ところで、さて	by the way	I-1-6-(12)
awal	(w-)言葉	language	I-1-1-(1)
awi/iwi/ttawi	送り出す、連れて行く、持つて行く、近づける、結びつける (結婚する) *iγ-d yiwi rb̥bi 神が望むなら、万一	send off,carry	I-1-2-(4)
awn	2.pl.m 君たちに/s.ak	to you	I-1-1-(1)
awrz	ベロ (靴の踵の部分。ヒールの部分ではなく、靴の踵部分の盛り上がりを指す) /pl.iwwran	heel	I-2-11-(5)
awsay	(w-)蕪の若葉	turnip leaves	I-1-19
awwry	金	gold	I-1-10-(12)
axzuz	(u-)布きれ、布地/pl.iχzaz	cloth	I-1-17-(12)
ay	=ad	that	I-1-24-(3)
aya	χay-ad こうした事 (物)	something like this	I-1-10-(7)
ayad	=aya,χayad	something like this	I-1-24-(5)
ayann	=χay-ann その事、それは～だ	that one,that is	I-1-6-(36)
aylli	=χaylli 例のこと、例の物、(先行詞を含む関係詞) ～すること、であるもの	what	I-1-21-(5)
ayn	=aya,χayad この事	this one	I-1-4-(5)
aynna	=χaynna (関係副詞) ～何でも *aynna-k i'žbn 君が好きな物 (なら何でも) *ur-d yat aylnna あり得ない、何もないのと同じだ	anything that	I-1-6-(3)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
ayt	pl.出身*ayt dar-sn 家族	coming from	I-1-57-(5)
aytma	pl.兄弟/s.ğma	brohters	I-1-1-(1)
ayyur	月、ひと月/pl.yirn*ayyur w-wađan 1ヶ月間	moon,month	I-1-26-(7)
azal	日中、昼間	day time	I-1-6-(35)
azalim	(u-)タマネギ	onion	I-1-24-(7)
azgir	(u-)*s-uzgir 裸足で	barefoot	I-2-2-(7)
azkka	(u-)明日	tomorrow	I-1-31-(6)
azkkif	(u-)大麦汁	potage	I-1-2-(3),I-1-10
azkunni	(u-)タイム (シソ科のハーブ)	thyme	I-1-21-(7)
azlkad	左	left	I-1-62-(7)
ažllabiy	(u-)男性用の膝下まである長い上着 (木綿と羊毛。フード付き) /pl.ižllbay	long coat	I-2-1-(2)
azn/uzn/ttuzan	重さがある、目方である	be in weight	I-1-47-(12)
azrg	石臼	mortar	I-1-20-(1)
azru	石/pl.izra	stone	I-1-49-(9)
azur	(u-)屋上、屋根	roof	I-1-6-(12)
azwar	初め、起源	origin	I-1-15-(2)
ažž/užža/ttažžg	のままにする、置いておく	leave	I-1-13-(18)
azzan	子	child	I-1-53-(6)
ažžg/užžg/ttažžg	垂れ下がる、下まで長くある	be long,lengthen	I-2-1-(1)
ažžig	(u-)花	flower	I-2-13-(19)
b'd	あと、の後で	after	I-1-15-(11)
baba	父	father	I-1-55-(2)
babat	=baba 父	father	I-1-6-(5)
bahr	多くの場合、常に	commonly	I-1-8-(4)
bark	祝福する*bark !lah 神の祝福あれ (ここでは「善い言葉、良いこと」の意)	Alla bless	I-2-9-(11)
baš	(ad+希求形動詞を後続して) ~するために	in order to	I-1-6-(42)
baṭaṭa	ジャガイモ	potato	I-1-40
bbi=/ttbbi	切る	cut	I-1-14-(6)
bdda	必ず	always,must	I-1-5-(9)
bddl=/ttbddal	変える、取り替える	change	I-2-13-(5)
bdr=/addr	言及する	mention	I-1-6-(1)
bdu/bda/aṭṭa	分ける、分割する	divide	I-1-28-(3)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
b <small>ɣ</small> ayr	=b <small>ɣ</small> ayr ~以外	except	I-1-3-(10)
b <small>ɣ</small> ayr	~以外	except	I-1-5-(8)
bitlžan	ナス	eggplant	I-1-44
bkks/=/ttbddas	締める	put on,fasten	I-2-3-(4)
bkri	朝早く	early morning	I-1-3-(2)
bla	~なしで*bla n-htta 価値がない、意味がない、味がない、何もない	without	I-1-10-(9)
bllarž	コウノトリ	stork	I-1-61-(3)
bnadm	人びと	people	I-1-7-(29)
bndq	菜園	kitchen garden	I-1-14-(1)
bnu/bna/bnna	建てる	build	I-1-58-(8)
bri/=/bbruy	細かく切る	cut in pieces	I-1-19-(2)
bri/=/brri	細かく切る	cut in pieces	I-1-28-(2)
brkuks	クスクスのだま	small ball of couscous	I-1-15-(5)
br <small>ɣ</small> a	外	outside	I-1-4-(12)
bu	主人	owner	I-1-22-(12)
bulktub	牛の第三の胃以外の三つの意と食道	stomach and gullet	I-1-29-(1)
bu-tagant	イノシシ、豚	pig,wild boar	I-1-61-(1)
bzg/=/bzzg	膨らむ、湿ってべたつとなる、ふやける、ぬかるむ	swell	I-1-16-(3)
bzzaf	非常に、(量や数が)多い	much	I-1-3-(3)
d	話し手の事物に対する距離や時間などの遠近を表す辞詞/-nn		I-1-2-(3)
d	~と、~と一緒に	and,with	I-1-2-(3)
dadda	父方の叔父、年長の兄	uncle	I-1-60-(4)
dah	再び、また	once more,again	I-1-6-(9)
dar	~の許で、(家や場所を表す)~のいる所(や家)で、持っている	at,have not	I-1-1-(2)
dar tmgra	収穫、収穫場	harvesting,reaping field	I-1-3-(13)
dar waga	灌漑する場所	place of irrigation	I-1-3-(11)
ddaw	=ddu 下	lower place	I-1-20-(7)
ddayra	白色の薄地のマント	white thin manteau	I-2-14-(3)
ddbaliž	pl./s.ddbliž ブレスレット	bracelet	I-2-3-(8)
ddbaliž	=ddbaliž	bracelet	I-2-14-(12)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
ɖdru/=ɖriw	一緒に食べる	eat together	I-1-59-(1)
ddu	下	under,below	I-1-10-(11)
ddu/dda/tdda	出掛ける	go	I-1-2-(2)
ɖɖuddin	=tɖudin 小指	little finger	I-2-11-(21)
ddwa	薬	medicine	I-1-10-(10)
ddwaz	シチュー	stew	I-1-3-(1)
ɖfr/ɖfar/ɖffr	後に続く	follow	I-1-24-(18)
d-χayann	～などなど、などあれこれ	and so on	I-1-4-(19)
ɖhar/=ttdhar	～だとわかる、～(のように)見える	be found	I-2-10-(7)
did	=d ～と一緒に	with	I-1-5-(14)
ɖiy/=ʈtay	抜く、引っ張る、連れて行く	pull out	I-1-26-(2)
dl/dla,dil/ddal	覆う	cover	I-1-7-(5)
dlhın	すぐに、直ちに	immediately	I-1-17-(17)
dmml	場所*kra n-dmml どこか(で)	place	I-1-4-(9)
ɖr/ɖra/ʈtar	落ちる	fall down	I-1-41-(7)
ɖrrf/=ttdrraf	おいしい味である	get delicious	I-1-38-(7)
ɖrru/ɖrra/ttdrru	具合が悪くなる、だめになる	go wrong	I-1-53-(8)
ɖru/=	=dru 共食する、一緒に食べる	eat together	I-1-26-(4)
dru/=ddriw	分配する、一緒に(何かをする)	share	I-1-5-(3)
drus/=	まれである、数が少ない	be few	I-2-6-(7)
ɖʂsa	笑う	laugh	I-2-12-(3)
dwaz	=ddwaz	stew	I-1-4-(1)
ɖwwr/=ttdwwar	丸い、丸くある、歩き回る、巻き付ける	be round	I-1-8-(10)
dxxm/	(煙草などを)吸う	smoke	I-1-54-(2)
ɖyyid	夜、晩	night	I-1-4-(5)
f	～について、関して、に対して(対抗して)	to,for	I-1-52-(7)
ʈɖdu/ʈɖda/ ttfɖdu	終える	finish	I-1-57-(4)
ʈɖr/=ttfɖar	朝食をとる、朝食を食べる	have breakfast	I-1-2-(4)
ffay,ffy/=tffy	不足する、欠けている	lack	I-1-52-(3)
ffaw/	透けている	be transparent	I-2-14-(13)
ffy/ffay,ffiy/tfy	出掛ける、外出する	go out	I-1-3-(11)
ffi/=ttffi	注ぐ	pour into	I-1-5-(15)
ffrfddi/=ttfrfddi	潰す、碎く	crash	I-1-20-(4)
fk/fka/akka	与える	give	I-1-2-(4)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
fl/=ffal	残す	leave,keep	I-2-2-(3)
fl/fla/iffi	昇る	rise	I-1-56-(3)
fll	=flla,f	on	I-1-16-(8)
flla	=f ～の上	on	I-1-7-(23)
flm/=film	保存する、残す	reserve	I-1-31-(6)
flulu/flula/ttfllulu	あふれ出る	overflow	I-1-39-(3)
frd/=ffrd	草を食む	graze	I-1-56-(6)
frh	喜ぶ	be glad	I-2-13-(3)
frn/=ffrn	ゴミを取り除く	remove trash	I-1-35-(3)
fsi/=fssi	溶かす、溶ける、ゆるめる	melt	I-1-21-(7)
fss/=ttfss	=fssa 黙る	keep silent	I-1-54-(4)
fssa/=tfssa	=fss 黙っている	keep silent	I-1-24-(16)
fssa/=ttfssa	=fss 黙る	keep silent	I-1-54-(4)
χ	(場所) に、 (場所や道具) で、 (時間や季節) に、 、 (場所) から	in,at	I-1-1-(5)
g/ga,gi/tgga	置く、 (容器などに物を) 入れる、 火にかける、 (料理を) 作る、 (物事や事物が) ～である、 (人が何らかの人物) である、 ～の材料である、 (ターバンを) 身につける、 (*ssbsi iga-t ukššud. パイプは木製だ。 ddbaliž ganin wi nnârt 銀製のプレスレット)	put on	I-1-2-(3)
χa	s.m.=χa-d,χwad これ、 こいつ	this	I-1-6-(25)
gabl/=ttgabal	片付ける	put in order	I-1-6-(20)
χad	=χa s.m.これ	this	I-1-7-(14)
χakud-ann	(はっきりと特定できないが漠然と承知している) ある時、 (いつとは言えないが行為を行う) ある時	then	I-1-5-(5)
χalli	s.m.関係代名詞 ～する人、 ～する物/pl.χilli	who,what	I-1-55-(1)
χalli	s.m.～する人、 物 (不特定の漠然とした人を指す wnnaとは異なり、 特定できる人や物) /pl.m.χilli	the man who,the thing that	I-2-16-(1)
χann	s.m.その男、 (前述の事柄や物を受けて) それ/ pl.m.χinn f.s.xtann/f.pl.xtinn	the man	I-1-5-(8)
χanštnna	=χanšt-nna (特定できない何か漠然とした) 何か と同様	some such thing	I-1-3-(10)
χar	～だけ	only	I-1-3-(17)
χar/qqur/ttyar	乾く、 乾いている	get dry	I-1-26-(6)
χar/qqur/ttiχar	固くある	be hard	I-1-42-(3)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
qarru	紙巻き煙草	cigarette	I-1-60
γ-assa	=γ-ass-a(d) 今日	today	I-1-38-(4)
γay	中性の指示詞。指示形容詞を後続し何か漠然としたまとまりを示す。	something	I-1-1-(5)
γayann	=γay+ann その物、その事、そうした事柄	the thing	I-1-4-(19)
γayd	=γay-ad この物、この事、こうした事柄	this thing,those things	I-1-1-(5)
γayd	=γayd *γayd ula γayd ああだこうだと	this or that	I-2-9-(11)
γaylli	=γay-lli (名前は分からぬが皆が知っている) 例の物、例の事	that thing,something said	I-1-42-(2)
γd	～も	also	I-1-5-(6)
ggust/	刺す	stick	I-1-31-(5)
ggut//	多い、多くある	many	I-1-11-(1)
γi	ここ	here	I-1-10-(10)
γi=/=γqay	取る、掴む	take,seize	I-1-9-(1)
gid	そこに、ここで、そこで	here	I-1-2-(2)
γid	=γi+ad ここで、ここに	here	I-1-57-(1)
gidn	=gid-n あれ、あちら	those	I-1-5-(4)
gig	=γ	on	I-2-12-(11)
gik	=gid	there	I-2-9-(11)
γika	=γik-ad このように、このようなこと	in this way	I-1-5-(16)
γikad	このようなこと *γikad ad iga 主語 ～の説明は以上だ。	like this,like this way	I-1-6-(46)
γikann	=γik+ann そのようなこと (物) 、 (前述の事柄を受けて) それは (～です) 、 (前述の説明を受けて) そんな風に	like that,in the way	I-1-6-(27)
γiklli	=γik-lli 例の通り、例のように、以上の通り	like something already said	I-1-6-(1)
γil	=γilad 今	now	I-1-10-(9)
γila	=γilad 今	now	I-1-55-(9)
γilad	今	now	I-1-1-(1)
γilli	pl.m./s.γalli ～する人、物 (不特定の漠然とした人を指すwnnaとは異なり、特定できる人や物)	the things that,the men who	I-1-17-(21)
γinn	=γwi+ann pl.m.それら (もの、人) 、その人たち/s.m.γwann,γann	the,that	I-1-3-(17)
γinn	そこで、その場で	there	I-1-57-(6)
γinna	=γi+nna そこで	there,at the place	I-1-56-(5)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
ŷli/ŷli/aŷqay	昇る、上がる、（湯気が）上がる、沸騰する、（女と）性交する、高さがある（上まである） * iŷli-d s-lyrb (話者はlyrbに居て、彼が田舎に居る時に) 彼が来る。	go up	I-1-3-(11)
ŷli/ŷli/aqqlay	=ŷli	go up	I-1-49-(2)
ŷma	兄、弟/pl.aytma	brother	I-1-24-(18)
gn/ŷna/ggan	寝る、眠る	go to bed	I-1-4-(3)
ŷn/ŷna/ggan	=gn 寝る、眠る	sleep	I-1-6-(5)
gnu/ŷna/gnnu	縫う	sew	I-2-1-(5)
gr	～の間 *ŷ gr-d～ ～と～の間に	between	I-1-11-(1)
ŷr//aqqr	=ŷr	call	I-2-14-(2)
ŷrs/ŷra/aqqra	呼ぶ、招く、声をかける	call	I-1-28-(1)
ŷrs/=ggqrs	食用のためにのどを切って殺す	butcher	I-1-25-(1)
ŷrs/ŷrş/qqarş	喉を切って殺す	throat-cut	I-1-61-(2)
ŷruru/ŷrura/tŷruru	よく焼けている	be cooked well	I-1-7-(7)
ŷuy=/ŷqay	=ŷi,ŷy	take,seize	I-1-62-(8)
ŷy=/ŷqay	=ŷi	take	I-1-15-(4)
ŷz	=ŷz		I-2-16-(1)
ŷz/ŷz/ŷqaz	掘る	sink	I-1-58-(7)
gž/ŷza/gžza	かじる	bite	I-1-47-(9)
ha	(人称代名詞目的格を後続して) ここに (そこに) ～がいる、ある *通常dまたはnnを接続する ha(t)id,ha(t)inn	here,there is(are)	I-1-6-(10)
hālt	状態/pl.haltn (行動を起こす主語が複数の場合) *f-hālt そのまま、何もせずにそのままで * zayd f-hālt 帰る	condition	I-1-22-(18)
hann	ha+nn (ある時間や場所に) なる、いる、ほら！ (そら！)	there is	I-1-6-(17)
hatinn	=ha+t+(i)nn	there is	I-1-6-(19)
ŷayl//tŷhayal	準備する、支度する	prepare	I-1-4-(15)
ŷd's	11時	eleven o'clock	I-1-57-(7)
hiyya	それは	she,it	I-1-51-(7)
ŷlb//ŷhlb	飲み込む	swallow	I-1-12-(7)
ŷllu/ŷlla/tŷllu	きょうしょくする	eat together	I-1-54-(2)
ŷlu/ŷla/tŷlu	良い、おいしい、甘い	be sweet,nice	I-1-7-(30)
hmmu/hmma	重要である	be important	I-1-52-(1)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
ḥmu/ḥma/tthmu	暑い	be hot	I-1-56-(6)
ḥrm=/	禁じられている (f~ ~にとって禁じられている)	be forbidden	I-1-61-(1)
ḥrru/ḥrra/tthrru	からい	be hot	I-1-42-(3)
ḥššm=/tthššam	尊敬する、敬意を払う	respect	I-1-60-(4)
ḥtižži(ḥtažža)/ ḥtažža/tthtižži	(前置詞を伴って) ~が必要である、	be necessary	I-1-3-(7)
ḥtta	(urと共に) ~すら~ない、全く~ない *ur~ḥtta yan ひとりも~ない *ula ḥtta walu 全く~ない	at all,nobody,no one	I-1-1-(4)
ḥuš=/tthuš	歌や踊りをする	sing and dance	I-1-55-(9)
ḥyyd=/tthyyad	取り除く	remove	I-1-26-(13)
ḥyyl=/tthyyal	(i~)~の準備を始める	begin to prepare	I-1-6-(21)
ḥzn=/tthzan	悲しませる	make regret	I-1-55-(10)
ḥzzm=/tthzzam	着飾る	dress up	I-2-15-(3)
ḥžžm=/tthžžam	割礼を施す (割礼を受ける対象は間接目的語)	circumcise	I-1-54
i	~に、に関して	to	I-1-3-(8)
i'ttar	pl./s.a'ttar 小間物商、小売商	retailer	I-2-6-(7)
i'yyaln	pl.若者	young man	I-1-60-(1)
ibawn	pl.m.ソラマメ	broad beans	i-1-10-(5)
ibnnay	pl.大工	carpenter	I-1-58-(8)
ibriyn	ピュレ	mash	I-1-13
ibrraniy	pl./s.abrraniy=abrrani	foreingners	I-1-24-(16)
ibrruyn	クスクス用の大麦粉	barley flour for couscous	I-1-15-(15)
ibždan	pl.尿 *skr ibždan しっこをする	urine	I-2-8-(2)
ibzgan	pl.安物のブレスレット	chieap bracelet	I-2-10-(15)
id	=d		I-1-3-(19)
id	いくつかの名詞の複数形を表す接辞		I-1-1-(4)
id'šrin	pl./s.'šrin	twenty	I-2-15-(15)
ida	場所/pl.idawn	place	I-1-13-(4)
idammn	pl.血	blood	I-1-61-(1)
idb'd n-twäl	=id-ib'd n-twäl 週に一回	once a week	I-1-25-(3)
id-bab	pl./s.bab 所有者	owner	I-1-1-(4)
idkmz	pl./s.kmz または kmž	thumb	I-2-13-(11)
id-lb'd n-twäl	しばしば、時々、時には	sometimes	I-1-7-(33)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
idmarn	pl.胸	breast	I-2-13-(13)
idmiṭru	pl./s.miṭru	metre	I-2-9-(4)
idmiya	=id-miya pl./s.miya 100	hundred	I-1-60-(11)
idqqi	粘土、陶器	clay	I-1-17-(19)
idrfan	pl./s.adrf 敵、畦	path,ridge	I-2-7-(6)
idṣ	(y-)眠り *awi yidṣ 眠気が来る *ay yidṣ 眠氣に襲われる *ww yidṣ 眠くなる	sleep	I-1-6-(32)
idudan	=iđudan pl./s/ađad 指	finger	I-2-3-(9)
iđuđan	pl./s.ađud 指	finger	I-1-40-(4)
idkan	m.田舎靴	shoes of Souss	I-2-1-(3)
idxali	pl./s.xali母方の叔母	aunt of mother's side	I-1-53-(5)
ifassn	pl.袖/s.afus	sleeve	I-2-2-(5)
ifif	篩うこと	sifting	I-1-15-(2)
ifnza	(y-)pl.m.脚、牛の足	feet	I-1-25-(2)
ifqqirn	(u-)pl./s.afqir 老人 f.tafqirt	old man	I-1-6-(9)
ifrawn	pl.葉	leaves	I-1-47-(2)
ifrkkš	(タマネギ、ピーマン、カブ、ニンニクの) 皮	peel	I-1-41-(1)
ifrxan	pl./s.afrux	boy	I-2-2-(9)
ifškan	pl.m.食器	utensil	I-1-14-(4)
ifsus/fssus	軽い、薄い、細くある	be lighat	I-1-6-(43)
ifullusn	(y-)pl./s.afullus	hen	I-1-28
ifulu	糸		I-2-16-(2)
ifx	頭、先/pl.ifxawn *ifx+人称代名詞所有格 ~自身	head	I-1-42-(1)
ifxawn	pl.ハシシュ/s.ifx	grass,kef	I-1-54-(2)
iγ	~する時	when	I-1-2-(1)
iγar	=iγ+ar	when	I-1-6-(32)
iğdađ	pl./s.ağđid 雀などの小鳥	sparrow and small bird	I-1-61-(3)
iggi	上 *γ-iggi 上方	up	I-1-7-(23)
ignzi	額	forehead	I-2-10-(5)
igr	=i+gr	on between	I-2-8-(2)
iγta	=iγ+ta	when yet	I-1-47-(4)
iγzif/γzzif/ttiγzif	長くある、長い	be long	I-1-40-(4)
igzul/âzzul/	短くある、短い	be short	I-2-2-(5)
iħbubn	pl./s.ahbub 粒、小片	small piece	I-1-46-(4)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
ihdumn	pl.m.服	clothes	I-2-1
ihtšan	(y-)pl./s.ahttuš	goat	I-1-27-(3)
iklan	刺繡	needlework	I-2-13-(6)
iklan	=iklan	needlework	I-2-14-(8)
ikmzan	指サック、手のひら当て	mittens	I-2-11-(20)
iknkarn	pl.骨	bone	I-1-24-(24)
iknna	(完了形文を後続して) ～したあとで、～するとすぐ	after	I-1-4-(18)
ikššad	pl.薪、木材/s.akššud	wood	I-1-6-(37)
iksud/=ttiksuđ	おそれがある、～を心配する	be afraid	I-1-35-(7)
ikulsmay	だま	insoluble	I-1-11-(9)
ilawan	pl.m.はらわた（胃と腸）、モツ	tripes	I-1-25-(2)
illi/illa, illi/ttili	存在する、ある、居る	there is	I-1-1-(3)
ilil/llul/ttilil	きれいになる	be clean	I-2-7-(10)
ilis/litas/ittilis	暗くある、暗い	be dark	I-2-14-(13)
iliwi	センマイ（牛の第三の胃）	bibie tripe	I-1-29-(1)
ilm	(y-)革	leather	I-2-11-(16)
ilmma	その後	after this	I-1-2-(4)
ils	舌/pl.ilsawn	tongue	I-1-20-(4)
imalass	一週間/pl.id-imalass	one week	I-1-21-(1)
imyur/mqqr/ ttimyur	大きくある、大きくなる、年をとっている	be big	I-1-24-(12)
imi	口/pl.imawn	mouth	I-1-7-(29)
imikk	(y-)少量の、少しの *imikk n~ 少量の～	a little	I-1-5-(2)
imil	だが、しかし	but	I-1-57-(1)
imim/mmim/ (imim)	おいしい、甘い	nice,sweet	I-1-7-(16)
imklawn	pl./s.imkli	lunch	I-1-3-(14)
imkli	昼食/pl.imklawn	lunch	I-1-3
imlul/mllul/ ttimlul/(umlil)	白くある	be white	I-1-7-(18)
immkn	～することができる *ur immkin ad~ ～することが出来ない	be able	I-1-11-(12)
imnsawn	pl./s.imnsi	evening meal	I-1-4-(18)
imnsi	夕食/pl.imnsawn	evening meal,supper	I-1-4
imsmar	pl./s.amsmr 焼き串	spits	I-1-26-(2)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
imttin	(-)死者		I-2-16
imuslmn	pl. イスラム教徒	muslim	I-1-61-(1)
imuššiwn	pl./s.amušš 猫	cat	I-1-61-(1)
imyar/=ttimyar	習慣がある、習わしである	have the habit	I-1-35-(6)
imzdan	(-)pl./s.imzdi 客	guest	I-1-14-(4)
imżżej	pl./s.amżżej 耳	ear	I-2-3-(6)
ingrat	(y-)～の間	betweenmamong	I-1-6-(26)
ini/nna/ttini	言う	say	I-1-1-(1)
inkan	(y-)三石かまど	oven	I-1-8-(11)
inn	=nn 話者の事物に対する距離や時間などの遠近を表す辞詞		I-1-6-(3)
inna	=aynna,yaynna ～なら何でも	anything that	I-1-25-(4)
inna	*inna-γ～～する（している）どんな場所（でも）	everywhere	I-1-57-(3)
innrfd	=inrfd 脾臓	spleen	I-1-29-(1)
inrzaf	pl./s.tarzzift 婚礼祝いの品 v.rzf	wedding present	I-2-14-(3)
iqqšušn	pl.アクセサリー	accessories	I-2-10-(15)
iraġġn	蒸気	steam	I-1-15-(8)
irdn	(y-)小麦	wheat	I-1-7-(12)
irgazn	pl./s.argaz	men	I-1-4-(9)
iri//ttiri	欲する、(ad+希求形動詞を後続して)～したい	want	I-1-6-(3)
irkan	(y-)pl.m.汚れ	dirt	I-1-42-(1)
irumiyn	pl.ヨーロッパの/s.arumiy	Europe	I-1-61-(5)
irwat	脱穀	threshing	I-1-58-(10)
irżżej	pl.ブローチ/s.arżżej	brooch	I-2-6-(9)
is	(名詞節を導く)～ということ	that	I-1-10-(24)
isdid/sdid/(usdid,usdad)	薄くある、細かくある	be thin,be very small	I-1-7-(6)
isfiw/sfaw/ttisfiw	麻薬中毒である、中毒になる	become dragger	I-1-60-(6)
isġġasn	pl./asġġas	year	I-1-59-(3)
išlhiyn	pl./s.ašlhi シルハ人	cheulh	I-1-24-(17)
isli	花婿/f.tislit(ts-)	bridegroom	I-2-14
islman	pl./s.aslm 魚	fish	I-1-34
ismum/smmum/ttismum	固くなる	get hard	I-1-7-(3)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
isnnann	(-)pl./s.asnnan トゲ	thorn	I-2-7-(13)
isrsl	鎖	chain	I-2-13-(13)
istif/stṭaf/ttisṭif	黒くある、黒い	be black	I-1-7-(19)
iṣṭif/stṭaf/ttiṣṭif	=istif	be black	I-2-6-(9)
istma	pl.f.姉妹/s.ultma	sisters	I-1-35-(2)
isusiyn	pl.スースの/s.asusi	Souss	I-1-1-(1)
iswa/	値がする	be in price	I-2-15-(7)
itti/utti/ttitti	剥がす	take off	I-1-35-(2)
iwa	ええそうです、そうさ	well,then	I-1-51-(5)
iwwrzan	pl./s.awrz	heel	I-2-14-(5)
iwžid/wžad/ ttiwžid	存在する、ある	be	I-1-18-(8)
ixddamn	pl./s. 労働者、雇い人	worker	I-1-57-(5)
ixsan	pl./s.iks 骨	bone	I-1-25-(2)
iy	1.s.m.f.=yyi 私に	to me	I-1-22-(12)
iydan	pl./s.aydi 犬	dog	I-1-61-(1)
izdar	下 *y-izdar 下方 *s-izdar 以下	down	I-1-7-(23)
izgirn	pl.雄牛	cattle	I-1-61-(2)
izgrn	牛	cow	I-1-53-(8)
izimr	羊	mutton	I-1-26-(1)
izur/zur/ (abnzaru)	厚くある、大きくある	be thick	I-1-7-(6)
izwiy/zğğay/ ttizwiy	赤くある	be red	I-1-45-(2)
ižan	part./v.žu	smelling sweet	I-1-5-(11)
k	2.s.m.君を/f.km	you	I-1-7-(10)
ķ	=k	you	I-1-10-(10)
ka	～だけ、まさに	only,just	I-1-3-(2)
kbr/	尊大である、横柄である *kbr f+人 人を馬鹿にする	behave haughtily	I-2-12-(11)
kif	*kif kif 同じだ *kif walu 何の役にも立たない	the same	I-1-10-(23)
kigan	各、おののの、多い、あらゆる *ur gid kigan.たいした作業ではない。	each,every	I-1-7-(14)
kilu	キロ	kilo	I-1-24-(1)
kirri/kkarra/ kkirri	裂ける、破ける	tear	I-2-7-(8)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
kk/kka/ttkka	(時間や日にちが) 過ぎる、経つ、(時を) 過ごす *kk-tt-inn かつて、昔	pass	I-1-17-(19)
kkrd/̄kkrd/kkr̄d	削り取る、こそげ取る	shave scrape	I-1-26-(14)
kk̄kr̄k̄r/=/tt̄kr̄kar	=kkurkur 沸騰する	boil	I-1-24-(7)
kkrz/̄krz/kkrz	耕す	cultivate	I-2-7-(1)
kk̄s/kks,kkis/ttks	取り除く、(靴や服を) 脱ぐ *kk̄s alkbuš i~ の皮をむく *kks ayu 離乳する	remove	I-1-5-(16)
kkurkur//ttkurkur	沸騰する	boil	I-1-10(6)
kkużt	m.四	four	I-1-33-(5)
kkużt̄	=kkużt	four	I-1-40-(2)
kl/̄kla/klla	日中の時間を過ごす	spend during daytime	I-1-56-(5)
klu/̄kla/klla	多色である、カラフルである	have various kinds of colors	I-2-6-(4)
kmi/̄kmi/kmmi	(煙草を) 吸う	smoke	I-1-6-(12)
km̄ml/=/ttkmmal	完成する、達成する	complete	I-1-53-(1)
kmż	親指/pl.idkmż	thumb	I-2-3-(9)
kra	誰か、何か、どこか *kra n~ ～など (何か)	someone,something	I-1-2-(4)
krađ	三/f.kraṭṭ	three	I-1-24-(19)
kraṭṭ	f./m.krađ	three	I-1-15-(10)
krd/ikrd/ikkrd	焦げ付く、こそげる、削り取る	burn on,scrape off	I-1-12-(8)
krf/̄krf/kkrf	縛る	bind	I-2-8-(3)
krigan	毎、各 *krigan+連結形名詞 それぞれの～ *kirgan ann 毎日	every	I-1-22-(15)
kr̄m/̄krm/̄kkrm	冷える、冷める	get cold	I-1-3-(18)
krz/̄krz/kkrz	種をまく	seed	I-1-37-(3)
ks/̄ksa/kssa	放牧する	pasture	I-1-56-(1)
kk̄sm/=,kk̄sim/̄kk̄sm	入る *kk̄sm f+女 女に性行為をする	enter	I-1-3-(2)
kudnna	～するとき *ar kudnna ～する時まで	when	I-1-3-(15)
kullši	すべて、全部 *d-kullši ～などすべて	all things	I-1-1-(5)
kullu	すべて、皆	all	I-1-7-(15)
kuržiṭ	ズッキーニ	courgette	I-1-48-(13)
kuyan	=ku+yan ひとつ (ひとり) ずつ	each one	I-1-10-(7)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
I	=n	of	I-1-2-(3)
I'ab=/ttl'ab	遊ぶ	play	I-1-4-(18)
I'afiyt	火 *g γ-iggi I-l'afiyt 火にかける	fire	I-1-7-(23)
I'ar	血縁集団	groupe of blood relation	I-1-22-(24)
I'id	祭り *I'id mqqurn 大祭 (羊祭)	fete	I-1-26-(1)
I'mmarṭ	お茶道具	tea set	I-1-22-(11)
I'n'ar	ミント	mint	I-1-22-(3)
I'rba	水曜市 (タフラウト)	ssuq on Wednesday in Tafrawt	I-1-60-(3)
I'šra	='šra+時	ten o'clock	I-1-10-(22)
I'žin	練り粉	dough	I-1-8-(22)
labdda	必ず	necessarily	I-1-54-(3)
laminyum	アルミニウム	aluminium	I-1-17-(13)
lamnyum	=laminyum	aluminium	I-2-3-(6)
Ias=/llas	羊の毛を刈る	cut wool off	I-1-26-(1)
Iaxbaṛ	情報	news	I-1-6-(26)
Iaẓ	空腹 *yay Iaẓ 空腹にさいなまれる、腹が減る	hungry	I-1-3-(4)
Ib'd	後の、他の *Ib'd n-twäl ある場合には	other,another	I-1-31-(12)
Ibanda	カセットテープ	cassette tape	I-1-7-(7)
Ibaṭaṭa	馬鈴薯	potato	I-1-24-(8)
Ibhaym	pl./s.Ibhimt	domestic animal	I-1-58-(10)
Ibhimt	家畜/pl.Ibhaym	domestic animal	I-1-61-(1)
Ibriq	コーヒーポット	coffee pot	I-1-23-(1)
Ibrrad	急須	teapot	I-1-22-(3)
Ibsis	麦焦がし	food parched barley flour	I-1-14
Ibuṭ	f.ゴム長靴	rubber boots	I-2-1-(6)
Ibzar	胡椒	pepper	I-1-51-(4)
Id=/Iddi	引っ張る	pull	I-1-8-(15)
Ifdi	コーランを5万回読経すること	reciting Koran	I-1-55-(7)
Ifḍur	朝食	breakfast	I-1-2
Ifiṣṭa	祝い事	festival	I-2-13-(4)
Iflus	お金	money	I-2-15-(7)
Ifrḥ	祝い事	celebration	I-1-8-(19)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
Iftl	紐、クスクス鍋の合わせ目に巻く紐	string	I-i-15-(8)
Ifuqiya	丈の長いポケットのある長シャツ（長袖、襟の留め紐はなく胸元が縦に大きく開いている）	long shirt	I-2-2-(4)
Ifuṭa	タオル	towel	I-1-59-(7)
Ifžr	夜明け	dawb	I-1-6-(36)
Igamila	深鍋	pot	I-1-57-(6)
Igarṛu	=garṛu	cigarette	I-1-60-(9)
Igarşun	下着のパンツ	briefs,pants	I-2-2-(11)
Iğdam	正面、前 *s-ığdam 将来に	face	I-1-1-(5)
Igr'a	カボチャ	pumpkin	I-1-48-(10)
Iɣṛb	大西洋岸の大都市（タンジエ、ラバト、サレ、カサブランカなど）	the Atlantic seaboard's cities	I-1-17-(1)
Iḥalt	f.状態 *ɣ-ḥalt-nns そのままの状態で	condition	I-1-10-(4)
Iḥažž	巡礼者	pilgrim	I-2-9-(15)
Iḥbib	牛乳	milk	I-1-23-(5)
Iḥbub	穀物	grain,cereal	I-1-10-(26)
Iḥimż	ひよこ豆	chick-peas	I-1-10-(5)
Iḥiżż	巡礼	pilgrimage	I-2-9-(14)
Iḥkak	pl./s.Iḥkk	can	I-1-49-(12)
Iḥkk	缶詰/pl.Iḥkak	can,canned	I-1-34
Iḥmra	赤い	red	I-1-48-(10)
Iḥnna	ヘンナ（ミソハギ科の低木。染料に用いる）	henna	I-2-8-(2)
Iḥrir	絹	silk	I-2-13-(6)
Iḥrr	辛み	hot taste	I-1-43-(6)
Iḥsum	pl.子ども達/s.ahšmi	children	I-1-1-(2)
Iḥzam	飾り v.ḥzzm	decoration	I-2-15-(3)
Iidam	乳製品、油類（フレッシュバター、バター、サラダ油など）	dairy products,some kinds of oil	I-1-3-(1)
Iiqamt	お茶に使うハーブ類、香草	herb	I-1-22-(3)
Iżzar	シーツ *iżzar n-ṛṛabi' 頭にかぶる大布	sheet	I-2-13-(6)
Ikamun	クミン	cuin	I-1-26-(3)
Ikas	コップ/pl.Ikisan	glass	I-1-57-(2)
Ikawatšu	ゴム	rubber	I-2-7-(9)
Ikḍ/=Ikḍ	こねる	knead	I-1-7-(2)
Iḥfn	シーツ、経帷子	shroud	I-2-9-(5)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
Ikfn	経帷子		I-2-16-(2)
Ikibr	生意気、尊大さ	haughtiness	I-2-12-(11)
Ikif	大麻	hashish	I-1-60
Ikifta	挽肉	minced meat	I-1-25-(7)
Ikisan	pl.グラス/s.Ikas	glass	I-1-22-(3)
Ik̄m/=Ik̄m	(時間が) 到来する、到着する *iγ ilkm şşif 夏になると	arrive	I-1-6-(4)
Ik̄m/Ikm/ttlkm	=Ik̄m	arrive	I-1-55-(3)
Ik̄mmiȳt	短刀	short sward	I-2-14-(4)
Ikttan	麻布		I-2-16-(2)
Il'ada	通常 *γ-il'ada 普通は	usual	I-1-24-(6)
Il̄a	引いて、除いて	except,subtractive	I-2-9-(4)
Ilaminyum	=laminyum アルミニウム	aluminium	I-1-17-(20)
Il̄i	先行詞が既知の場合に用いる関係代名詞		I-1-3-(14)
Il̄iy	～時に	when	I-1-60-(2)
Il̄ihuwwa	しかしながら	however	I-1-3-(7)
Il̄md	体	body	I-2-14-(8)
Il̄ubya	インゲン豆、ササゲ豆	cow-peas	I-1-38
Il̄ulu/Il̄ula/ttlulu	固まる	get solid	I-1-21-(1)
Il̄un	色	color	I-1-52-(7)
Il̄wiz	pl./s.talwizt	coin	I-2-13-(15)
Il̄wiz	pl.マリアテレサ金貨	coin	I-2-13-(15)
Im'dn	鉱物	mineral	I-1-10-(11)
Im'Il̄m	技術者、技能者、職人	skilled man	I-1-54-(1)
Im'ruf	供養	funeral	I-1-55-(3)
Im'sşrt	オリーブ油を搾る場所	place for pressing olives	I-1-49-(7)
Imadaq	味	taste	I-1-10-(6)
Imakan	場所	place	I-1-17-(18)
Imakina	機械、粉引き機械、粉引き機械のある場所	machine	I-1-15-(1)
Imarka	種類	kind	I-1-10-(3)
Imdint	pl.町、都会	city	I-1-48-(10)
Imyssl	手洗い用の道具	utensil for washing hands	I-1-59-(6)
Imgzz̄t	屠殺場	space for butcher	I-1-25-(1)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
Imida	ちゃぶ台、低いテーブル	low table	I-1-10-(8)
Imika	ビニール	vinyl	I-2-4-(3)
Imliḥ	=mliḥ	well	I-2-13-(1)
Imqla	フライパン	fry pan	I-1-44-(2)
Imqraž	ヤカン	kettle	I-1-22-(1)
Imraq	=ddwaz シチュー	stew	I-1-7-(8)
Imrf'	低いテーブル	low table	I-1-59-(4)
Imṛakš	マラケシュ	Marrakesh	I-2-6-(6)
Imržrt	バケツ>talmržlt	bucket	I-1-21-(3)
Imud'	村	village	I-1-53-(6)
Imus	ナイフ	knife	I-1-7-(4)
Imut	死	death	I-1-55-(10)
Imuṭur	モーター	motor	I-1-22-(19)
Imyiḍi	トイレ	toilette	I-2-5-(4)
Imžmmṛ	コンロ	charcoal cooker	I-1-22-(1)
Iqa'ida	やり方、使用法	method	I-1-48-(6)
Iqamiža	スポーツシャツ、ワイシャツ/pl.Iqwamž	sport shirt,shirt	I-2-1-(8)
Iqbr	墓		I-2-16-(2)
Iqbṭa	=lqbḍa 一握り、ひと包み	one handful	I-1-60-(11)
Iqfl	鍵、南京錠	key, padlock	I-2-15-(6)
Iqftan	カフタン（二枚重ねになった丈の長いドレス。前身頃の中央がウエストから裾まで切れている）	kaftan	I-2-13-(8)
Iqhawi	喫茶店	coffee shop	I-1-1-(2)
Iqhwa	コーヒー、喫茶店	coffee	I-1-2-(3)
Iqlm	ペニス	penis	I-1-62-(8)
Iqwwt	沢山の Iqwwt d-uzru 沢山の石	many	I-2-11-(6)
Is/Isa/Issa	着る	put on	I-2-1-(1)
Itn's	12時	twelve o'clock	I-1-57-(1'9)
Ityar	鳥	bird	I-1-61-(3)
Iuh/=ttluh	捨てる、投げる、（葉が）出る	throw	I-1-19-(1)
Iuqid	マッチ	match	I-1-60-(7)
Iuqt	f.時、時間、時期 *Iuqt imkli 正午、昼食の時間 *yat Iuqt 夜遅く	time	I-1-3-(12)
Iuzin	工場	factory	I-1-49-(14)
Iwħda	1時	one o'clock	I-1-57-(7)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
lxatṛ	*s-lxatṛ-nns それに応じて *s-lxatṛ そのままで、丁寧に、優しく	to its proper degree	I-1-24-(12)
l̥dmt	仕事、農繁期	work	I-1-2-(4)
lx̥ṛt	野菜、（野菜の生えている場所）菜園、クスクス用のスープ	vegetable, vegetable garden	I-1-6-(7)
l̥x̥rt	=lx̥ṛṛ 野菜	vegetable	I-1-3-(11)
lxir	物、事	thing	I-1-3-(10)
lxla	外	outside	I-1-3-(17)
lxll	酢	vinegar	I-1-46-(7)
lxnaši	pl./s.lxnša 袋	store bag	I-1-37-(4)
lxunt	布（羊毛ではない布地）、木綿	cotton	I-2-2-(8)
lxwatm	pl./s.lxatm 指輪	ring	I-2-3-(9)
l̥zam'	=l̥zm'a	Friday's market in Taslilt	I-2-6-(7)
l̥zid	新しい	new	I-1-39-(6)
l̥zib	ポケット	pocket	I-2-2-(5)
l̥zm'a	金曜市（タスリルト）	ssuq on Friday in Taslilt	I-1-60-(9)
l̥zyub	ポケット（二種ある。一般的な袋状のポケットと、袋はなくて手を入れる切れ目だけを指す場合とある）	pocket	I-2-6-(2)
ma	母、（母なるものから転じて実をつける）木	mother	I-1-45-(1)
ma	=mad	where	I-1-1-(2)
mad	（疑問詞）何、誰	what,who	I-1-6-(25)
mad	（関係副詞）～ところの者、物、事、場所	what,who	I-1-6-(26)
maf	=ma-f	why	I-1-42-(3)
ma-f	なぜ	why	I-1-10-(18)
manak	いかにして、どのようにして	how	I-1-3-(5)
mani	どこか（場所）	somewhere	I-1-4-(4)
mani	（関係副詞）する場所	where	I-1-6-(44)
mank(a)	どのようにして、どんな方法で	how	I-1-11-(2)
mar	=mad 関係副詞	what	I-2-11-(18)
mas	=疑問詞mad	what	I-1-10-(26)
mat	=ma 母	mother	I-1-6-(18)
matalan	たとえば	for example	I-1-24-(1)
maṭl/=ttmaṭal	時間が経つ	pass by	I-1-20-(8)
mddn	人びと	people	I-1-3-(1)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
mddu/mdda/ ttmddu	旅行する、帰省する	trip	I-2-2-(1)
mđi/=/mđđi	味見をする	try to taste	I-1-22-(7)
mđl/=/mđłł	埋める、埋葬する	bury	I-2-9-(7)
mggr	収穫する	harvest	I-2-11-(20)
mika	=lmika	vinyl	I-2-11-(12)
mini-žub	ミニスカート	miniskirt	I-2-12-(1)
miš	しかし	but	I-1-1-(5)
miṭru	メートル/pl.idmiṭru	metre	I-2-9-(4)
miyya	百/pl.idmiya	hundred	I-2-13-(1)
mladd	もし	if	I-1-24-(17)
milḥ	充分に、きちんとした	well,enough	I-1-7-(2)
mmyi/=/ttmγay	芽が出る	bud	I-1-37-(39)
mmi/=/ttmmi	押し込む、突っ込む	push into	I-2-7-(1)
mmt/mmut/ ttmttat	死ぬ	die	I-1-55
mn	で *mn b'd~ ~のあとで	at, on	I-1-15-(11)
mnšk	どのくらい、どれくらい		I-2-16-(1)
mqqar	たとえ～でも	even if	I-1-6-(35)
mraw	m.10/f.mrawt	etn	I-1-21-(6)
mrawt	f./m.mraw	etn	I-2-13-(1)
mun/man/ttmun	集まる	gather	I-1-5-(5)
mursl/=/ ttmurslu	味がない、まずい	be insipid	I-1-30-(5)
myir/imyar/ ttimyir	習慣がある、～に慣れ親しんでいる	be familiar	I-1-60-(2)
mžiy/imžiy/ mžziy/ttimžiy	小さくある、若くある	be small	I-1-1-(4)
n	～の	of	I-1-3-(2)
naqs/=/ttnaqas	減る、消える、減らす	decrease	I-1-15-(6)
nawl/=/ttnawal	(子どもの) 世話をする	take care	I-1-3-(16)
nawl/=/ttnawal	もてなす、接待する	treat	I-2-14-(1)
nd/nda/	揺さぶらせる	make shake	I-1-21-(3)
ndu/nda	搾乳する	milk	I-1-53-(3)
ny	殺す	kill	I-1-55-(10)
ngiri/ngara/ ttngiri	なしで済ます	do without	I-1-51-(6)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
nh	=nnh	our	I-1-1-(1)
niy	あるいは *yan kraṭṭ tglay niy kkuṣṭ 三、四個の卵	or	I-1-1-(3)
nišan	ちょうど、まさしく	just	I-1-7-(7)
nittni	=nttni	they	I-1-6-(29)
niw	1.s.m.f.人称代名詞所有格 私の	my	I-2-11-(2)
niyt	まさに	just	I-1-6-(31)
nkk	=nkkin	I	I-2-2-(2)
nkkin	1.s.m.f.私は	I	I-1-1-(1)
nkkni	1.pl.m.我々は f.nkknti/1.s.m.f.nkki	we	I-1-7-(6)
nkr/nkr/nkkr	起きる、(座っていた状態から)立ち上がる	get up	I-1-2-(1)
nn	話し手の事物に対する距離や時間などの遠近を表す辞詞/d		I-1-3-(2)
nnss	半分	half	I-1-3-(7)
nn'mt	贈り物	present,blessing	I-1-62-(4)
nna	関係代名詞 不特定の物や事柄を指す名詞が先行詞となる場合に用いる	that	I-1-17-(18)
nnabi	預言者	prophet	I-2-9-(1)
nnh	1.pl.m.f.我々の	our	I-1-1-(1)
nnk	2.s.m.君の/f.nnm	your	I-1-22-(13)
nnqrt	銀	silver	I-1-10-(12)
nnqrt	=nnqrt	silver	I-2-13-(8)
nns	3.s.m.f.彼の、彼女の、その/3.pl.m.nnsn, f.nnsnt	his,her,its	I-1-6-(10)
nnṣ	=nnss 半分	half	I-1-47-(12)
nnsn	3.pl.m.彼らの、それらの/s.nns	their	I-1-2-(4)
nnsnt	3.pl.f.彼女たちの、それらの/s.nns	their	I-1-4-(10)
nnss	半分	half	I-1-10-(22)
nqqr=/tnqqar	肩にかける	hang on shoulder	I-2-14-(4)
ns	=nns	her,its	I-1-49-(10)
nsn	=nnsn	their	I-1-4-(6)
nttan	=ntta 3.s.m.彼は、それは/pl.nttni	he,it	I-1-4-(4)
nttat	3.s.f.彼女は、それは/pl.nttni	she,it	I-1-3-(7)
nttni	3.pl.m.彼らは、それらは/s.ntta	they	I-1-2-(4)
nttni	3.pl.f.彼女たちは、それらは/s.nttat	they	I-1-4-(10)
nz/nza/nzza	売られている、売られる	be sold	I-1-7-(21)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
qiddi/qadda/ ttaiddi	満足する	satisfy	I-1-18-(6)
qli=/qqli	フライにする	fry	I-1-40-(3)
qqumu/qqama/ ttxumu	休む、残る	rest	I-1-7-(11)
qrrb=/ttqrrab	(時間が) 近づく、 (ad+動詞の希求形を伴って) まさに～しそうになる	be close	I-1-6-(16)
qššr=/ttqššar	皮を剥ぐ	peel	I-1-36-(3)
ra	=rad 未来形を導く小辞	will	I-1-1-(1)
rad	未来形を導く小辞	will	I-1-22-(1)
rag	=rad	will	I-1-7-(27)
rak	=rad 未来形を導く小辞。接続形の動詞を後続する	will	I-1-4-(3)
rak̄	=rak=rad	will	I-1-10-(10)
rar/rur/ttrara	戻す	return	I-1-15-(9)
rar/rur/ttrara	持って帰る	take back	I-2-2-(3)
rar/rur/ttrara	戻す、跳ね返す	return back	I-2-9-(13)
ras	=rad 未来形を導く小辞	will	I-1-1-(5)
rat	=rad	will	I-1-7-(32)
ray	=rad	will	I-2-11-(18)
rb'a	4分の1	one fourth	I-1-24-(22)
rb̄bi	=rb̄bi	Master, Allah	I-1-35-(6)
rb̄bi	主 (アッラー) *i-rb̄bi どうか (お願いします)	Allah	I-1-15-(19)
rbu'	rb'a 4分 (の1) *yan rbu' sa'a 十五分 (時間)	quarter	I-1-39-(4)
ry/rya/	熱くある	be hot	I-1-29-(5)
rkkd/	マリネにする、酢漬けにする	marinate	I-1-49-(14)
rm̄dan	断食月	ramadan	I-1-10-(23)
rmiy=/ttrmuy	疲れている	be tired	I-1-4-(18)
rrabi'	春	spring	I-2-13-(6)
rrabus	aqrab n-rrabus 鍵付きカバン	a kind of shoulder bag	I-2-15-(6)
rrg	地面	ground	I-1-49-(3)
rrihiyt	女性用の赤い色の田舎靴 (つま先は丸く、甲は革で覆われ、底の平らなスリッポン型。踵を潰して履く)	shoes of Souss	I-2-3-(10)
rrqab	女性用の田舎靴 (つま先は丸く、甲は革で覆われ、底の平らなスリッポン型。かかとを立てたり潰したりして履く)	shoes of Souss	I-2-11-(1)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
rruz	米	rice	I-1-10-(18)
rrz̤a	白色のターバン	white turban	I-2-2-(8)
rub	4分の1	quarter	I-2-9-(4)
rwaḥ	m.さあ、～しましょう/f.rwaḥmt	let's	I-1-22-(21)
rwi/=rğ̤i	混ぜる	mix	I-1-15-(5)
rwi/=ttrwi	混ぜる	mix	I-1-3-(8)
rxu/rxa/ttrxu	簡単である	be easy	I-1-17-(11)
ryal	リヤル（貨幣単位）1リヤル=20分の1ディルハム =5フランク/f.tarryalt	ryal	I-2-11-(12)
rz/rza/ttrz̤a	壊す、折る	break	I-1-22-(18)
rzf/=rzzf	婚礼の祝いを持参する	bring a wedding present	I-2-14-(3)
rzi/=rz̤i	留める、ブローチで押さえる	fasten with brooch	I-2-6-(9)
rzm/=ttnurz̤um	開いている、開ける	be open	I-1-22-(15)
s	3.s.m.f.それ、彼/pl.sn,snt	him,her,it	I-1-4-(8)
s	～で、～へ、～にとって	by,to	I-1-1-(2)
s luqt n-	～の時間まで（その時間がくるのを切望している様子）	until the time of	I-1-5-(4)
sa	m.七	seven	I-2-8-(7)
ṣafi	十分だ、仕舞いだ	sufficient,be over	I-1-3-(4)
ṣalaḍa	サラダ	salad	I-1-41-(5)
ṣalla	ṣalla ॥lāh 'alayhi wa-sallam. (預言者ムハンマドの名前を発した後に言う賛辞) 神が彼を祝福し平安ありますように	bless	I-2-9-(2)
sawl/=,siwl/ ssawal,sawal	話す	speak,talk	I-1-2-(1)
sb'in	七十	seventy	I-2-4-(3)
ṣb'u//ttiwšbba'	満腹である、満足である	be satisfied	I-1-10-(14)
ṣbah	朝、明日の朝 *lli-d ṣbah-ann その翌朝	morning	I-1-2-(1)
ṣbar//ttṣbar	長持ちする	wear well	I-2-11-(16)
ṣddq/=ttṣddaq	サダ力を行う、喜捨をする	give charity	I-1-55-(4)
ṣdfr/=ṣdffr	ṣfrの使役形（前置詞iを伴って）～のあとに続いてする	let follow	I-1-2-(3)
ṣdis	m.六	six	I-1-53-(4)
sfadd	*sfadd ilmma それから、そのあと	after then	I-1-21-(12)
ṣfu/ṣfa	きれいな、清潔な	be pure,clean	I-1-7-(18)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
sɣ/sxa/ssay	買う	buy	I-1-17-(13)
syl/ssyal	測る		I-2-1(1)
sğllb/	=sğllb	overturn	I-2-7-(6)
sğllb/=sğllab	ひっくり返す、かき混ぜる、掘り返す	overturn	I-1-7-(4)
sgurrum	剃る	shave	I-2-9-(17)
şhrrk/=şhrrak	かき混ぜる、かき回す	stir	I-1-5-(15)
şib/=ttşib	年老いでいる	be old	I-1-31-(9)
şid/şad/	残る	remain	I-1-18-(2)
sidi	敬称で～氏、～様	Sidi,Mr.	I-1-55-(10)
şiki	フランス語のchicが元であり、粹である、おしゃれである v.şyyk	be chic	I-2-15-(5)
sin	二つ、二=sinn/f.snat	two	I-1-7-(15)
sinit	(人称代名詞を後続して) ~二人、ふたつの～ *	two of	I-1-6-(11)
	sinit-sin 彼ら二人		
sis/=ttsis	沸く	boil	I-1-10-(2)
skiy	(文を後続して) ~までに	until	I-1-4-(2)
sskiws=/tskkiwis	座る、休む	sit	I-1-3-(15)
şkkl/	かかと(awwrz)を踏んで履く	wear treading heels	I-2-4-(3)
skr/=skir/skar	する、作る *uray iskar yat 何もすることがない	do,make	I-1-4-(2)
sksu	クスクス	couscous	I-1-3-(1),I-1-15
slawi	ズッキー	zucchini	I-1-48-(11)
sli/=	(前置詞d+人) 人の手や頬にキスをする	give a kiss,nestle close to	I-1-6-(18)
şlih/=	似合う *şlih i~ ~と合う	match well	I-1-47-(3)
şllil/=ttşllal	ゆすぐ	wash	I-1-22-(4)
smaqqı=/smuqqul	じろじろ見る、識別する	stare at	I-2-9-(11)
smmi/=ttsmma	名付ける	name	I-1-5-(4)
şmmır=/ttşmmar	靴を縫う	make shoe	I-2-11-(2)
smmus	五	five	I-1-21-(6)
smun/sman/ssmun	混ぜる、集める、合わせる、一緒に食べる	gather	I-1-7-(15)
smuqqul/smaqqı/smuqqul	調べる、よく見る	regard	I-1-24-(9)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
sn	3.pl.m. (前置詞に後続する人称代名詞) 彼ら、それら 3.pl.f. snt/3.s.m.f. s	them	I-1-6-(11)
snat	f.二、二つの/m.sinn	two	I-1-3-(6)
snkr/ssnkr̩/ssnkur	nkrの使役形 起こす	awake	I-1-2-(4)
snt	f.pl. (前置詞に後続する人称代名詞) 彼女たち、それら/s. s	her	I-1-59-(3)
šqqu/šqqa/ttšqqu	固くある、難しくある	be hard	I-1-26-(16)
sr	=s 人称代名詞を後続する場合はsr	to	I-1-4-(8)
šrk=/ttš	共有する *šrk d~ ~と共有する	share	I-1-49-(6)
srs=/sras,srus	置く	put	I-1-6-(28)
šš/šša/štta	食べる、ただれる	eat	I-1-3-(1)
šš'riya	細かくて短いパスタ	vermicelli,noodle	I-1-10-(1)
ssa't	時間/pl.ssway' *imikk n-ssa't ほんの少しの間	hour	I-1-3-(7)
şşabra	ナイロン	nylon	I-2-4-(2)
şşaka	煙草公社	public corporation of tobacco	I-1-60-(9)
ssaķi/ssaki/ssakay	下げる、下ろす	put down	I-1-12-(4)
şşaqta	スナップボタン	snap button	I-2-15-(6)
şşarma	aqrab n-şşarma サルマカバン	a kind of shoulder bag	I-2-15-(8)
şşbah	朝の礼拝	morning's worship	I-1-2-(2)
şşbaṭ	=ssubaṭ	shoes	I-2-11-(2)
ssbbat	短靴、普通の西洋靴	shoes	I-2-7-(5)
ssbsi	パイプ	pipe	I-1-60-(7)
ššdd	黄色か緑色のターバン	yellow or green turban	I-2-9-(2)
ssff,ssaff/issaff/issifif	篩にかける	sift	I-1-15-(2)
ssyliy/ssŷliy/ssaqqlay	上げる、持ち上げる	stand up	I-2-11-(5)
şşhur	断食中の夜明け前の食事の時間	mealtime before a dawn	I-1-10-(29)
şşiba	苦ヨモギ	wormwood	I-1-22-(3)
ssiba'	お七夜	seventh day after birth	I-1-26-(1)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
ssif	夏	summer	I-1-22-(16)
ssifd/ssfafd/ ssifid	送る	send	I-2-8-(8)
ssif/issiff/issifif	篩にかける	sift	I-1-14-(2)
ssinimat	映画館	cinema	I-1-1-(2)
ssird/ ssurd,ssird/ ssirid	洗う、洗濯に行く	wash	I-1-42-(1)
ssiwd/=/ssisid	怖がる、おびえる	fear	I-2-8-(4)
ssk̄kar	砂糖	sugar	I-1-22-(3)
šškšm/=/šškšam	入らせる、(中に)入れる	let enter	I-1-56-(7)
sskwila	学校	school	I-1-2-(4)
sslyay	近づける	close to	I-1-53-(3)
ssli/=/ssluy	炒る *sslint-tnt γ-uflun 鉄板で炒る	roast	I-1-5-(12)
sslukt	喪の式	ceremony of mourning	I-1-8-(19)
ssmdi/=/ssmday	集める、寄せ集める	gather	I-1-41-(7)
ssmid	出来合いのクスクス	instant couscous	I-1-16- (2),I-1-17
ssmr̄g/ssmrg/ ssmrag	良い味を出す、味を引き立てる	give a good taste	I-1-48-(6)
ssmr̄qi/=/ ssmr̄qiy	輝く	glitter	I-2-13-(18)
ssn/=,ssin/ttsn	知っている	know	I-1-1-(4)
ssndun/=/ssndu	揺さぶる	shake	I-1-21-(2)
ssndr/=/ssndar	濡らす、(水などが)ふりかかる	splash up	I-2-9-(18)
ssnfu/ssnfa/ ssnfu	休む、休息する	take a rest	I-1-57-(7)
ssnfu/ssnfa/ ttsnfu	休む、休息する	rest	I-1-4-(5)
ssngiddi	平らにならす	level	I-1-14-(3)
ssn̄kr/	始動させる	make start	I-1-22-(19)
ssns/	止める	stop	I-1-22-(20)
ssnu/ssnwa/ ssnwa	料理する	cook	I-1-10-(10)
ssnuđu/ssnuşa/ ssnuđu	包む	wrap	I-1-26-(3)
ssn̄za/=/	沐浴のときに陰部を洗う	wash the private parts on ablutions	I-1-62-(8)
ššqf	パイプの火皿	bowl of pipe	I-1-60-(7)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
ššr'	シャリーア *fk ššr' n-rbbi 神の許しを得る	Charia	I-1-53-(7)
ssrdil	イワシ、イワシの缶詰	sardine,canned sardines	I-1-34
ssrŷ/ssrŷ/ssrŷa	温める、沸かす	heat,rewarm	I-1-3-(18)
ssrkm/ssrkm/ ssrkam	柔らかくする	make tender	I-1-31-(9)
ssrksi	モロッコ靴 (かかとを潰して履く先のとがった革製の平らなスリッポン型。アラビア語方言ではバブーシュ、またはブルガと呼ばれる)	moroccan shoes	I-2-9-(14)
ssrs=/ssrus	=srs置く、(食事などを)出す	put	I-1-13-(3)
ssrwa/?	脱穀を頼む、脱穀させる	let thresh	I-1-58-(10)
ssrwal	ズボン、ズロース *ssrwal abldiy 伝統的なズボン(木綿。ニッカーボッカーズのように腿が膨らんでいる) *ssrwal arumiya スラックス、長ズボン	trousers	I-2-1-(3)
ssu/sswa/sswa	灌溉する、水をやる	irrigate	I-1-3-(11)
ssuffy=/ssuffy	出掛けさせる	let go out	I-1-55-(7)
ššumiz	ššumiz n-tguni ネグリジェ	negligee	I-2-4-(1)
ssumm=/ ssumum	乳を飲む	suckle	I-1-53-(6)
ssuq	市場	market	I-1-3-(11)
ssw/ssw/isswa	敷く、野菜をクスクスの上にのせる	spread	I-1-15-(11)
ssway'	pl./s.ssa't 時間	hour	I-1-3-(6)
ssxdm/ssxdam/	使う、用いる、役に立つ	use,be useful	I-1-17-(20)
syd	人物、人	Mr.	I-1-43-(8)
st	=tt	it,her	I-1-7-(5)
sti=/stti	選り分ける	sort	I-1-15-(3)
stu=/stuy	濾す	filter	I-1-21-(8)
stmmr=/ stummur	丸める	make round	I-1-21-(8)
su/swa/ssa	飲む	drink	I-1-2-(3)
sul	(未来文で)きっと、すでに、もう、まだ	surely,already,no longer	I-1-1-(5)
suq/isuq/ ttswwaq	市に行く	go to market	I-2-15-(15)
sutl=/ttsutul	巻く	the round	I-1-17-(12)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
swa	(iy-d+文 と共に用いて) ある場合は～ *swa niyt...niy uhu ～してもしなくとも同じだ、～しようと大したことではない *swaniyt ~niy~niy～ でも～でも同じことだ、どれでもいい *swa+人称代名詞+niyt ～のどれも同じだ	in case of,all the same,just the same	I-1-3-(2)
sxxn/=/ttsxxan	混ぜ合わす、漬けて食べる、浸して食べる	soak and eat	I-1-9-(4)
šyyk/=/ttšyyak	着飾る	dress up	I-2-15-(5)
t	3.s.m.彼を、それを/pl. tn	him,it	I-1-3-(18)
t	=d ～と	and	I-1-6-(10)
ta	(urと共に用いて) まだ～ない	not yet	I-1-6-(35)
taba	父方の叔母、年長の姉	aunt	I-1-6--(4)
tabaya	(tb-)煙草	tabac,leaf tabacco	I-1-60
taballayt	大麦粥	gruel	I-1-53-(2)
tabldiyt	f./m.abldiy *zziyt tabldiyt オリーブ油	Morocco,nation	I-1-12-(3)
tabrruyt	塊、一片、一部/pl.tibrray	piece	I-1-26-(5)
tad	=xtad	this one	I-2-14-(13)
tadawt	肩	shoulder	I-2-14-(3)
taddwangin	(td-)=tiddwanngin	earring	I-2-13-(20)
tadfi	味	taste	I-1-17-(20)
tadfi	=tadfi 味	taste	I-1-50-(5)
tadğğat	(td-)夕方、暁	evening	I-1-24-(4)
tađrşa	襟を留める紐	neck string	I-2-2-(10)
tadunt	脂、腹脂	kidney suet	I-1-29-(1)
tađuđt	羊毛	wool	I-2-1-(1)
tafanrut	(tf-)かまど	big oven	I-1-8-(17)
tafkka	死肉	impure food	I-1-61
tafqirt	(tf-)老婆/pl.tifqqirin	old women	I-1-6-(24)
tafrawt	(tf-)タフラウト (地名)	Tafrawt	I-1-7-(20)
tafruxt	少女/pl.tifrxin	girl	I-1-53-(7)
tafukt	太陽	sun	I-1-6-(16)
tafullust	f.雌鶏/pl.ifullusn(y-)	hen	I-1-28-(1)
tafunast	f.雌牛/pl.ti-in	cow	I-1-21-(1)
tagant	林、森/ pl.taganin	tress,forest	I-1-22-(16)
tađađt	(ta-)f.雌山羊/m.tiđiđtñ	goat	I-1-27
tađawsa	(ty-)物/pl.tiđawsin(ty-)	thing	I-1-3-(2)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
tagdurt	(tg-)クスクスの下鍋/pl.tiğdar	couscous down pot	I-1-9-(1)
tağğst	ベルト	belt	I-2-3-(4)
taȝnȝawt	(tȝ-)匙、木の匙/pl.tiȝnȝawin	spoon	I-1-5-(15)
tagrst	(tg-)冬	winter	I-2-1
tagrurt	中庭	court	I-1-28)-(10
tagššult	(tg-)山羊の革袋	milkskin	I-1-21-(2)
tagulla	(tg-)大麦粥	barly porridge	I-1-3-(1),I-1-9
taguri	pl.f.若葉	young leaves	I-1-19-(1)
tagust	壁から突き出た横棒	bar	I-1-21-(5)
taḥanut	(th-)雑貨屋 pl.tiḥuna(th-)	episserie	I-1-22-(12)
tahl=/ttahal	結婚する、結婚している	marry,be married	I-2-5-(3)
taḁfayt	(牛や山羊の) 乳	milk	I-1-10-(18)
taknabušt	ヘッドカチーフ、頭巾/pl.tiḁnbaš	handkerchief	I-2-3-(4)
takubiyt	(tk-)=tašddat	head band	I-2-3-(4)
taḁzin	午後、昼下がり、午後の礼拝	early afternoon,afternoons	I-1-5-(1)
tallayt	泥	mud	I-2-1-(6)
tallbrratt	小さい急須	small tea pot	I-1-22-(16)
tallksmumt	(tl-)レモン	lemon	I-1-29-(5)
tallunt	篩い	sieve	I-1-15-(2)
talmržlt	(tl-)バケツ	bucket	I-1-21-(1)
talwizin	pl./s.talwizt マリアテレサ金貨	coin	I-2-14-(12)
talwizt	(tl-)マリアテレサ金貨/pl.talwixin(tl-)	coin	I-2-13-(16)
talxša	ソラマメピュレ	mashed broad beans	I-1-36-(5)
talžužin	(tl-)こしょう	pepper	I-1-24-(7)
tam	八	eight	I-2-13-(16)
tama	側、そば	side	I-1-10-(8)
tamaṭašt	(tm-)トマト	tomato	I-1-24-(8)
tamazirt	(tm-)村、自分の田舎/pl.timizar	home village,country	I-1-1-(4)
tamyart	(tm-)女人、妻/ pl.tumyarin(tm-)	woman	I-1-3-(14)
tamgra	(tm-)収穫/pl.timgriein(tm-)*dar tmgra 収穫、 収穫する場所	harvest	I-1-3-(12)
tamȝra	婚礼	marriage	I-1-49-(13)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
tamlħaft	黒色の薄地の大布/pl.timlħafin	large black cloth	I-2-4-(2)
tammnt	蜂蜜	honey	I-1-5-(2)
tanbalin	pl./s.tanbalt ピン鍵付きのブレスレット	bracelet	I-2-13-(9)
tangult	/pl.tinġal	thin bred	I-1-7-(1)
tanut	穴、塞み/pl.tuna	hole	I-1-9-(3)
taqdimt	f./m.aqdim 古い	old	I-1-39-(6)
taqqayin	pl./s.taqqayt	date	I-1-10-(7)
taqqayt	ナツメヤシの実/pl.taqqayin	date	I-1-2-(3)
taqššabt	(tq-)女性用の丈の長いシャツ（長袖、胸元にボタン付きšbin、羊毛と木綿がある）/pl.tiqšbin	long shirt for women	
tarrubi't	砂糖容器？	container	I-1-22-(3)
tarryalt	f.リヤル（貨幣単位） 1リヤル=20分の1ディルハム=5フランク/m.ryal	riyal	I-1-22-(12)
tarumiyt	f./m.arumiy *zziyt tarumiyt サラダ油	European	I-1-20-(4)
tarwa	pl.子ども達	children	I-1-6-(29)
tarxsist	薄焼きパン（大麦粉か大麦粉と小麦粉またはトウモロコシ粉を混ぜた種を鉄板で焼いたパン。日常食）	thin bread	I-1-7-(1),I-1-8-(1)
tasa	肝臓	liver	I-1-26-(2)
tasbnit	ベール	veil	I-2-14-(8)
tašddat	(tš)頭に巻くバンド(紐) =takubiyt	band for head	I-2-3-(4)
tašddatt	=tašddat	band	I-2-10-(2)
tasddit	(ts-)巣	nest	I-1-28-(6)
tasga	(ts-)側、面、端、腋/pl.(ts-)tisġġin,tisgiwin *yat tsga 片側 *γ-tsga-yann d-xta(d)あちら側とこちら側を	side	I-1-7-(4)
tasila	(ts-)底	botton	I-1-12-(8)
tašišt	(tš-)パン籠/pl.tišištn	bread basket	I-1-7-(5)
tasksut	(ts-)クスクス鍋の上鍋	couscous upper pot	I-1-15-(6)
tašlħayt	シルハ語	tachelhit	I-1-11-(1)
tašlħiyt	(tš-)シルハ語	tachelhit	I-1-35-(5)
tasmŷrt	祝いの食べ物	feast	I-1-14-(5)
tasrdunt	(ts-)ラバ	mule	I-2-7-(4)
tasr̄gt	(ts-)蓋	cover	I-1-15-(8)
tassfift	小さいビーズの飾りがついたヘッドバンド	decorated head band	I-2-13-(17)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
tassirt	(ts-)タスリルト	Taslilt	I-2-6-(7)
tastayt	茶こし	filter,strainer	I-1-21-(8)
tasukt	(ts-)通り /p.tiswak(ts-)	street	I-1-1-(3)
tawkayt	(tw-)横隔膜の脂、網脂	diaphragm	I-1-26-(3)
tawnza	前髪	front hair	I-2-10-(5)
tawriyt	手綱	rein	I-2-7-(5)
tawtijt	骨なし肉	meat without bone	I-1-24-(24)
taxsayt	(tx-)カボチャ/pl.tixsayin	pumpkin	I-1-37-(1)
tayrza	(ty-)耕作	cultivation	I-1-34-(1)
tażalimt	タマネギ	onion	I-1-28-(2)
tażallit	祈り	prayer	I-2-9-(16)
tażbbaniyt	=tazlaft 器、椀/pl.-niyn	bol	I-1-10-(69)
tazgawt	(tz-)籠/pl.tizwigin	basket	I-1-57-(3)
tazlaft	素焼きの大皿/pl.ti-in	large dish	I-1-15-(4)
tażllabiyt	長い丈の上着 (フードがあり首もとから足首まで ファスナーがある)	juraba	I-2-12-(3)
taznbilt	(tx-)茶葉やミントを入れる容器	container	I-1-22-(3)
tazuri	(tx-)厚さ	thickness	I-1-7-(7)
tazzanin	pl./s.tazzant	baby	I-1-53-(8)
tazzant	赤ん坊/pl.tazzanin	baby	I-1-53
tazziyt	(tz)短刀、=lkm̄miyt	dagger	I-2-15
tflflt iħrran	唐辛子	capsicum,hot pepper	I-1-5-(14)
tġemma	pl./s.tigmmi	house	I-1-3-(14)
ti	f./m. wi ～のもの、～のそれ	thati of	I-1-21-(12)
tibrkuksin	粒、だま	small grain	I-1-11-(12)
tibrray	(tb-)pl./s.tabrruyt	little pieces	I-1-41-(3)
tibsist	大麦ピュレ	barley mash	I-1-12
tiċdarin	(tđ-)pl./s.taċċart 小さい足 diminutif aċċar	small foot	I-2-8-(2)
tiddwanngin	(tđ-)pl./s.taddwanngt イヤリング	earring	I-2-3-(6)
tifiyi	(tf)肉、肉料理	meat	I-1-6-(42)
tiflflt	胡椒/pl.tiflflin	pepper	I-1-43
tifnża	pl.蹄	hoofs	I-1-26-(15)
tifqqirin	pl./s.tafqirt	old women	I-1-22-(21)
tifrxin	pl./s.tafruxt 少女	girl	I-1-22-(22)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
tifskarin	pl.丸いくるみボタン/s.tafskart	button	I-2-6-(4)
tiyawzin	pl./s.tayawsa	things	I-1-47-(3)
tiyawsiwin	=tiyawzin pl./s.tayawsa	thing	I-1-51-(5)
tiyit�n	(ti-)pl./s.tayat� 山羊	goat	I-1-21-(11)
tiglay	(tg-)pl.睾丸/s.taglayt 鳥	egg	I-1-25-(3)
tiglayn	(tg-)=tiglay	eggs	I-1-26-(8)
tigmmi	(tg-)家/pl.ti�mma(tg-)	house	I-1-1-(3)
ti�ra�	pl.f.報酬、チップ	wage	I-1-22-(14)
tiyri	レッスン、学課	lesson	I-1-6-(7)
ri�rmin	pl.f.オリーブの種	seed of olives	I-1-49-(10)
ti�z�dal	pl.f.腎臓	kidney	I-1-25-(3)
ti�na	pl./s.ta�anut 店、格子模様	shop	I-2-13-(7)
ti�una	(th-)pl./s.ta�anut	shop	I-1-25-(1)
tikint	(tk-)鍋、大きな陶壺	pot	I-1-13-(1)
tikirrut	=tikrrut	pot	I-1-12-(1)
tikklit	回（おもに一回の意味に用いる。二回目とそれ以降はtwalを用いることが多い） *yat tkklit 一回 *s-yat tkklit 一度に、一回で、すぐに	time	I-1-15-(15)
ti�mmisin	pl./s.ta�mmist 端結び、結びこぶ (taknbu�tの布の端を結んでお金を入れる)	knot	I-2-15-(14)
ti�rmin	後ろ	back,behind	I-2-3-(4)
tikrrut	(tk-)鍋/pl.tikrrutin	pot	I-1-7-82)
tilintit	レンズ豆	lentil	I-1-10-(5)
tillubanin	pl./s.tallubant 黄色い琥珀（の首飾り）	amber	I-2-3-(7)
tillwaz	pl./s.talluzt アーモンド	almond	I-1-20-(1)
tilqqi	(tl-)パンの柔らかい部分	soft part of bread	I-1-53-(4)
tilxatmiwin	(tl-)pl.指輪/s.=lxatm	ring	I-2-10-(15)
timyilt	尾	tail	I-1-25-(5)
timizar	(tm-)pl.国/s.tamazirt	country	I-1-61-(5)
timkilt	(tm-)=timklt	bowl	I-1-18-(5)
timklt	(tm-)椀	bowl	I-1-5-(15)
timsilt	靴底	sole of shoes	I-2-1-(5)
timzgid	(tm-)モスク/pl.timzgadiwin,timzgidiwn(ti-)	mosque	I-1-1-(3)
tinsraf	布地、布きれ	a piece of cloth	I-2-8-(1)
tinwi	料理	dish	I-1-32-(4)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
tiqšbin	pl./s.taqššabt 女性用の丈の長いシャツ	long shirt of for women	I-2-3-(1)
tiqšbin	pl./s.taqššabt	long shirt	I-2-8-(7)
tiram	pl./s.tirmt	meal	I-1-57-(2)
tirgin	pl.f.炭	charcoal	I-1-22-(1)
tirkmin	pl.カブ/s.tarkkimt	turnip	I-1-19-(1)
tirmt	食事/pl.tiram	food,meal	I-1-1,I-1-6
tirufin	pl.f.ポップコーン	poped corn	I-1-35-(4)
tirumin	pl.都会の物	urban things	I-1-47-(10)
tisğğin	(ts-)pl./s.tasga	underarm	I-2-8-(4)
tiskrt	ニンニク	garlic	I-1-50
tislit	(ts-)花嫁	bride	I-2-14
tisngarin	pl./s.tasngart 皮をむいたトウモロコシ一本	maize	I-1-35-(2)
tisnt	(ti-)塩	salt	I-1-7-(2)
tiss	f./m.wiss 第～ *tiss kkużt (twal) 第4番目	the second,etc	I-1-15-(9)
tiwwudš	宵、日没の礼拝	sunset,sunset's worship	I-1-4-(15)
tiħħalın	(tiħħ-)ブローチの一種	one type of brooch	I-2-14-(6)
tixmirt	(tx-)イースト	yeast	I-1-7-(3)
tiyað	=ti+yaðnин 他の者達	others	I-1-22-(22)
tiyyidṣ	夜の礼拝、夕食時	night's worship	I-1-6-(21)
tiyzi	長さ	length	I-2-9-(4)
tiyzi	長さ		I-2-16-(1)
tizwigin	(tz-)pl./s.tazgawt 籠	basket	I-1-49-(4)
tmmara	苦労、大変さ	pain	I-1-7-(14)
tmmu/tmma	尽くる、なくなる	exhaust	I-1-26-(7)
tn	3.pl.m.彼らを、それらを/3.s.m. t	them	I-1-5-(4)
tny	1.pl.m.f. (親族名称に付く人称代名詞) 我々の =nnny/単数形はない	our	I-1-1-(1)
tnna	s.f./pl.tinna 先行詞を含む関係詞。既出でない人物、不特定の人を表す場合に用いる～する(女の)人	a woman who	I-2-10-(2)
tnt	3.pl.f.彼女たちを、それらを/3.f. tt	them	I-1-5-(13)
ṭrakṭur	=ṭrakṭuraṭ	tractor	I-2-7-(4)
ṭrakṭuṛaṭ	トラクター	tractor	I-2-7-(3)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
trryal	f.=tarryalt	ryal	I-2-13-(1)
truh/=t̄ruh	(太陽が) 沈む	set down	I-1-6-(16)
t̄sabunt	石けん	savon	I-1-59-(7)
tsn	3.pl.m. (親族名称に付く人称代名詞) 彼らの、それらの =nnsn 3.pl.f. tsnt/3.s.m. s	their	I-1-6-(5)
tsnt	3.pl.f. (親族名称に付く人称代名詞) 彼女らの、それらの =nnsnt 3.pl.f. tsnt/3.s.m. s	their	I-1-35-(2)
tsswurt	靴底	sole	I-2-11-(18)
tt	3.s.f.彼女を、それを/3.pl.f. tnt	it,her	I-1-2-(3)
t̄tabi'iya	性質、特質	character	I-1-24-(23)
t̄talb	コーラン学校の先生	teacher of Coran school	I-1-54-(2)
t̄tašrun	左官?鳶?家大工の親方?	plasterer	I-1-58-(8)
ttawyras	喉を切って殺される	be throat-cut	I-1-61-(2)
ttaw̄ram	禁じる、禁じている	fobid	I-1-61-(2)
t̄tažin	(料理名) タジーン (素焼きの鍋で作る)	tazin	I-1-17-(20)
t̄tbla	脚の付いた円盆、小卓	round small tray	I-1-22-(3)
t̄tb̄sil	皿/pl.t̄bašl	dish	I-1-9-(3)
t̄tf/t̄taf	持っている (恒久的な所有) 、所有する	have,own	I-1-24-(23)
tt̄gi=/	取られる、捕らえられている	be taken	I-2-1-(6)
tt̄gy	=tt̄gi	be taken	I-2-13-(13)
t̄thmira	レッドペッパー、パプリカ	ground pepper	I-1-24-(7)
t̄thtiya	部屋着	housedress	I-2-4-(1)
tt̄igal	綿と麻の混紡	cotton and hemp	I-2-13-(1)
ttiw'sar (習慣形)	潰す、圧搾する	compress	I-1-49-(11)
ttiwgnu/ttiwgna	縫われる passif. gnu	be sewed	I-2-6-(9)
ttiwskr/ttiwskr/ttiwskir	製造されている、作られている passif. skr	be produced	I-1-17-(1)
tt̄qašr	pl.靴下	socks	I-2-1-(3)
t̄tr̄bus	レース織りの帽子	lace cap	I-2-9-(17)
t̄tr̄kuyat	pl.セーター/s.t̄tr̄ku	sweater	I-2-2-(2)
t̄ts/t̄taš/t̄t̄ts	眠る	sleep	I-2-8-(4)
ttu=/tttu	忘れる	forget	I-1-53-(5)
ttubit	木綿	cotton	I-2-1-(3)
ttubiyt	=ttubit 木綿	cotton	I-2-2-(5)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
tuddrt	生活	life	I-1-1
tudit	フレッシュバター	fresh butter	I-1-21-(3)
tufdilt	白パン (売り物のような白いパン)	white bread	I-1-7- (17),I-1-8-(5)
tumyarın	(tm-)pl.女達/s.tamŷart	women	I-1-1-(2)
tumžin	(tm-)pl.f.大麦	barley	I-1-5-(13)
turin	f.pl.肺	lungs	I-1-28-(1)
turrut	大きさ、幅	width	I-2-9-(4)
turziyin	pl.サンダル	sandal	I-2-2-(7)
tuşṭift	f./m.uşṭif 黒い	black	J-2-10-(2)
tuzzumt	真ん中	middle,center	I-1-3-(5)
twal	順番、回 *tiss snat twal 2番目、2回目 *f-snāt twal 二等分に *γ-twala-nns その代わりに	time,turn	I-1-15-(10)
ṭwil	長い	long	I-2-7-(13)
u	～と	and	I-1-10-(22)
uḍḍa/=tudda	沐浴する	perform one's ablution	I-1-2-(1)
udi	バター	fresh butter	I-1-5-(2)
udm	(w-)顔	face	I-2-14-(8)
uhayk	白色の薄地の綿の大布	white cotton cloth	I-2-14-(12)
uhu	いいえ、違う	no	I-1-3-(7)
uhu/uḥa	災いが襲いかかる、悪い習慣をつける	have the bad habit	I-1-60-(4)
ūka	それから、その次に *ad ūkan+接続形 ～するとすぐ	later,then	I-1-2-(4)
ul	(w-)心臓	heart	I-1-26-(2)
ula	(urと共に) ～もまた (ない) *ula ḥtta walu 全く～ない	nor	I-1-1-(2)
ulli	(w-)羊と山羊類	sheep and goats	I-1-24-(24)
ultma	(u-)pl.姉妹	sisters	I-1-11-(12)
umlil	白い v.imlul	white	I-2-6-(8)
ur	(darと共に) 持たない、ない、(yatと共に) ひとつも～ない	not	I-1-1-(2)
uray	=否定のur+習慣形を導く小辞ar(=ay)		I-1-3-(14)
urd	=ur+d ～ではない	not	I-1-16-(2)
urta	=ur+ta まだ～ない、全く～ない	not at all	I-1-47-(5)
urti	(w-)菜園	kitchen garden	I-1-22-(16)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
usi	(w-)懷/pl.usawn	bosom	I-2-15-(14)
ussan	(w-)pl./s.ass	days	I-1-24-(3)
ussx/=ttwssax	汚れる、汚くなる	get dirty	I-2-7-(10)
ut/=kkit	打つ、叩く、スライスする	beat	I-1-16-(9)
uxlaş	充分に、足りる、全然	fully,sufficient	I-1-3-(3)
użwięn	=iżwięn v.iżwię	red	I-2-3-(10)
uzzal	(w-)鉄	iron	I-1-19-(12)
w	=n	of	I-1-3-(5)
wađan	*ayyur w-wađan 一ヶ月	one month	I-1-26-(7)
waħdu	ひとつの、～だけ *waħdu+人称代名詞目的格 ～だけ waħdu-tnt 彼女たちだけ	only,one of	I-1-7-(14)
wahiyya	それはこれ (です)	and this	I-1-6-(24)
walu	*ur~ula htta walu ～は絶対しない、～なんて決してしない	not at all	I-1-7-(23)
wawzvit	おやつ	light snack,tea time's meal	I-1-5
wazig	運搬	carrying	I-1-61-(1)
wdu/wda/ttudu	十分である、満足する	be sufficient	I-1-35-(9)
wi	m./f.ti *wi n ～の物、人	one's own	I-1-7-(12)
wis	=wiss 第～ (序数を表す) /f.tiss	second,third,etc.	I-1-53-(2)
wnnta	s.m.=γwa-nna/pl.m.winna 先行詞を含む先行詞。 (特定できないがある) 男の人 f.m.tnna f.pl.tinna	a man who	I-1-20-(1)
wury	=awwry	gold	I-2-14-(12)
wurŷ	=awwry	gold	I-2-13-(8)
ww/wwa,nwa/tnnewwa	料理ができあがる、料理される、煮える (焼ける) 、熟す	be cooked	I-1-3-(5)
xdm/xdm/ttxddam	働く	work	I-1-6-(35)
xizzu	ニンジン	carrot	I-1-24-(8)
ħl̥id/=,xliđ/itħxlađ	混ぜる	mix	I-1-7-(13)
xl̥t	=ħl̥id	mix	I-1-13-(4)
xrb/ħrb/xxrb	爪でひっかく、搔きむしる	scratch	I-2-8-(5)
xšn/=ttiħšin	無礼である、失礼だ	be rude	I-1-62-(2)
xṣr/=xṣr	腐る	rot	I-1-20-(8)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
xşşa/=,zşşi/	必要とする、ixşşa+人称代名詞目的格+ad 希求形動詞 人にとって～する必要がある	need	I-1-3-(6)
xta	=xtad	this	I-1-41-(6)
xtad	s.f.これは、様子や事柄など(lħalt,tayawsaを受けて)、これ/pl.xtid s.m.ŷad *ŷikad at tga xtad n～～については以上だ。/pl.f.xtid s.m.ŷad	this	I-1-6-(27)
xtann	=xta+ann s.f.それは、それ/pl.f.xtinn s.m.ŷann *xtann ad igan～～というものはそういうものだ(xtadを参照)	it	I-1-5-(4)
xtid	pl.f./s.xtad	those	I-1-47-(15)
xtilli	pl./x.xta-lli (前述の、既知の) 例の物、例の事	the things,one's	I-1-47-(5)
xtinn	=xti+ann pl.f.その女達、その物/s.m.xtann	they	I-1-5-(5)
xwu/ŷwa	空である	be empty	I-1-35-(10)
y	=n	of	I-1-4-(21)
y	=i	to	I-1-6-(31)
y	=yan	one	I-1-49-(2)
yadlli	昔、かつて	long time ago	I-1-17-(19)
yaðnin	別の、他の、再度の	another,some other	I-1-3-(2)
yallah	神に感謝あれ	bless Allah	I-1-1-(3)
yan	m.ひとつの一/f.yat *yan snat+名詞の複数形 いくらかの～	one	I-1-10-(8)
yann	=ann	that	I-1-3-(13)
yas	=as	to him	I-2-11-(2)
yasn	=asn	to them	I-1-24-(4)
yat	f./m.yan ひとつの一 *ur tgi yat.何の価値もない。 *ur~yat あり得ない、考えられないことだ。	one	I-1-3-(14)
yirn	pl./s.ayyur	month	I-2-8-(7)
yum	日	day	I-1-55-(7)
z'ma	つまり、いわば	I mean to say	I-1-7-(7)
zayd/zuyd/ttzay(y)ad	付け加える、加える、(別の香道を)起こす *zayd f-ħaltn 変える	add	I-1-6-(22)
žbd=/žbud	引っ張る	pull	I-1-49-(8)
zbzg	=zzbzg	make swell	I-1-17-(18)
żd/żda/żżad	挽く	grind	I-1-5-(12)
żġġayn	=żġġayn v.izwiż	be red	I-1-48-(10)
zgzaw/=	緑になる、青くある	be green	I-1-35-(1)

単語	和訳	英訳	原文該当箇所
zikk	早く、朝早く	early morning	I-1-2-(1)
zikk̄	=zikk	early morning	I-1-6-(37)
žmm'=/ttžmma	おしゃべりする	talk	I-1-4-(9)
žmmd//	粘る、ねばねばする	be sticky	I-1-11-(10)
zri/zzri/zzruy	(時間が) 過ぎる、通過する、流し込む	pass	I-1-6-(21)
zu/zwa/	乾いている	be dry	I-1-16-(6)
zund	～のように	such like	I-1-8-(14)
zwi=/zğgi	落とす	let fall down	I-1-49-(1)
zwur/zwar/zggur	最初である、始まりである	start,begin	I-1-53-(1)
żall/żżall/ttzalla	祈る	pray	I-1-2-(2)
żżaluq	錫	tin	I-1-7-(23)
zzbl	ゴミ	trash	I-1-35-(2)
zzbzg=/zzbzag	膨らませる、膨張させる、ふやかす	make swell	I-1-17-(1)
żżğ/żżg/ttzg	乳を搾る	milk	I-1-21-(1)
żżi=/ttżżi	元気になる	get well	I-1-54-(6)
zzif	彩色のスカーフ	colorful scarf	I-2-4-(5)
zzigiz/zzuğaz/zzigiz	歩く	walk	I-2-1-(5)
zziyad	付け加えること v.zayd	addition	I-1-6-(22)
zziyt	油	oil	I-1-9-(3)
zzytun	f.s.オリーブ	olives	I-1-49
zzizwiż	赤くする、赤色にする	make red	I-1-52-(7)
żżld	皮革	leather	I-2-1-(5)
zzlf=/zzluf	あぶる	broil	I-1-26-(14)
żłm=/żłum	殻をむく、ゴミを取り除く	remove eggshell	I-1-28-(7)
zznz/zznz/zznza	売る、売っている	sell	I-1-7-(21)
zzrb	*s-zzrb 素早く	quickly	I-1-41-(6)
zzri=/zzruy	通過させる	let pass	I-1-3-(4)
żżu/żża/tżżu	よい香りがする	smell sweet	I-1-5-(11)
żżud=/ittżwad	嫉妬して見つめる、邪視のまなざしを向ける	eye jealously	I-2-9-(10)